

TV
アニメ

モブサイコ100

キャラクターとか公式ガイド

URA SUNDAY COMICS
SPECIAL

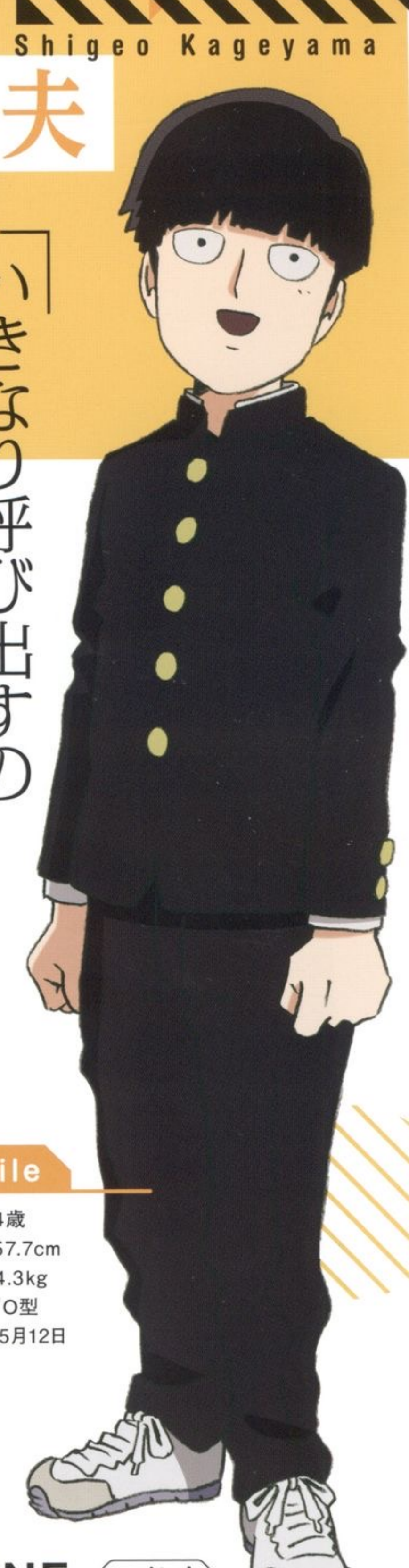
Shigeo Kageyama

影山茂夫

CV：伊藤節生

周囲からは名前の茂夫を音読みした「モブ」と呼ばれている、塩中学校に通う中学2年生。一見どこにでもいそうな冴えない少年だが、実はとてつもない超能力をもつ。たびたび暴走する自分の力に危険性を感じており、生きていくうえで不要とも考えている。霊幻新隆を師匠と呼び、彼の下で超能力のコントロールを学ぼうと除霊のアルバイトをしている。

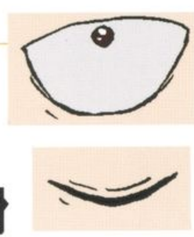
「いきなり呼び出すのやめてくださいって」

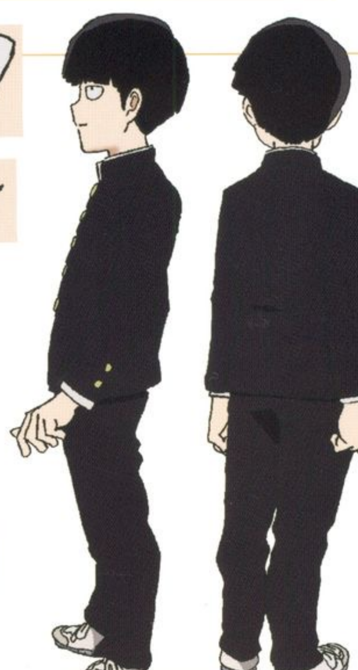




表情集

力の暴走を防ぐため、常に感情にブレーキをかけているせいか無表情。場の空気を読むのが苦手で、のんびりした性格。





全身

おかっぱ頭が特徴で、眉毛が常に隠れている。同い年の男子よりも身長は低めで運動が苦手。しかし部活での特訓を経て少しずつたくましくなっている。



Profile

- 年齢／14歳
- 身長／157.7cm
- 体重／44.3kg
- 血液型／O型
- 誕生日／5月12日

監督・立川 譲 コメント

描くという意味では、もしかしたら一番難しいキャラクターなのかもしれないですね。例えば、笑顔の時に口角を上げすぎるとニヤニヤしているようで、モブっぽくなくなっちゃうんです。表情にちょっとした遊びを入れるだけで、少し方向性がふわっとしてきちゃうキャラクターかなと思います。性格は1期と2期を経てどんどん変化しましたが、人に対する優しさといったモブらしいところは変わらないように、最終回にはまたいつものモブらしくなるように気をつけました。最初は見ていてもどかしさもありましたが、すごく好きな性格です。

原作者・ONE コメント

ビジュアルに関しては、主人公なので絵的に描きやすいこと、
そして少しだけカッコ悪いことを意識しました。カッコ悪い人物がかっこいい行動を取ったときにこそ本当にかっこよく見えるので。
しかし連載してしばらく経つと「かわいい」とのリアクションが聞こえてくるようになりました。庇護欲を掻き立てる一面があるのでしょうか、予想外でした。
作者に無いピュアさを持たせたかったのでキャラが固まるまでは何かを腐したり、人間性を落とすようなギャグを極力排除してました。しかし原作1話で霊幻に「あんた本当に霊能力者か?」とあんた呼びをしています。

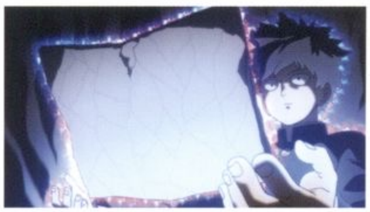
All About モブ

生まれついての超能力者

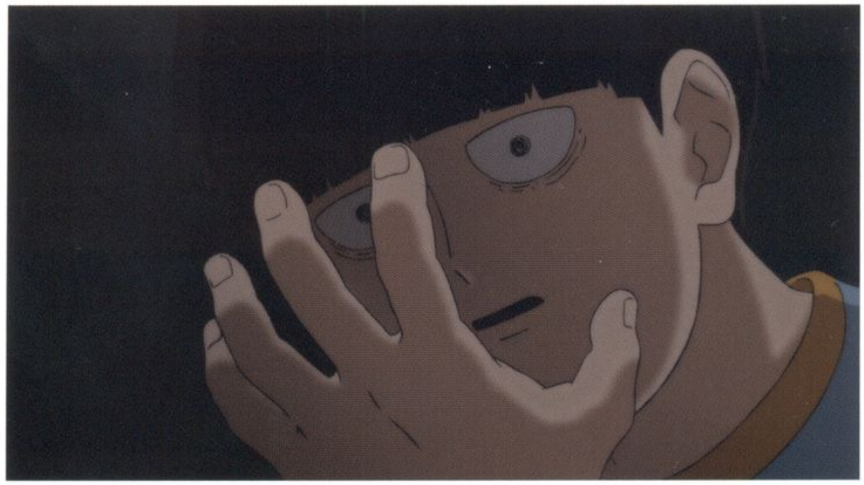
物心ついた頃から超能力に目覚めていたモブ。だけど超能力ではツボミの気を引けないと知ってからは、無意識に自分から力を見せることを避けていた。それでも「霊とか相談所」での除霊アルバイトや同じ超能力者達との出会いを経て、次第に変化が見えるように。



我を見失い、テルを叩きのめしてしまったことに落ち込むモブ。霊幻はそんなモブに救われた人々のことを思い出させ、元気づける。



破り捨てられたエミの小説を集め復元する。自分の気持ちを大事にするという決意とともに、モブは珍しく自分から超能力を使った。



何も悪さをしていない霊を除霊したくないと感じたモブは、その感情に任せたら自分が依頼人を傷つけてしまうかもしれないことに気づき葛藤する。

自分を変えるんだ!

モブは幼馴染のツボミにずっと片思いをしている。でも学校のアイドルでもある彼女はモブに見向きもしない。超能力しか取り柄のない自分を変えたい、そう決意した彼が入部したのはなんと肉体改造部！ 憧れの筋肉にはまだ遠いが、部活はモブの心に自信を与えていく。



女装して潜入した女子校で、見事除霊に成功するモブ。しかし悪霊の「日々を満喫しているか」という問いに言葉を詰まらせてしまう。



運動が苦手なモブにとって、中学生離れした肉体をもつ武蔵達に追いつくのはかなり厳しい！ 貧血で倒れることもしばしば……。



マラソン大会で上位に入賞できたら、ツボミに告白する！ そう決意して他の生徒を抜かしていくモブ。その姿をツボミもしっかりと見ていた。

???%

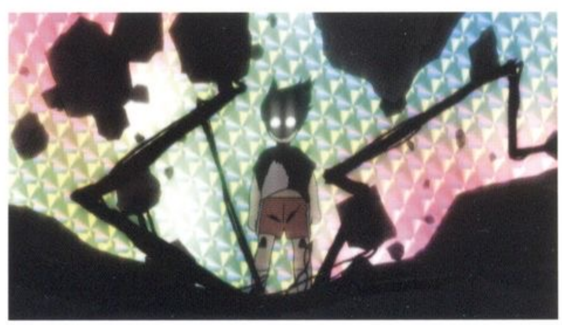
普段は抑圧されているモブの感情が、ストレスなどの要因であふれ出すと、それにともなって超能力も強大になる。何より危険なのはモブが意識を失った時で、力が体を動かし、無差別に人を攻撃してしまう。その度にモブは後悔し、思い悩むことに。



幼い頃、高校生達に絡まれ気絶したモブ。次に目を覚ました時には、頭から血を流してうめく律の姿がそこにはあった。



「笑え」「空気を読め」という感情の押しつけに怒りが爆発。霊体モードになったエクボに強烈な一撃を食らわせる。



テルのエネルギーだけでなく、大気中のエネルギーすら吸収していくモブ。意識を失ったまま、学校全体を破壊してしまう。

MOBPSYCHO ONEHUNDRED

Teruki Hanazawa

花沢輝気

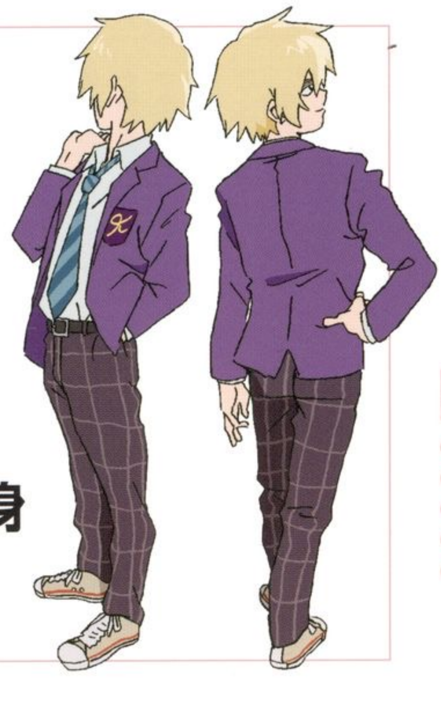
CV：松岡禎丞

黒酢中学校に通う中学2年生。周囲からは「テル」と呼ばれている。モブと同じように生まれながらの超能力者で、他の人間は凡人だと見下していた。超能力を駆使して黒酢中学校の裏番となり、充実した青春を過ごしていたが、モブに出会ったことでそのもくろみは崩れ去る。モブに敗北してからは心を入れ替え、仲間として協力するように。



表情集　優しげな雰囲気のイケメン。負けず嫌いの努力家で、超能力で負けてしまうと熱を出すほど。





全身

黒酢中学校の制服。テルはオシャレなスニーカーを履いている。

「僕に負けて勉強するといいよ」



Profile

- 年齢／14歳
- 身長／161.4cm
- 体重／47.7kg
- 血液型／A型
- 誕生日／4月13日

監督・立川 譲 コメント

1期の時から描くのを楽しみにしていたキャラでした。4話で初めて敵の超能力者として登場して、モブと力を激突させて、初めてモブが???%にもなって、この作品の初めてをもっていったキャラです。落ち武者も頭頂部150%も人気だし、1期の時は笑いを提供してくれました（笑）。でも力があるので、2期でも出てくると安心感があって、頼もしい一面はずっとありましたね。敵が仲間になるっていう王道展開の中でも一番ぐっとくるキャラです。自分から動いて戦ってくれるので、超能力アクションものとしての見所もよく作ってくれていますね。

原作者・ONE コメント

なんでもありなキャラで、話を展開させるうえでも頼りになります。
一度、落ちるところまで落ちたと思ったら改心して再登場して、でもカツラ重ねすぎてて見てられなくて、アニメで観た時はどうしてテルばかりこんな目に…慈悲は無いのかと。ファッションセンスもすごいことになってしまっているし、身を挺して『モブサイコ』を盛り上げてくれた功労者だと思います。僕は好きです。

理想的な青春?

テルは物心ついた頃から超能力を上手く利用し、勉強でもスポーツでもトップに立ち続けてきた。一方、数年前から【爪】に狙われ、そのせいもあってかテルは中学生でありながら一人暮らしをしている。まさに物語の主人公のような環境に置かれ、彼の世界は優秀な自分一人だけで完結していた。


放課後は女子生徒とデートしていたテル。鬼瓦を倒した後、涼しい顔で女子にメールを送っているが、実はかなり文面が痛い。


【爪】による襲撃を一人で退けたテル。周りに頼れる大人もいなかったのと同時に、うぬぼれを正してくれる人もいなかった。


助けを求める枝野を殴り倒したテル。争いを避けて帰ろうとする肉体改造部に対しても、自身の優位性を示すために力をぶつける。

圧倒的敗北

超能力をもった自分は“特別”だと信じて止まなかったテル。だが、超能力をもちながら、その力を使おうとしないモブによって、その考えが覆されてしまう。テルはなんとしてでも自分の生き方の正当性を証明しようと、暴力に走ってしまい……。


初めて出会った同年代の超能力者。仲良くしようとするモブに対して、テルは天敵の登場を警戒する。


泣いても謝ってもモブの力はとどまることがない。ありえない光景に晒され、テルは自分が凡人なのだと悟った。

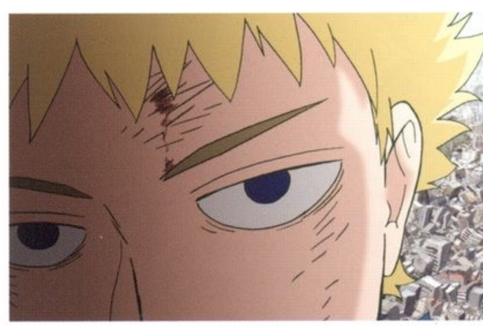

ボロボロな自分を見て走り去っていく枝野達と、モブを心配する肉体改造部の面々。どちらが正しかったのかは一目瞭然だった。

心強い味方に

自分は特別でもなんでもない、という事実をテルは痛いほど知った。思い上がりを恥じた彼は、他人を見下すことをやめ、星野達を特訓しながら自分の超能力を磨いていく。そして、モブと出会う前の自分のように、超能力に溺れている人間に出会ったら、今度はテルがたしなめるようになった。


カツラを被って、モブの前に再登場。髪形への恨みごとを言うこともなく、テルは律が暴れていることをモブに知らせる。

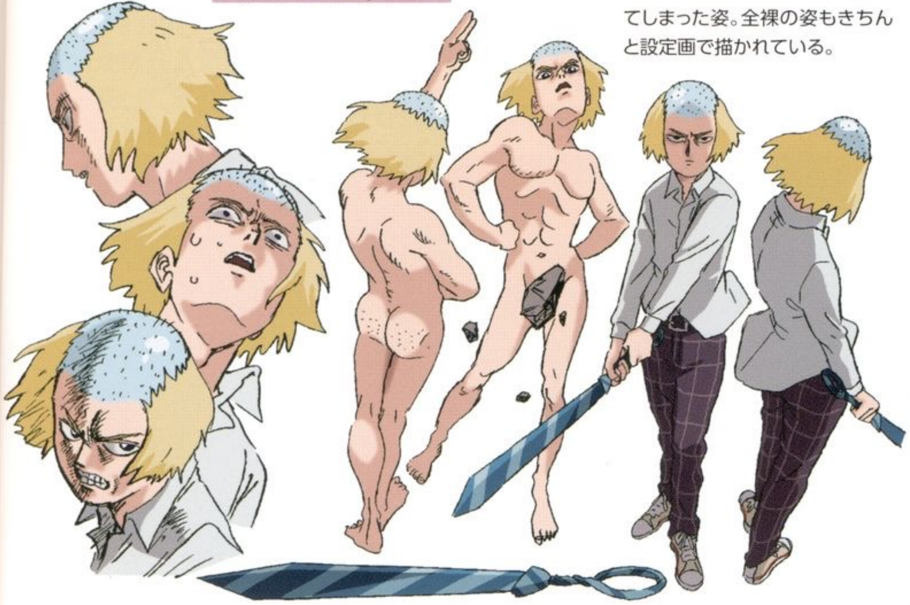

攻めてきた【爪】本部の人間を軽く返り討ち。さらに拷問にかける。実力もさることながら、肝の据わり方も大人顔負け。


島崎に袋叩きにされながら、テルは持ち前の観察眼で弱点を見抜いていた。そして自分の力にのぼせている島崎を見て、勝利を確信する。

テルの衣装設定

落ち武者

モブに向けて飛ばした包丁が返されて、髪の毛がきれいに刈られてしまった姿。全裸の姿もきちんと設定画で描かれている。





通学カバン

黒酢中学校指定の通学カバン。塩中学校の通学カバンと違って、さくらんぼのようなマークが入っている。



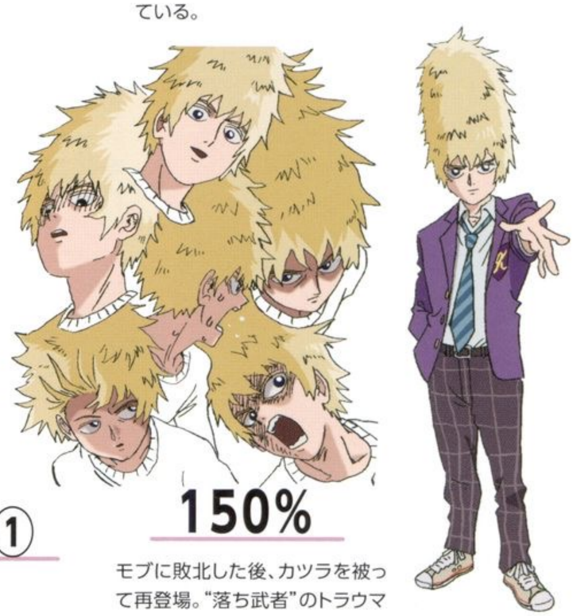
私服②

ピンク色のトレーナーの下に着ていたカットソー。モブ達と呪いの部屋に閉じ込められた後はこの服装に。クマのマークがチャームポイント。



私服①

ちょっと派手なピンク色のトレーナー。弟を救おうとするモブに協力し、ともに【爪】第7支部に乗り込んだ時の格好。



150%

モブに敗北した後、カツラを被って再登場。"落ち武者"のトラウマからか、かなりのボリュームとなっている。



ジャージ

派手な色合いで裾が短めのジャージ。先走って一人で島崎に挑むも敗北し、そのショックで高熱が出た。



2期

2期での新衣装。家で洗濯物を取り込んでいる時に【爪】本部の襲撃に遭い、そのまま戦闘になった。

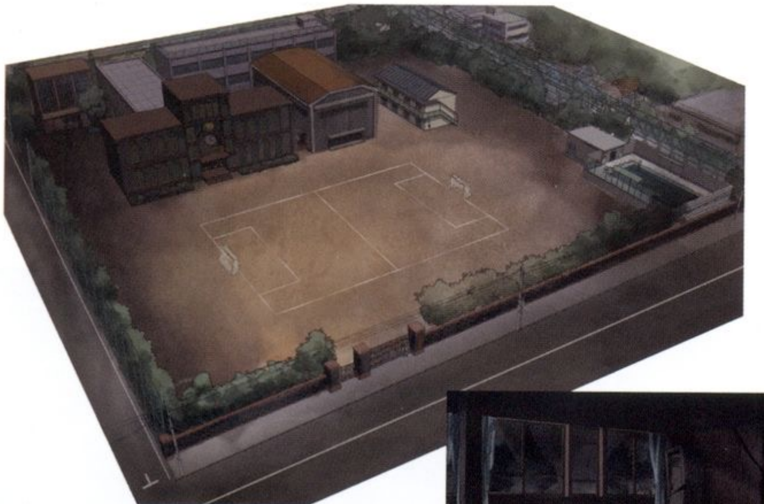




さわやか

桜威との戦闘の最中、彼の攻撃でカツラが切り落とされた姿。桜威からも「そのほうがいい」と言われたが、本人はピンと来ていなかった。

黒酢中学校



テルが通っている中学校。グラウンド脇には更衣室を備えたクラブハウスも建てられている。テルとの戦いで我を見失ったモブによって校舎一帯が破壊され、後に再構築されたことはテルしか知らない。





テルの攻撃の影響が、窓ガラスやロッカーにまで及んでいる。モブの体は教室の壁をぶち抜いて家庭科室まで飛ばされた。

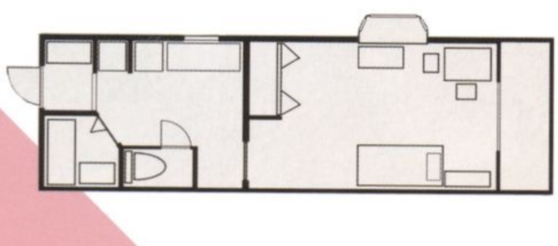
テルの家



テルが暮らしているアパート。朝食を用意し、洗濯もするなど家事をきちんとこなしている。【爪】の脅威もあって家族と離れて暮らすテルだが、両親はここ数年海外で仕事をしているため、実家に帰ることもないようだ。



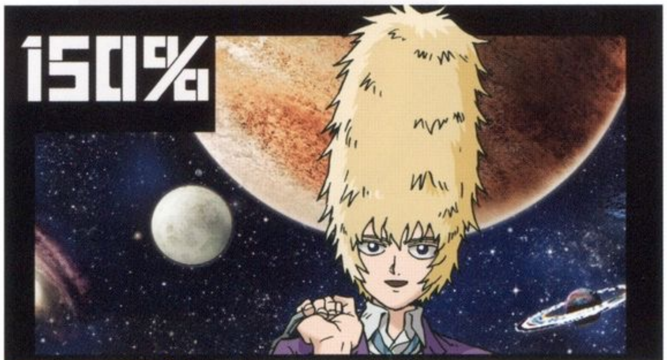
学生の一人暮らしだが、広々とした良い部屋に住んでいる。ベッド脇の棚に飾られているのは、父からの海外土産らしい。





テル 頭頂部 150%

髪の毛とともにやり直すことになったテルの青春。ファンの目を奪い続けたそんなテルの毛髪の変遷をまとめた。



▶▼原作よりも増量気味な150%。この髪形で登校しているらしい。女子のパンチラには目もくれず、カツラがずれることを恐れていた。



USUAL



▲倒れている不良達をガラクタ呼ばわりし、心配する様子はかけらもない。この後に何が起きるかなんて露知らず、あらゆる人間を下に見ていた。

CHANGE

▼戦闘の最中、桜威の攻撃によって髪を切られ、良い感じのオシャレヘアーに！　以降はこの髪形を続けている。



0%



▲包丁が返ってきてしまい、頭頂部のみ根元から刈り取られ、見事な落ち武者スタイルに。刃物を人に向けてはいけません。





イケメンなテル

元々テルは社交的なようで、性別や年齢差など関係なしに、誰とでも物怖じすることなく接している。カツラを被った後は、髪の毛のインパクトが強すぎてかすんでしまっていたが、超能力に頼らなくてもモテるらしく、モブにとってはうらやましい？



▲『REIGEN』でテルと再会したトメ。髪の変化のはげしさに気をとられ、顔立ちの良さなどは今も目に入っていない様子。



◀特訓を重ねていくうちに仲良くなったのか、黒崎とはメアド交換していたことが判明！　星野と朝日は腑に落ちない……。

超能力・徹底解説

もって生まれた超能力と頭のキレで、多彩な技を操ってきたテル。彼が披露した超能力をご覧あれ!

ダンシング戦法

自分の体に念動力を当て、念動推進力による高速移動で敵に近づき、サイコ掌打で吹き飛ばすという、テルが独自に編み出した戦い方。でもモブの前ではただの「変な動き」に。







念動力



テレキネシスやサイコキネシスとも言う。体を直接使わずに、念じただけで物体を動かしたり、宙に浮かせたりすることができる。テルは力が入ると内股になりがち。

念動タックル



念動推進力で高速移動し、全体重を乗せたタックルを食らわせる。さすがのモブも吹き飛んだが、ダメージはなかった。

物質強化





超能力を通してネクタイを強化し、刀に変形させた。込められた殺意によって強い攻撃力を発揮した。

空鞭（からぶち）

寺蛇が編み出した技で、超能力を応用して作りあげた鞭（むち）で攻撃する。寺蛇の様子を見て覚えたらしく、すぐに使いこなしていた。





パイロキネシス



超能力を用いて、火の無いところから発火現象を起こす力。テルは【爪】第7支部で宮蛾輪と戦った時に覚えた。

重層バリア

通常テルが張っているバリアを、上からさらにいくつも重ねた新技。通常の敵であればバリアを破れず攻めあぐねてしまうが、島崎には通用しなかった。



モブの衣装設定



体育着

学校指定の体育着は学年問わず一律のデザイン。体育の授業や部活だけでなく、モブはマラソン大会の練習でも使用。

通学カバン

塩中学校指定の通学用のカバン。モブは特にストラップなどもつけず、そのままで持ち歩いている。





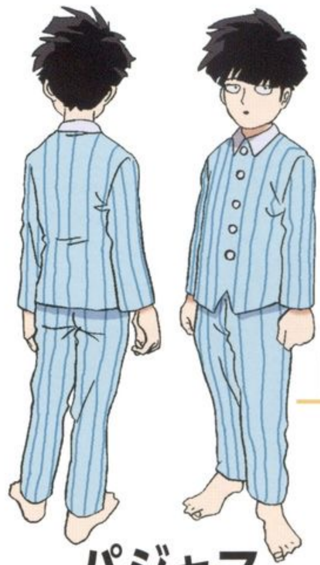
携帯電話

モブが使っている携帯電話。もっぱら霊幻からの呼び出し専用と化している。待ち受け画面は実は霊幻とお揃い。



女装

霊幻とともに披露した女装姿。さすがに無理があるとモブも思ったが、モブだけ女子校への潜入に成功した。古風なおさげがポイント。



パジャマ

モブが愛用しているパジャマ。原作では無地だが、アニメでは青いストライプ柄に。爆発している寝ぐせがかわいい。



ヒトデ

部屋着にしているTシャツ。ヒトデを描いたデザインだが、ぱっと見では星の絵柄にも見える。



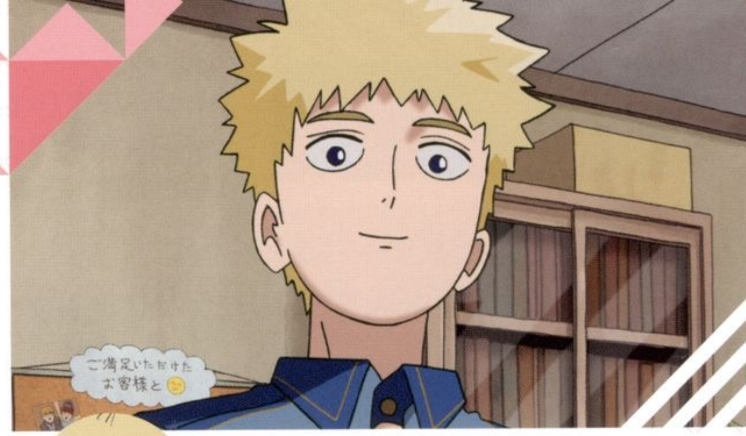
100%

抑圧された感情とともに超能力があふれ出している状態。髪の毛が逆立ち、いつもと違って冷めきった眼差しに。

子供の頃①



小学生の頃のモブ。すでに自分の能力に悩みを抱えており、思い切って霊幻に相談した時にもこの服を着ている。





花沢輝気役

松岡禎丞 インタビュー

欲望のまま増長してしまった人間だからこそテルの気持ちはわかる

――『モブサイコ100』を最初に読まれた時の印象はいかがでしたか。

小学生から中学生、高校生はもちろん、大人やおじいちゃんおばあちゃんでもわかるような、とても感情移入ができる作品だなというのがいちばんの印象です。主人公のモブが名前のとおり……というのも変な言い方ですけど(笑)、超能力を使えるという点を除けばどこにでもいるような男の子で、とてもリアルな世界観の中に、超能力の設定が上手く融合しているんですよね。結果、モブが大暴走を引き起こしたり、いかに強大な超能力をもっているかがわかっても、あくまで一人の人間なんだと感じられる。だから見ていて、「自分も明日もがんばろう」と思える。そんな作品かなと思っています。

――徳川役も演じられていますが、まずオファーがあったのはテルですか?

テルでした。そのあとで徳川役も演じることになって、話が来た時はびっくりしましたね。

――出番は徳川のほうが先ですよね。

ええ。音響監督の若林(和弘)さんに「テル、あとで出てくるんだけど、今日は徳川で」と言われた時は、どうしようかと思いました(笑)。ただ、テルとはまったく違う人間だったので、そこは演じやすかったかなと。役の人間性の系統が似ていたら、きっと混乱したでしょうね。

――それぞれの役の印象は?

徳川はやっぱり生徒会の一員という設定が大きいですね。何かを正していく立場で、その中でも、ある意味で指導に厳しい人間。だから脳感電波部に、はっきり「ここ、廃部ね」と言える。自分だったら、あんなにバッサリは行けないです。「生徒会にもね、いろいろ、ちょっと事情があるんで、引いてもらったりできないですかね……?」みたいな(笑)。あんなにはっきり言えるのは、徳川の人間性ですよね。ただ、冷徹な人間かと思えば、遊佐(浩二)さんが演じられていた神室の暴走に対して「本当にお前これでいいのか」という説得もできるような、熱い部分もあったりして、そういうところが『モブサイコ100』という作品の人間くささが表われているところですよね。心の奥底から湧き出るように、ちゃんと役と同化できてしゃべれる。

――ではテルはいかがでしょう。

ある意味「中二病」と言いますか、誰もが「自分にこんな力があったら、どう行動するだろう?」と思う部分を、体現した人間だったと思うんですよ。なんの変哲もない「花沢輝気」という一人の人間が、思い通りの世界を作れるような、強大な超能力を一気にもってしまったらどうなるのか。そこから本能のまま、欲望のまま増長しちゃった人間というか。だからこそ、テルの気持ちはわかるんですよね。アフレコからかなり経った今でも覚えているんですけど、1期でテルが言ったセリフで「筋トレ? 勉強? そんなのは凡人にやらせとけ!」というのがありましたよね。こんなことを言うと変に思われるかもしれないですけど、自分の中でも「そうだな」って思ってしまう部分があったんです。「松岡禎丞」という人間は別に優れているわけでもないですし、超能力があるわけでもないですが、もし超能力ではないにしても、ものすごい力を手にしたら、テルのように思い上がっていたかもしれない。そんな、なり得たかもしれない自分の像として、誰が見ても考えていただけるような役だったんじゃないかなと。やっぱり上には上がいたという、そのあとの展開もまた生々しい(笑)。「僕から見れば凡人だもの」って、モブがテルに投げかけるセリフがまた強烈ですよね。

――1期の5話ですね。

そして「黙れー!」と言いながら、モブの首を絞めていく。そのシーンでの一連のセリフは、本当に、役の気持ちに自分の想いも乗せて、心の底から言わせていただいたセリフですね。「人はそう簡単に変われないんだよ」とか。それって、モブに対して言っているんですけど、テル自身にも返ってきているんですよ。言えば言うほど、鏡に向かって言っているようなところがある。そういった面では本当に、テルも人間くさいと思います。

モブと比べればテルはどこまでいっても凡人

――音響監督とのやりとりはありましたか?

それがあんまりなかったんです。若林さんとはお付き合いが長いこともあるのかもしれませんが、「松岡が思うようにやっちゃって」と。お芝居に関してもあんまり、「もうちょっとこうやって」というのは言われなかったような。

――テルはスカした人として登場して、5話で感情をむき出しにして、そのあとは毒気が抜ける。そんなテルの振れ幅の演じ分けはどう考えていましたか。

初登場時のテルは自分の理想の人間、自分の中にある偶像を演じていたんだと思うんです。で、化けの皮が剥がれて、そのあとはいい意味で、本来のテルに戻ったの

誰もがヒーローであり、誰もが凡人である、ということが実感できる作品

かなと僕は理解していました。

――髪と一緒にさっぱりした、と(笑)。

　包丁であんなに綺麗に剃れるかってくらい、本当に綺麗に剃れていて驚きました(笑)。そのあとの髪型は、何かコンプレックスがあってのことなんでしょうけど、どうなのか。桜威に斬られたあとも、本人はいい感じになったとわかってないし(笑)。

――2期は演じていていかがでした?

　仲間や、自分が育ててきた超能力者達との関係など、それまでと違った要素が出てきますけど、ただやっぱり、モブという主役の力が大きすぎますからね。テルがいろいろなことをやっても「自分にはこんなことしかできないのか……」と思ってしまう感じでした。逆に、モブにできないことは僕にできる。たとえば頭の回転の良さを活かして戦うことができるんだ……みたいなことは、できていたところもありましたが。

――でもテルはモブと対になる、ライバルキャラ的な面もありませんか?

　いやいや、ライバルにはなり得ないです。モブと比べたら、テルはどこまでいっても凡人なんですよ。他のキャラクターもそうです。モブが自分を超人だと思っていなくて、がんばっている姿が描かれるから、その差が際立ちませんけど。モブのがんばる姿があって、まわりのみんなもがんばっているから、一人一人の人生で、一人一人がそれぞれ主役なんだなと感じられる。そういう感覚が、『モブサイコ100』という作品に表われているんじゃないかと思います。誰もがヒーローであり、誰もが凡人である、ということが実感できる作品ですよね。

エクボは名言製造機

――2期全体の印象はいかがですか?

　2期は1期よりもさらに心に刺さる描写が多かったです。個人に降りかかる厄災としては、ちょっと生々しすぎるような描写もあって。1期と同じで、共感できるところもたくさんあるんですが、モブの気持ちになって考えると、これはもう胸に来すぎるな、というシーンも多かったです。いや、もう、皆さんも観ていて思ったでしょうけど、特に8話で家が燃えた時とか、ヤバかったですよね。あれが人形じゃなくて、本当にモブの家族だったらどうなってたのか。下手をしたらモブが、世界を滅ぼしていたかもしれない。

――全編で好きなシーンはありますか。

　いちばんはやっぱりモブに言われた「僕から見れば凡人だもの」になりますね。その他だとテルが鬼瓦に向かって言う「凡人は悲しいな」。あのあたりのセリフは、あとですべてテル自身に返ってくるという悲しさ(笑)。1期の4話は、すべてが好きですよね。あと、エクボは名言製造機ですよね(笑)。特に僕は、エクボが劇画チックになった時がめっちゃ好きなんですよ。大塚明夫さんのあの声で、「何言ってるんだ、こいつ?」って思えて(笑)。

――一応味方だけど、善悪のあいだでふらふらしていると言うか。

　まあ、やっていることはさておき、言っていることは基本的に悪なんですけどね(笑)。毎回モブや他のキャラクターのことを誘惑しているじゃないですか。「その力があればこの日常をどうにかできると思わないのか?」みたいな。でもモブは平然として「そんなの関係ない」と言っちゃう。そういうやりとりがまたいいですよね。

――この作品は青春がテーマの一つなのですが、松岡さんが学生時代に打ち込んだことなどはありますか。

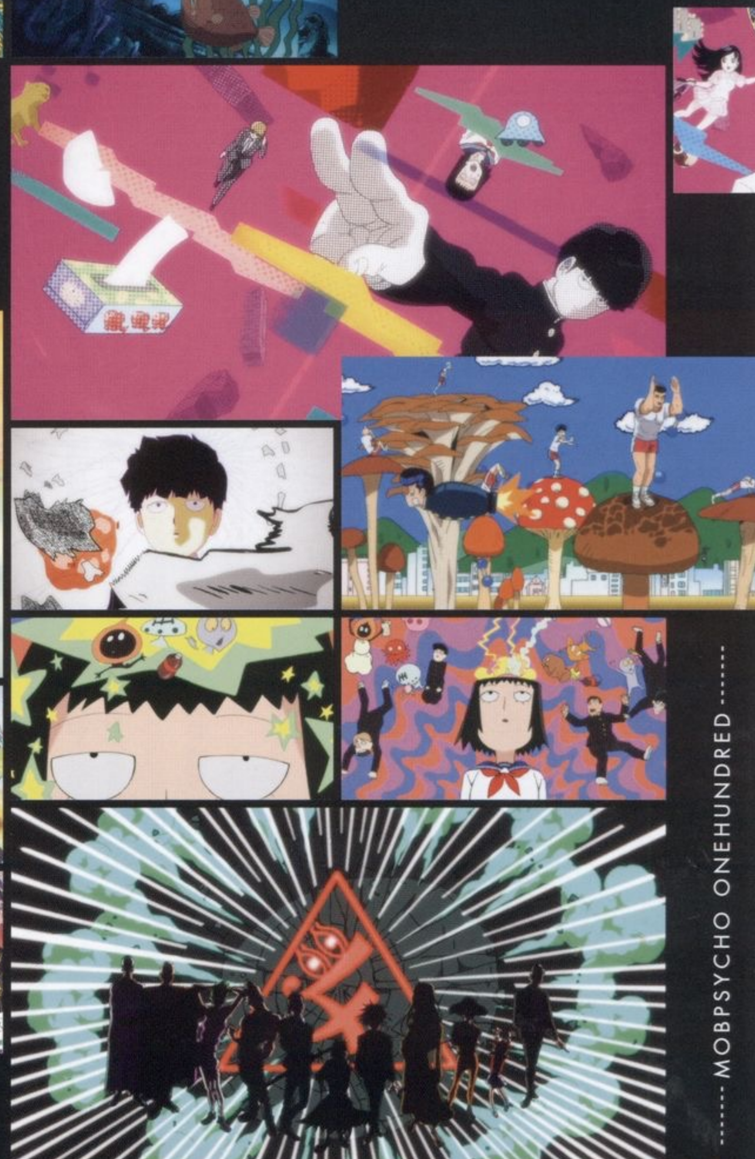
　中学生の頃から車が好きになって、車の雑誌は今でも買ってますね。当時はスポーツカーが好きでしたが、今は実際に乗ることも考えて国産車のほうに興味が向いてますけど(笑)。ゲームの『グランツーリスモ』や、漫画の『頭文字D』の影響だったのですが、自動車の整備士になりたいと思っていたくらいでした。

――では最後に『モブサイコ100』のファンに向けて、一言いただけますか。

　今回、2期まで製作していただけて、こうやってまとめた本まで出していただける。ここまで来られたのは、本当に、ファンの皆さんの支えがあってこそです。もちろん我々も一生懸命演技をしてきましたが、観てくださる方々と一緒になって、作品を盛り上げ、ここまで来られたという気持ちがあります。そうやって良い形で作品を続けて来られたのは、とてもうれしいことです。2期でショウとお父さんの最大の親子ゲンカが終わったみたいな感じではあるんですけれども、原作を読まれている方ならご存じのとおり、まだ『モブサイコ100』の物語は続いているんですよ。巨大なブロッコリーの話があるんです(笑)。できればこの流れを崩さずに、ブロッコリー編も全部やりたいなという思いを、僕としてはもっています。いつになるかわからないですし、もしかしたらやれないかもしれないんですけど、そこは信じていたい。皆さんも信じてくれたら、きっと実現できるのではないかなと思います。そのためにも、これからも変わらぬ形で、テルの声を皆さんにお届けできるように、切磋琢磨していきますので、皆さんもアニメを、『モブサイコ100』の世界を楽しんでいただけたらと思います。改めまして、本当にありがとうございました。

松岡禎丞
Yoshitsugu Matsuoka
---Profile---
まつおか・よしつぐ/アイムエンタープライズ所属。近年の主な出演作は『ソードアート・オンライン』シリーズ(キリト/桐ケ谷和人役)、『アイドルマスター SideM』(御手洗翔太役)ほか。





OPENING THEME

『99』

作詞・作曲:佐々木淳一／編曲:前口 渉／歌:MOB CHOIR
絵コンテ・演出:立川 譲／作画監督:亀田祥倫
モーショングラフィックス:10GAUGE(依田伸隆・松木大祐・小林敦史)



独特の色彩と、そして何よりコラージュが印象的なオープニング。キャラクターや悪霊の他に、小物など、さまざまな素材が目まぐるしく画面内を流れていく。作文用紙やブロッコリーなど、第2期のエピソードに関連するものがちらほら見えるのも注目したいところ。校舎に原作者であるONE先生の自画像が埋め込まれるように描かれていたりといったお遊び要素も。

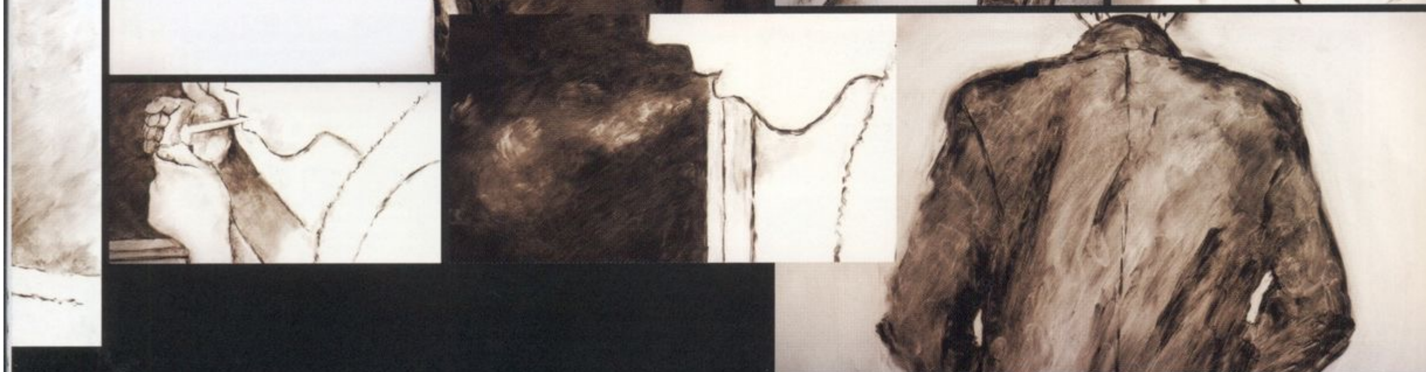




第1期エンディング







ENDING THEME

『リフレインボーイ』

作詞・作曲:Hirokazu Ebata／編曲:ALL OFF・Hirokazu Ebata／歌:ALL OFF
エンディング:佐藤美代
エンディング協力:重原克也／撮影:古本真由子





エンディングは、ペイント・オン・グラスと言われる手法が用いられ話題となった。ガラスの上に油絵を描いては撮影し……という手順を繰り返して作られているのだが、通常のアニメーションとは違う独特の雰囲気で、霊幻の一日の始まりを描いている。ずっとモノクロだった映像が、ラストでモブに会ってからはカラーになるところも印象的。





自称霊能力者・霊幻新隆
～とモブ～

STAFF
脚本:瀬古浩司／絵コンテ・演出:立川 譲
作画監督:亀田祥倫



STORY

科学では解き明かせない怪奇現象を請け負う「霊とか相談所」の霊幻新隆。ある時、彼は霊が出るというビルに足を踏み入れ、悪霊「天井破り」と遭遇する。実はニセ霊能力者である霊幻に、本物の悪霊は手に負えず、彼は弟子であるモブこと影山茂夫を呼び出す。超能力者であるモブは、悪霊を難なく退治するのだった。

次回予告

霊幻「突如として現れたモブの日常を乱す脳みそ電波集団。平凡な青い春に疑問を抱いたモブは、女の園へと向かう。ゴールはどこだ! 明日はどっちだ! 次回『モブサイコ100』第2話、『青い春の疑問～脳感電波部登場～』。リアタイ? 正しい判断です」

EYE CATCH



解説

●アバンタイトル(001)

アニメが始まってすぐに描かれるのは、モブと悪霊達との壮大なバトルシーン。ここで描かれているのは、絵コンテのト書きによれば「モブの心象風景」とのこと。



●霊能力者達(001)

アバンタイトル後の1話冒頭では霊能力者達のイメージカットが出てくる。浄堂麒麟、森羅万象丸、最上啓示のほか、2期4話で浅桐邸に集められた霊能力者達も何人か描かれている。



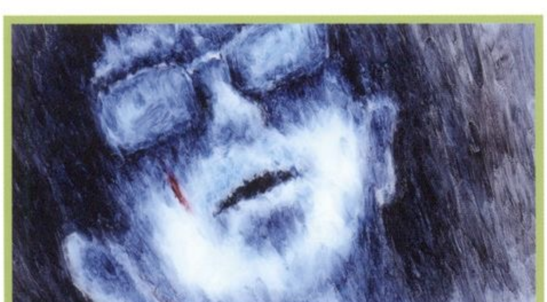
●脳感電波部の退部者(002)

もともと少人数だった脳感電波部は退部者が出たことで廃部の危機に。この時、部を辞めた竹中は、原作では意外な形で再登場をする。



●ペイント・オン・グラス

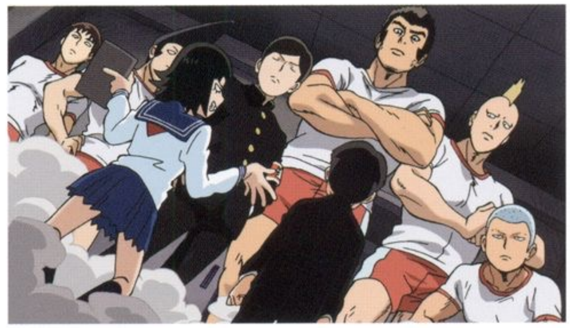
1期のエンディング映像はペイント・オン・グラスで作られているが、本編中にもこの手法で描かれたカットはいくつもある。序盤だけにしぼって挙げても、1話で天井破りが現れたところ、2話で匂い嗅ぎが消えていくところ等々。これらは、エンディングと同じく佐藤美代が担当している。



002

青い春の疑問
～脳感電波部登場～

STAFF
脚本:瀬古浩司／絵コンテ:米たにヨシトモ
演出:安斎剛文／作画監督:山田 歩



















STORY

霊幻のもとでアルバイトをしながら、今しかできないことが他にあるのではないか、と悩んでいたモブ。脳感電波部から勧誘を受けたが答えは保留した。そんな中、除霊に訪れた聖ハイソ女学園で、霊から「青春の脇役」呼ばわりをされてショックを受ける。何かを変えたいと決意したモブは肉体改造部に入部した。

次回予告

霊幻「筋肉集団の仲間入りを果たしたモブ。その帰り道、モテたい一心で向かった先は、どこからどう見ても怪しい宗教団体の総本山。モブ、お前、ホントにそれでいいのか!? 次回『モブサイコ100』第3話、『集いへの誘い～簡単に言うとモテたい～』。録画? それも正しい判断です」

EYE CATCH



003

集いへの誘い
～簡単に言うとモテたい～

STAFF
脚本:瀬古浩司/絵コンテ:立川 譲/演出:重原克也
作画監督:小田剛生



STORY

モブはモテたいという願いにつけこまれ、宗教団体『(笑)』の集会に連れていかれる。そこに現れた教祖のエクボは、笑顔が幸せにつながると説くが、それが「モテるかどうか」とは無関係の教えだと思い至ったモブは、その場から去ろうとする。しかしエクボは、モブをあの手この手で引き留めにかかるのだった。

次回予告

霊幻「馬鹿どもの馬鹿どもによる馬鹿どものためのイベントに巻き込まれてしまったモブ。その前に現れたのは乱暴者のイケメン男子だった! どうするつもりだモブ!? 次回『モブサイコ100』第4話、『馬鹿オンリーイベント～同類～』。DVD? とても正しい判断です」

EYE CATCH



004

馬鹿オンリーイベント
～同類～

STAFF
脚本:瀬古浩司/絵コンテ:立川 譲
演出:太田知章/作画監督:もろゆき沙羅





STORY

朝、モブが目覚めると、目の前には除霊したはずのエクボの姿があった。その日からモブは、エクボにつきまとわれることに。そんな折、モブは不良生徒達のケンカに巻き込まれ、黒酢中に連れ去られてしまう。モブ奪還のため肉体改造部の部員達が助けに来たが、そこに黒酢中の裏番長・テルこと花沢輝気が現れる。

次回予告

霊幻「モブに襲いかかるイケメン超能力者・テル。超能力と包丁が飛び交い、落ち武者が現れ、雷鳴が轟くなか、正体不明の"何か"が降臨。そして奇跡が起こる! 次回『モブサイコ100』第5話、『OCHIMUSHA～超能力と僕～』。Blu-ray? さらに正しい判断です」

EYE CATCH



解説

●ゲームの途中で(003)

犬川とのゲームで劣勢だった暗田。よく見ると、郷田達が現れて犬川を含めたみんなの視線がそれた隙に、しれっと盤をひっくり返している。ずるいけど彼女らしいとも言える。



●睨めっこ対決(003)

モブと睨めっこ対決をした『(笑)』の3人は、アニメでは「スマイルリーダー」と名づけられている。仰々しく登場したものの、みんなあっさり敗れてしまった。またこの対決の前に「モブは牛乳が好きだった」というナレーションが入るが、実際にこの一つ前の2話にはモブが自宅で牛乳を飲む場面もある。



●鬼ラッシュ(004)

鬼瓦必殺の連続パンチで、滅多に見られない伝説の技らしい。ちなみに原作では16連打だが、アニメでは95連打までカウントされている。



●街中の看板(005)

雨の中でエクボを捜すモブ。その際に通った道には、モブを模したような工事の看板があったり、「育毛実現」と描かれた広告があったり、ちょっとしたネタが見られる。



005

OCHIMUSHA
～超能力と僕～

STAFF
脚本:瀬古浩司
絵コンテ・演出・作画監督:藤澤研一











STORY

超能力者であるテルから勝負を挑まれたが、「人に向けて超能力を使ってはいけない」という霊幻の教えを守り、応戦しないモブ。テルはエクボを消し去って挑発するものの、モブの決意は変わらない。いら立ったテルは、ついに超能力ではなく、ただの腕力でモブの首を締めあげていく。薄れゆく意識の中でモブは……。

次回予告

霊幻「超能力に憧れるあまり道を踏み外す律君。そんなこととは露知らず、モブは呑気にトメとデートに明け暮れる。おいおいモブ、んなことやってる場合じゃねーぞ!? 次回『モブサイコ100』第6話、『不調和～成るために～』。初回仕様? 最も正しい判断です」

EYE CATCH



006

不調和
〜成るために〜

STAFF
脚本:瀬古浩司／絵コンテ・演出:安斎剛文
作画監督:吉田奏子



STORY

律は勉強も運動もできる優等生でありながら、兄のような超能力をもっていないことにコンプレックスを抱いていた。ある日、律はモブと間違えられて、超能力研究施設・覚醒ラボに招待される。そしてほぼ同時期に、律が所属している生徒会執行部では、不良生徒を正すための校内運動を始めようとしていた。

次回予告

霊幻「エクボと組んで明日なき暴走を繰り返す律。そんななか、ついに動き出す調味市番長連合！ 一方モブは怖い人に壺を買わされそうになる。兄弟そろって大ピンチだ！ 次回『モブサイコ100』第7話、『昂揚〜喪失を手に入れた〜』。違法ダウンロード？ あなた呪われますよ」

EYE CATCH



007

昂揚
〜喪失を手に入れた〜

STAFF
脚本:瀬古浩司／絵コンテ・演出:川畑 喬
作画監督:斉藤英子・山田 歩



STORY

超能力が覚醒しつつあった律の前に、エクボが現れた。律はエクボのサポートによって、力を扱えるようになる。一方、生徒会による不良生徒の取り締まり「大掃除」は、大きな成果をあげていたが、それは律の心に大きな罪悪感を抱かせた。そのストレスを糧に、律は自分の超能力を成長させていく。

次回予告

霊幻「放課後の路地裏でついに対峙する兄弟。そんななか、突如現れたのは、いつか見かけた大人の超能力者……。おいモブ、そいつは本気でやべーぞ……！ 次回『モブサイコ100』第8話、『兄ペコ〜破壊意思〜』。私のおすすめ？ お手軽AコースはBlu-rayのセット」

EYE CATCH



解説

●鬼瓦の謝罪(006)

校内でモブと会った時に、鬼瓦が謝るシーンがアニメでは描かれている。鬼瓦が不器用ながらも悪いやつではないことが伝わる場面だが、それを見かけた律が鬼瓦に誤解を抱き、後の「大掃除」に賛成する動機の一つにもなった。



●神室真司の家庭(006)

学校では生徒会長として堂々と振る舞う神室だが、彼は家庭では大きなストレスを抱えていた。優秀な兄に対するコンプレックス、そして親から兄と比較されるプレッシャー。神室の部屋には大量のゴミ袋が積まれているが、そんなゴミの山だけが彼の安らげる居場所だったのかもしれない。



●律と霊幻(006)

作中で、律と霊幻の会話が描かれるのはこの6話が初。モブを通じて一応の面識はあるようだが、律は明らかに霊幻をうさん臭く思っていることがわかる。

●絵画(007)

モブが連れてこられたお店には、壺の他にあやしげな絵画も飾られている。中には、原作7巻の表紙を元にしたような、不気味なトマトの絵も。ちなみに他に飾られている絵の中には、立川監督の娘さんが描かれたものもある。





●エンディングテーマ(008)

8話はエンディング映像がない特殊な回。エンディングテーマもいつもの『リフレインボーイ』ではなく、『-English ver.-』になっている。

008

兄ペコ
～破壊意思～

STAFF
脚本:瀬古浩司／絵コンテ:立川 譲・重原克也
演出:大矢雄嗣／作画監督:亀田祥倫













STORY

路地裏で不良生徒達を相手に、超能力で立ち回る律。だがそこにモブが駆けつけて、律が怪我をさせた不良達に謝り始めた。その時、フードで顔を隠した謎の男が現れる。男は超能力で律をねじ伏せてどこかに連れ去ろうとするが、弟をピンチから救おうと、モブが男に立ち向かっていく。

次回予告

霊幻「怪しい研究所に監禁された律はポンコツ超能力者達と脱出を企てる。一方律を救うため立ち上がるモブ。そうだモブ、それでこそ男ってもんだぜ。次回『モブサイコ100』第9話、『"爪"～第7支部～』。真面目日Bコースなら Blu-rayと単行本」

モブの衣装設定

覚醒

意識を失い、暴走した超能力が体を突き動かしていて、言葉も通じない。黒酢中学を破壊し、テルを改心させた。









私服②

律を助けようと【爪】に潜入した時の服装。何気なくベルトを変えているけど、靴はいつもと同じなのがモブらしい？



私服①

犬の絵がチャームポイント。「幸せの壺」にかつてない慌て方をしている。実はトメや犬川とカラオケに行った時もこの格好。



部屋着

2期から披露された新しい部屋着。アルカイックスマイルを浮かべているキャラと「ONE」の文字が特徴。



ジャージ

ツチノコを捕獲するための汚れてもいい格好、ということで着てきた塩中学校指定のジャージ。網とカゴは結局使わずじまい……。

009

"爪"
～第7支部～

STAFF
脚本:瀬古浩司／絵コンテ:寺東克己／演出:金森陽子
作画監督:浅野直之・村井孝司













STORY

律が連れていかれたのは、超能力者が集まった組織【爪】の第7支部だった。ともに監禁された覚醒ラボのメンバー達から協力を得つつ、律は脱出を試みる。その頃、モブとテルは【爪】の一員である寺蛇を捕らえて、組織に関する情報を聞き出していた。律を助け出すために、モブ達は第7支部へと向かう。

次回予告

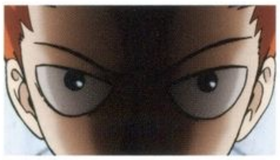
霊幻「頭頂部150%のテル、不気味な風船エクボとともに【爪】の支部に乗り込んだモブ。そんな3人に幹部の傷達が大人げもなく襲いかかる！　勝算あんのか、モブ!?　次回『モブサイコ100』第10話、『巨悪のオーラ～黒幕～』。本気のCコースだとBlu-ray・単行本・イベント」

010

巨悪のオーラ
～黒幕～

STAFF
脚本:瀬古浩司／絵コンテ:小林 寛／演出:重原克也
作画監督:小田剛生・富田恵美・武藤信宏











STORY

第7支部の内部に足を踏み入れ、それぞれ分かれて先に進むモブとテルとエクボ。遭遇した超能力者を退けながら律を捜すが、幹部達との戦いの中で、テルは囚われ、エクボも脱出困難な場所に閉じ込められる。そしてモブも、気絶した律を助けようとしていたところで敵と相討ちになって、倒れてしまった。

次回予告

霊幻「ついに姿を現した【爪】のボス。……ああ、そうだ。俺のことだ。今まで隠してて悪かったな、モブ。これから何が起こっても、お前、しっかり生きろよ……。次回『モブサイコ100』第11話、『師匠～leader～』。本気のCコース？　正しい判断です」

EYE CATCH



解説

●【爪】の車(009)

仲間を出し抜いた寺蛇は、一人でモブを捕らえようと出かけていく。ちなみに彼が乗っている車のナンバーは「も・2315」(モブサイコ)。



●ショウの登場(010)

初登場の段階では、ショウは謎の多いキャラクター。彼が何者なのかは1期の12話で少し明らかになるが、本格的な活躍が見られるのは2期から。



●拒絶100%(010)

霧藤によって幻覚を見せられたモブは感情を爆発させる。原作では描かれていないが、アニメではこの感情は「拒絶」として表現されていた。



●次回予告(010・011)

10話における【爪】のボスは霊幻だった!? ……という引きからの次回予告で、霊幻は、まるで自分が本当に【爪】のボスであるかのようなことを語り出す。嘘とはわかりつつもまさかと思える仕掛けになっている。また11話の次回予告は、本編で霊幻が倒れてしまったため、モブが担当。でも霊幻からはちゃんと「最後はリアタイが正しい判断です」という遺言(?)を預かっている。

011

師匠
～leader～

STAFF
脚本:瀬古浩司/絵コンテ・演出:安斎剛文
作画監督:吉田奏子・斉藤英子・芦谷耕平・亀田祥倫











STORY

モブを捜して第7支部にやってきた霊幻は、【爪】のボスだと勘違いされて案内されるがままに、やすやすとモブを見つけ出す。そのまま律やテルも連れて帰ろうとするが、支部長の遺志黒をはじめとする幹部達に止められてしまう。霊幻はボスではないことがバレて、幹部達との戦いになるが……。

次回予告

モブ「え、師匠……? 師匠……師匠……ねえ、起きてくださいよ、師匠……。次回『モブサイコ100』第12話、『モブと霊幻』。師匠の遺言です……。『最後はリアタイが正しい判断です』……」

EYE CATCH



モブと霊幻
～巨大ツチノコ現るの巻～

STAFF

脚本:瀬古浩司／絵コンテ・演出:立川 譲
作画監督:亀田祥倫・吉田奏子





STORY

「嫌な時は逃げたっていい」という霊幻の言葉を受けて、モブはすべてのエネルギーを師匠に託す。モブの力を得た霊幻は、遺志黒達を圧倒。さらには超能力者であるがゆえに自らを特別視していた彼らに、厳しい説教をしていく。だが遺志黒だけは、最後まで霊幻の言葉を受け入れようとせず……。

EYE CATCH



特別編

解説

●【爪】のボス(012)

12話の終盤でショウが電話をしている相手は、彼の父親にして【爪】のボスである鈴木統一郎。1期での出番はこの場面のみだが、2期ではモブ達の前に強大な敵として立ちはだかる。



●エンディング(012)

12話は、8話と同じくエンディング映像がない。エンディングテーマも、通常とは違う『リフレインボーイ -TEKINA remix-』が使われている。

●Cパート(012)

1期の終わりを締めくくる12話Cパートは、ツチノコ探しのエピソード。このパートは、アニメのキャラクターデザインではなく、原作の絵柄を元に作画されている。影はトーンを貼ったような表現になっていたり、切り絵が使われているなど、いろいろな点で独特なパートとなっている。



●『REIGEN』とは

『モブサイコ100　REIGEN～知られざる奇跡の霊能力者～』は、2018年3月のイベントで上映された特別編。総集編という形はとりつつも、新作映像も多く、2期へつながる締めくくりになっているため、見どころは満載。

●出来上がった本(特別編)

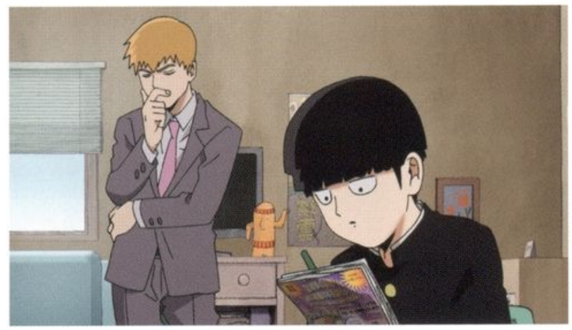
霊幻が自分に都合のいいことばかり載せようとしたため、捏造率が100%近い本になりかけたが、最終的には捏造のない内容となった。それにしても、かなり分厚かったり表紙がやたらとかっこよかったり、外見だけは立派な本。



REIGEN
～知られざる奇跡の霊能力者～

STAFF
脚本:瀬古浩司／絵コンテ:立川 譲
演出:重原克也・大矢雄嗣／作画監督:小柏奈弓













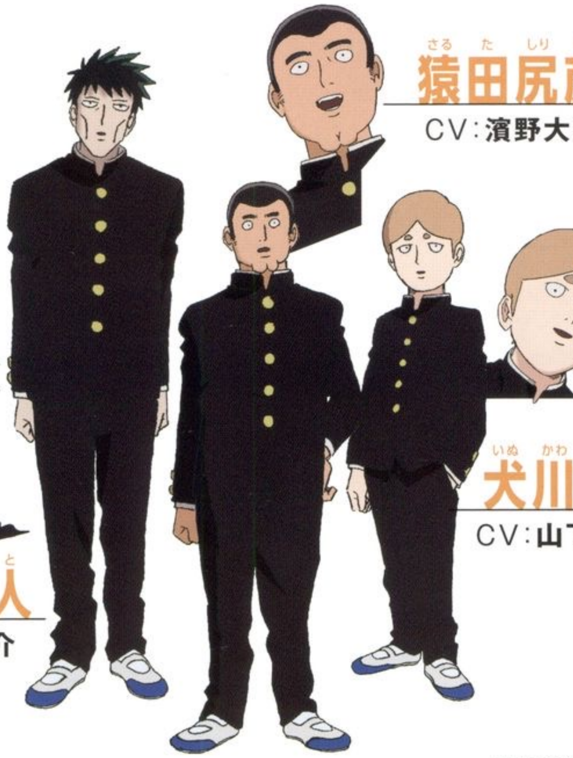


STORY

ある日、話題の本を発売した占い師をテレビで観た霊幻は、ふと思いつく。自分が体験してきた霊や超能力者に関する出来事を本にすれば、ベストセラーになるに違いない。さっそくモブを呼びつけて、自分のしゃべったことを文章にしていくように言いつけるが、その内容は誇張や作り話だらけだった。

その他

脳感電波部の部員達。部活はだらだら過ごすためだけに入ったので、トメの言うテレパシーのことは信じていない。学年は違うが、3人とも仲が良い。



猿田尻彦（さるたしりひこ）

CV：濱野大輝

犬川豆太（いぬかわまめた）

CV：山下誠一郎



雉子林春人（きじばやしはると）

CV：綿貫竜之介

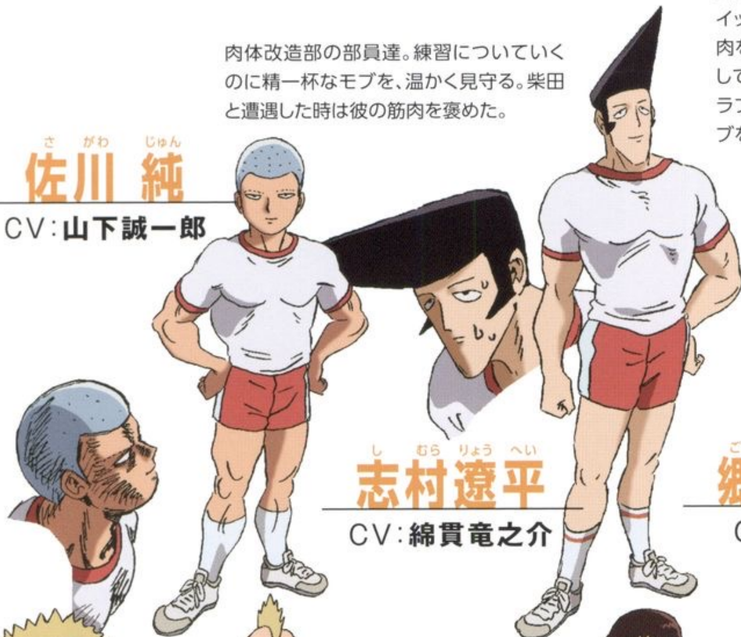


暗田トメ（くらたとめ）

CV：種﨑敦美

脳感電波部の部長。宇宙人と交信したいという夢があり、テレパシーを使える人物を探している。モテたいモブに女子の視点から見た厳しい意見を言うことも。

肉体改造部の部員達。練習についていくのに精一杯なモブを、温かく見守る。柴田と遭遇した時は彼の筋肉を褒めた。



佐川 純（さがわじゅん）

CV：山下誠一郎

志村遼平（しむらりょうへい）

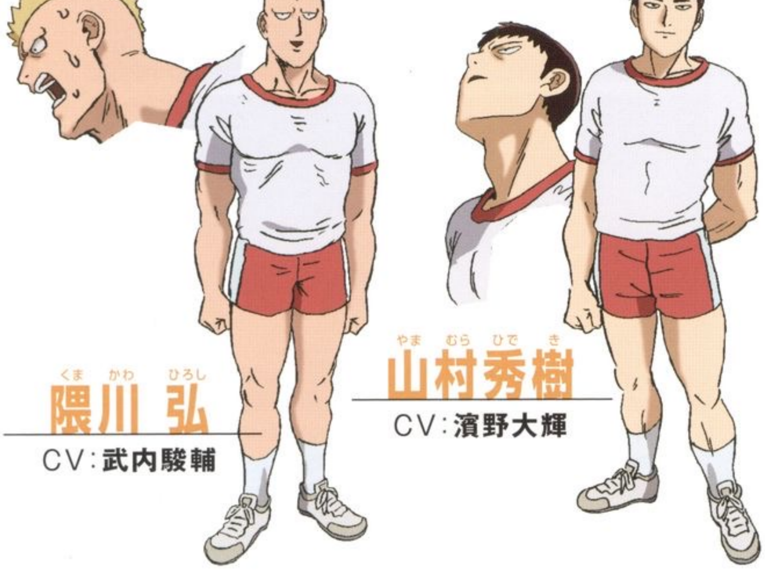
CV：綿貫竜之介

肉体改造部の部長。ストイックで優しく、理想の筋肉を追い求めて日々鍛錬している。部員思いで、トラブルに巻き込まれたモブを助けることも多い。



郷田武蔵（ごうだむさし）

CV：関 俊彦



隈川 弘（くまかわひろし）

CV：武内駿輔

山村秀樹（やまむらひでき）

CV：濱野大輝

かつては「鬼の天牙」とも呼ばれた番長。しかしテルに負け、生徒会に陥れられてからは、自分を見つめ直し、肉体改造部で鍛え直している。



鬼瓦天牙（おにがわらてんが）

CV：細谷佳正

その他

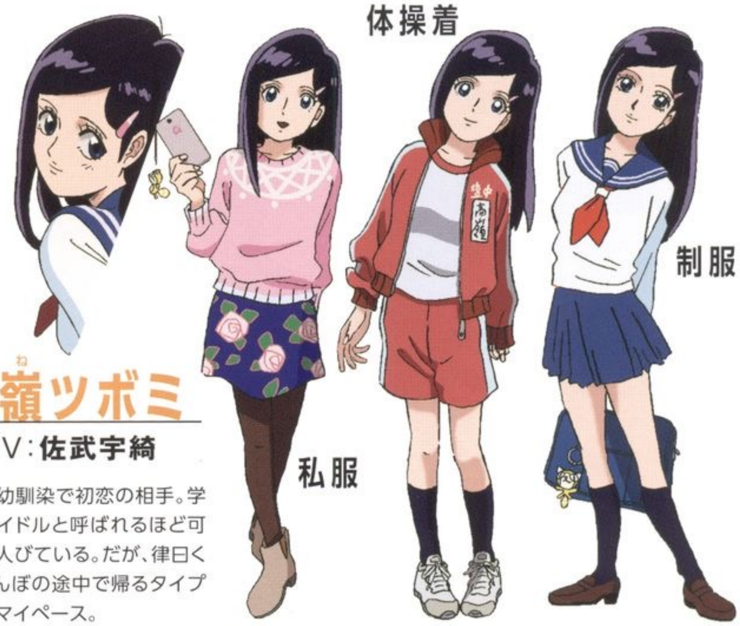


米里（めざと）イチ

CV：藤村 歩

ジャーナリストを目指している新聞部員。『(笑)』の一件でモブの超能力を目の当たりにし、彼に興味を抱くように。ひそかに「サイコヘルメット教」にも参加している。





高嶺（たかね）ツボミ

CV：佐武宇綺

モブの幼馴染で初恋の相手。学校のアイドルと呼ばれるほど可憐で大人びている。だが、律曰くかくれんぼの途中で帰るタイプらしく、マイペース。



エミ

CV：松井恵理子

モブに告白した女子生徒。でも実はモブに好意はなく、罰ゲームだった。自分で小説を書いており、モブの超能力を見て何かアイディアを得た様子。





徳川（とくがわ） 光（ひかる）

CV：松岡禎丞

生徒会の副会長で、きっちりした七三分けからもわかる通り、生真面目な性格。自分にも他人にも厳しく、特にぐうたらな脳感電波部には容赦しなかった。



神室真司（かむろしんじ）

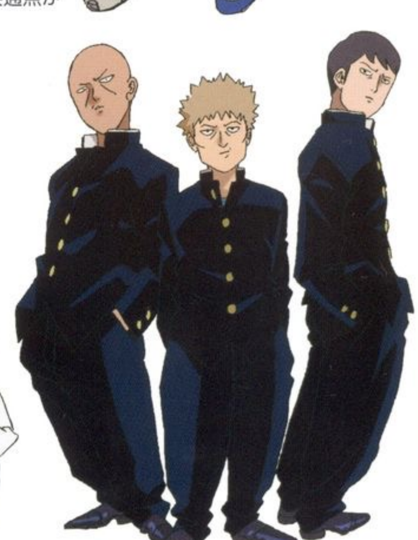
CV：遊佐浩二

生徒会長。肥大した承認欲求から「大掃除」と称して鬼瓦達校内の不良を一掃した。律とは兄へのコンプレックスという共通点があった。

生徒達



塩中学校の生徒達。最上に見せられたパラレルワールドの中にもそのまま登場している。



鬼瓦の舎弟達

番長だった鬼瓦を慕っていた舎弟達で左から山崎・川田・烏海。鬼瓦が生徒会に陥れられてからは口も利かなくなったらしい。

その他

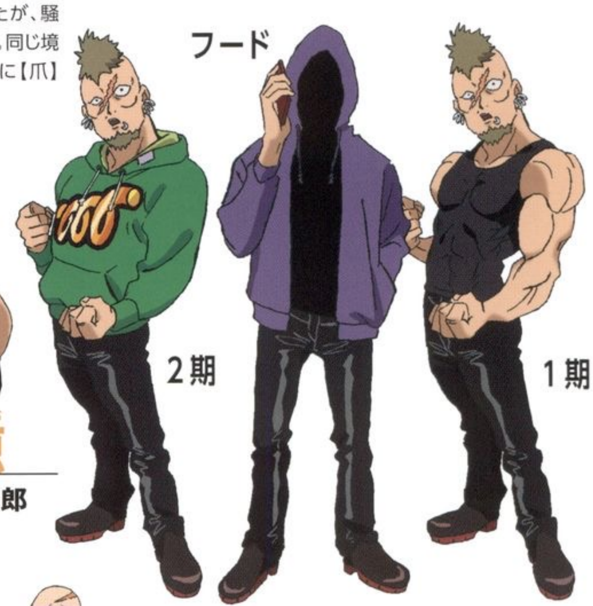



プラスチックの刀やエアガンといった玩具を武器としているが、呪いを込めて強化しているため高い威力をもっている。悲惨な過去を霊幻に茶化すような形で同情され激昂した。

桜威遊介

CV：細谷佳正

鍛えた手足に念動力をまとわせる打撃技「念動螺旋」を得意としている。【爪】第7支部の幹部だったが、騒動の後【爪】を脱退。同じ境遇の桜威達とともに【爪】本部と戦うことに。

誇山 恵

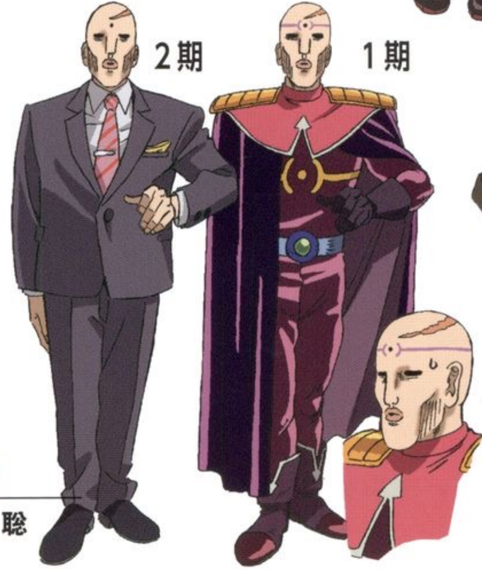
CV：三木眞一郎

「硬気功」で肉体を武器化して敵に殴りかかる戦闘スタイルで、女性ながら強烈な一撃を放つ。自分に懐いている無飼のことをかわいがっている。

槌屋

CV：原 優子



邑機

CV：鶴岡 聡

幽体を分身させて攻撃する「幽体術」を使う。2期では霊幻のことを「霊幻大先生」と呼び、コスプレをやめてから着るようになったスーツの色は、心なしか霊幻のものと似ている。




寺蛇

CV：立木文彦

念力の鞭「空鞭」を操って戦う。手柄のために独断でモブとテルを襲うも返り討ちにされ、テルから水責めの拷問を受けた。




嶽内

CV：柳田淳一

気の力を体外に放出する「超気功」を操る。戦闘モードになると顔が凛々しくなる。第7支部での戦いではモブに一瞬で敗れたが、【爪】本部との戦いでは共闘する。







女性のような口調でしゃべり、封じ込めた悪霊達を使役して戦う。浅桐邸で最上啓示を封印したが、他の悪霊のように使いこなすことはできなかった。




魔津尾

CV：綿貫竜之介

その他



霧藤

CV：桐井大介

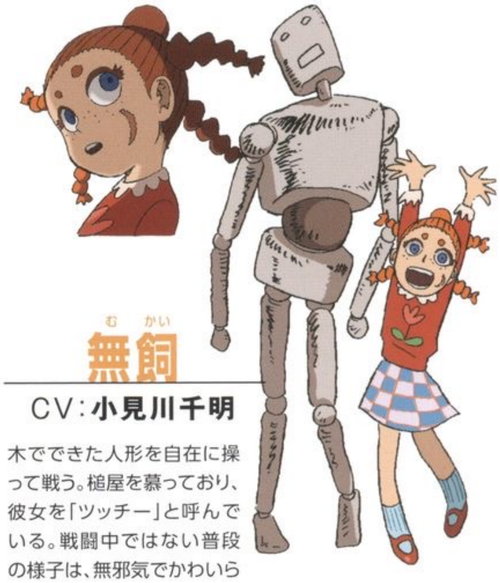
相手に幻覚を植えつける催眠能力をもち、反抗的な律達に白鳥海斗の死体の幻覚を見せ従わせようとする。モブにも幻覚を見せたが、失敗し相討ちに。



パイロキネシスによる炎での攻撃を得意とし、その威力は絶大。第7支部に侵入したテルと戦うが、己の炎をバリアに閉じ込められ、敗北した。

宮蛾輪

CV：勝 杏里



無飼

CV：小見川千明

木でできた人形を自在に操って戦う。槌屋を慕っており、彼女を「ツッチー」と呼んでいる。戦闘中ではない普段の様子は、無邪気でかわいらしい少女。

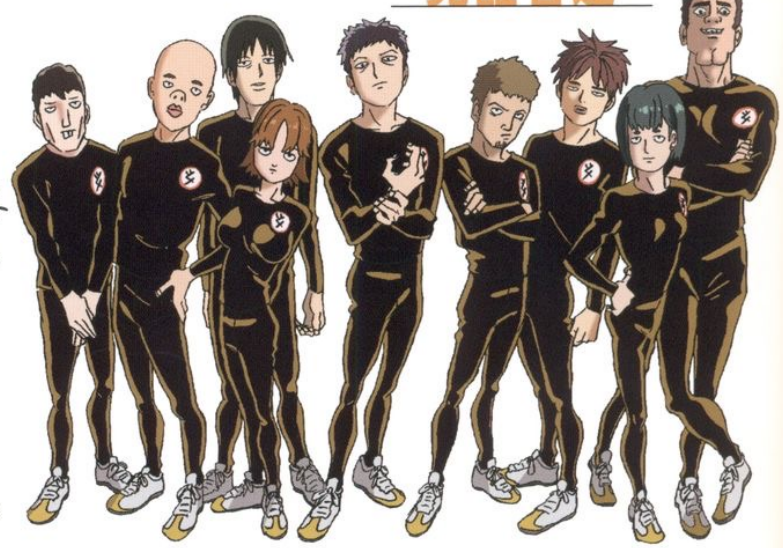


【爪】第7支部の支部長。重力を塊にした「黒玉」で全てを吸い込む。ガスマスクの下に隠されていた素顔は老人。第7支部ごとモブ達を消そうとしたが、ショウに阻止された。

遺志黒

CV：大久保瑠美/岩崎ひろし

覚醒者達



【爪】第7支部にいた戦闘員。まるで拷問のような実験を経て、後天的に超能力に目覚めている。エクボとテルに叩きのめされた。



【爪】第7支部で雑用ばかりやらされている構成員。リーダー格の男はゲンさんと呼ばれ慕われている。

ゲンさん一派

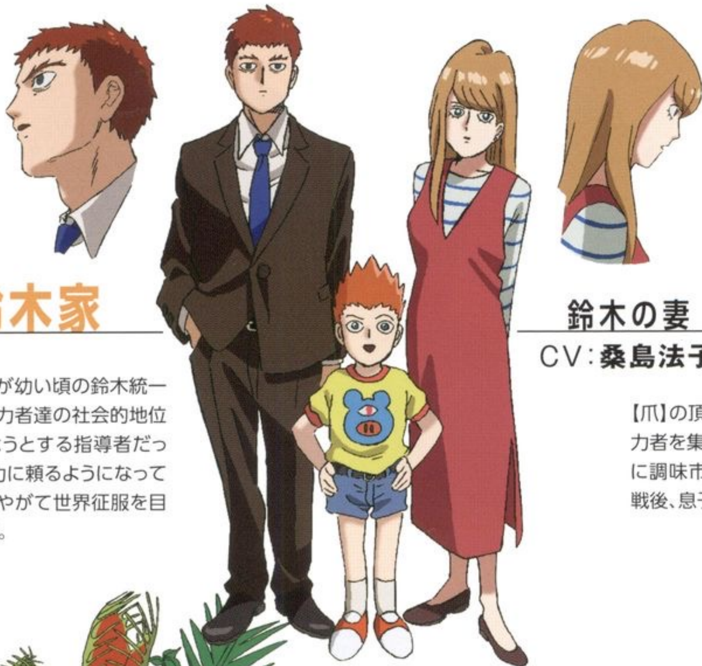
CV：巻島康一（ゲンさん）

教育係

CV：こぶしのぶゆき（中央）



【爪】第7支部にいた構成員。捕まえた律達を教育係として洗脳しようとするが、律の挑発に乗った結果反撃された。



鈴木家

まだショウが幼い頃の鈴木統一郎は、超能力者達の社会的地位を確立しようとする指導者だった。だが、力に頼るようになって妻と決別。やがて世界征服を目指すように。

鈴木の妻
CV：桑島法子



【爪】の頂点に立つ支配者。世界中から超能力者を集めて世界征服を企み、その手始めに調味市を制圧しようとした。モブとの激戦後、息子のショウと心の距離を縮めた。

鈴木統一郎（すずき とういちろう）
CV：井上和彦

【爪】



峯岸桧樹（みねぎし としき）
CV：小林裕介

【爪】幹部で5超の一人。エネルギーを注ぎ込んで成長させた植物を自由自在に操る。封印が破れた最上に殺されかけるがモブに救われた。



【爪】幹部で5超の一人。強大な超能力をもてあまして引きこもっていたところを、鈴木に引き取られた。騒動のあと、社会復帰を目指して「霊とか相談所」で働くことに。

芹沢克也（せりざわ かつや）
CV：星野貴紀



柴田 宏（しばた ひろし）
CV：三宅健太

【爪】幹部で5超の一人。「サイコステロイド」という念信号を送って、筋肉を膨張させることができる。武蔵に憑依したエクボと対決し、敗れ去った。

【爪】幹部で5超の一人。電子機器や電波に自由に侵入し操作できる能力をもち、電波ジャックを行った。ショウの前に立ちはだかったが一瞬で倒された。



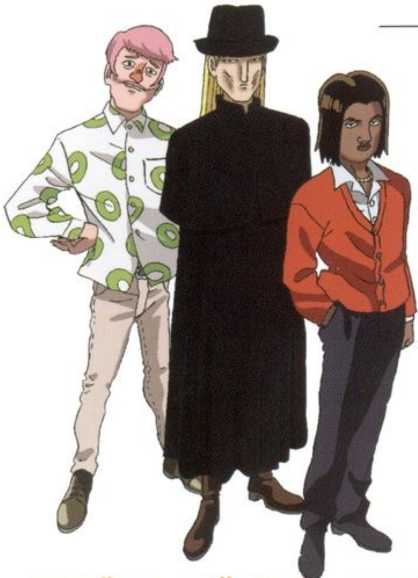
羽鳥 希（はとり のぞむ）
CV：濱野大輝



島崎 亮（しまざき りょう）
CV：杉山紀彰

【爪】幹部で5超の一人。盲目だが他人の動きを先読みでき、テレポートで自在に空間を移動してテル達を苦しめる。しかし超能力をもたない霊幻に殴られ、モブの怒りに触れ、逃げた。

その他



ミゲル・ボウシ・ロン毛

CV：松川裕輝（ミゲル）・野澤 慧（ロン毛）

鈴木に雇われた外人部隊のメンバー達。【爪】の強さに疑問を抱いていたため、ヨシフの誘いに乗り謀反を起こす。



ウド

CV：矢野奨吾

外人部隊の一人。暴れられればいいという単純な考えで、ヨシフとともに、【爪】に歯向かう。肉体強化の超能力をもつが、同タイプの力をもつ柴田に敗北した。



ヨシフ

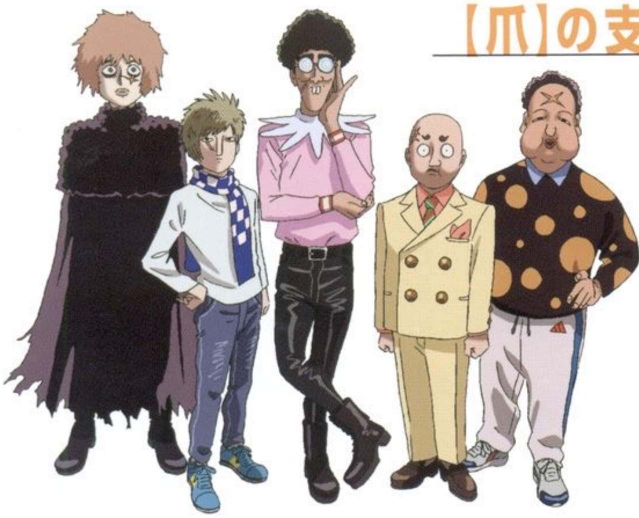
CV：畠中 祐

鈴木に雇われた傭兵だが、その正体は日本政府が【爪】に送り込んだスパイ。タバコの煙を硬化する「ホワイトノイズ」という技を使う。



玉城

CV：櫻井トオル



【爪】の支部長達

遺志黒を除いた、第1支部から第6支部までの支部長達。全員ボスに歯向かった証である傷を負っている。実力者ではあったが、外人部隊に敗北した。



パンク

CV：武内駿輔

【爪】の構成員の一人で電気を操る。家族の身を案じて、怒りにとらわれていたモブに吹き飛ばされた。



眉毛

CV：綿貫竜之介

【爪】の構成員の一人。テルを襲撃するがあっけなく倒され、あげく連れ去られて水責めに遭うことに。



構成員達

【爪】の下っ端構成員達。騒動に乗じて街で窃盗をはたらき、モブの怒りを買う。最上に生気を吸われ気絶した。



ボウズ

【爪】の構成員の一人。筋肉を強化して戦うスタイルだが、いら立ったモブに正面から殴られ気絶した。

モブの衣装設定



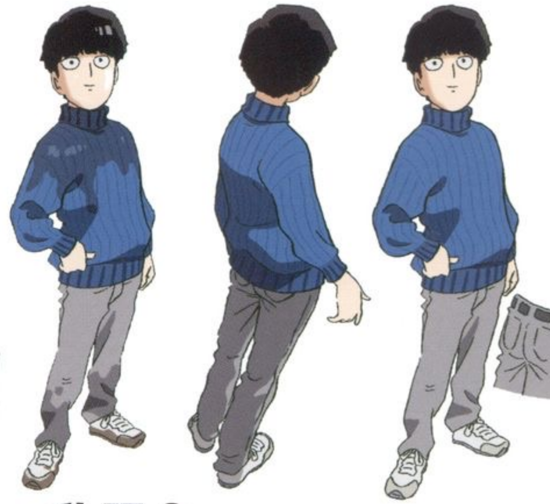
私服⑤

心霊写真を撮った場所にまた向かった時の格好。オレンジと青のツートンカラーという派手めな色使い。



私服④

パーカーの下のインナーは以前と同じ。ストーカーや心霊写真撮影など、一日中除霊のアルバイトで歩き回ることに。



私服③

「霊とか相談所」の営業のために深爪町に行った時の服装。青いストライプのタートルネックでなんだかいつもよりも大人っぽい。



モブ100%(勇気)

最上に与えられた強い恐怖に対抗するために勇気をみなぎらせたモブの姿。主人公らしいイケメンに!



私服⑥

浅桐邸に赴いた時の服装。パーカー姿が多いモブにしては少し珍しい着こなしをしている。





マラソン大会

マラソン大会で転んでしまったモブの姿。スニーカーは鬼瓦に譲ってもらったもので、スタイリッシュでかっこいい。





子供の頃②

5歳の頃に家族でピクニックに行った時の姿。小学生の時よりも前髪が短く、目がキラキラしている。



朝日 豪

CV:桑畑裕輔/熊澤玄徳

「覚醒ラボ」のメンバーでパイロキネシスの能力者。自らを「全てを焼き尽くす火炎の申し子」と語るが、誰にそう呼ばれているのかは不明。



星野武史

CV:天崎滉平

「覚醒ラボ」に通うメンバーの一人。念動力を得意としている。テルの特訓を受けたことで成長し、朝日とともに【爪】に対抗する。



とある資産家の息子。「覚醒ラボ」を個人で所有し、人工的な超能力の覚醒を研究している。ド派手なファッションが特徴的。

密裏賢治

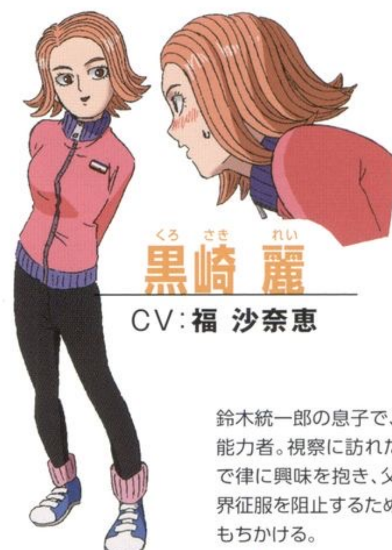
CV:ふくまつ進紗



白鳥兄弟

CV:花倉洸幸

「覚醒ラボ」のメンバーで、二人ともテレパシスト。丸い顔が兄の大地、四角い顔が弟の海斗。寺蛇が裏切った振りをした際は、彼を疑い思考を読んで本心を確認した。



黒崎 麗

CV:福 沙奈恵

「覚醒ラボ」のメンバー。持ち前の超直感力を活かして案内役になることが多い。律やテルといったイケメンにドキドキする一面も。



鈴木統一郎の息子で、強力な超能力者。視察に訪れた第7支部で律に興味を抱き、父による世界征服を阻止するために共闘をもちかける。

鈴木 将

CV:國立 幸



ショウとともに【爪】に反抗する超能力者。超能力の中でも珍しい、回復能力をもっており、大月と東尾をサポートする。

福田

CV:木内太郎



ショウとともに【爪】に反抗する超能力者。物質を分解して別の物体に再構築する超能力をもつ。

東尾

CV:松川裕輝

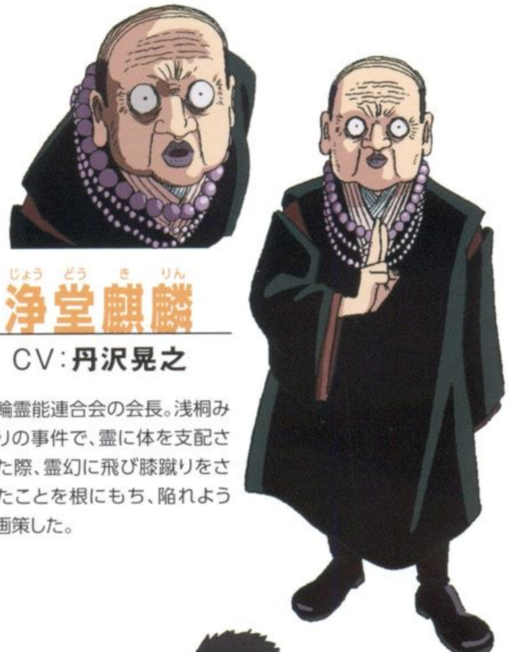


大月

CV:岩崎諒太

ショウとともに【爪】に反抗する超能力者。ハリセンで衝撃波を増幅させて戦う。確かな実力をもっているが、彼の武器を見た律はちょっと不安そうだった。

その他



浄堂麒麟

CV：丹沢晃之

日輪霊能連合会の会長。浅桐みのりの事件で、霊に体を支配された際、霊幻に飛び膝蹴りをされたことを根にもち、陥れようと画策した。



森羅万象丸

CV：楠 大典

日輪霊能連合会に所属する霊能力者。真面目でお人好しだが、聞き込みをした子供に防犯ブザーを鳴らされるなど、ちょっと不器用。都市伝説の一件以来、霊幻と親交がある。



浄堂の取り巻き

浄堂が従えている日輪霊能連合会のメンバー。安易にみのりに近づいたため、本性を現した最上の攻撃を受けてしまう。

晩年



青年

最上啓示

CV：石田 彰

霊能力者だったが、自ら命を絶ち悪霊と化した。取り憑いたみのりを通してモブを苦しめる。峯岸との戦いで封印が破れたあとは、どこかへ消えてしまった。

制服

拘束衣



浅桐みのり

CV：M･A･O

最上に取り憑かれていた女子中学生。弱者を探しては、先頭に立っていじめる冷たい性格だったが、モブに救われ改心した。



浅桐正志

CV：星野充昭

みのりの父で、大企業の代表を務める資産家。悪霊に取り憑かれた娘を救おうと、霊能力者達を集め、高額の報酬で除霊を依頼した。

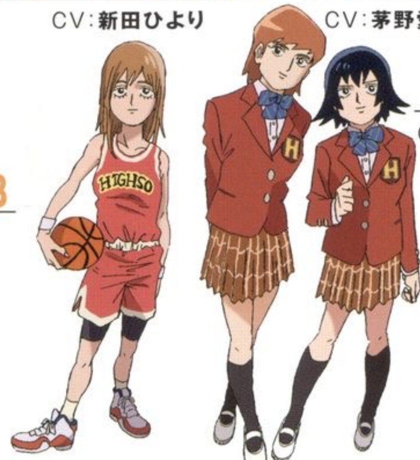


不良A・不良B

枝野 剛（えだの つよし）

CV：林 勇

▲黒酢中学校の番長とその取り巻き。自分達が敵わない相手はテルに倒してもらっていた。テルのほうは、彼らを従えていることが、自分の学校生活における権威の象徴になると考えていた。



バスケ部の女子

CV：新田ひより

チヒロ

CV：茅野愛衣

マリ

CV：小岩井ことり

▲聖ハイソ女学園の女子生徒。女装してやってきたモブに驚きはしても笑わない良い子達。バスケ部の女子はモブに庇ってもらいときめいていた。



▶幽霊にうなされ悩んでいたが、誰にも相手にされずに困っていた花子と、その恋人の太郎。太郎は最後まで霊幻を疑っていた。

太郎（たろう）

CV：羽多野 渉

花子（はなこ）

CV：渡辺智美



ヒトシ

CV：櫻井トオル

▶こう見えて英語がペラペラ。亡くなった父親の遺産目当てで、降霊を依頼しに来たが、霊幻に拳で説教された。



番長達

▼各中学校の番長達。テルを倒した塩中学校の裏番と噂される白Tポイズンを探し出し、戦いを挑もうとした。

味噌中学校・富士（ふじ）

CV：西 凜太朗

マヨ中学校・五頭（ごず）

CV：濱野大輝

麺つゆ中学校・赤城（あかぎ）

CV：綿貫竜之介

豆板醤中学校・剣崎（けんざき）

CV：関 俊彦

醤油中学校・磐梯（ばんだい）

CV：山下誠一郎



女店員

CV：佐藤利奈

男店員

CV：高木 渉

▶開運商法のカモにモブを選び、「幸せの壺」を無理やり買わせようとした2人組。その報いか、霊幻に憑いていた霊が乗り移ってしまったようだ。



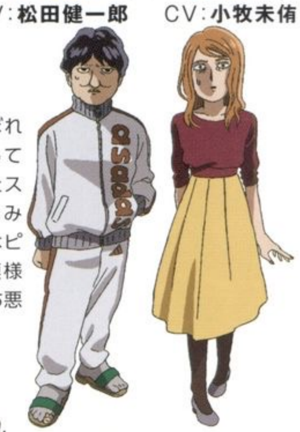
杉本（すぎもと）

CV：原 良丞

細川（ほそかわ）

CV：綿貫竜之介

▲モブをカツアゲしようとした高校生2人。エクボに取り憑かれ、律の超能力で首を絞められ、最後は肉体改造部に制裁された。



隣人

CV：松田健一郎

▶女性に一目ぼれし、幽体離脱して覗き見していたストーカー。ちなみに彼の超能力はピンクのハート模様でちょっと気持ち悪い。

女性

CV：小牧未侑

◀自宅で起こる心霊現象に悩まされていた女性。窓に目張りをし、クマができるほど思いつめていた。



▶矢部総理大臣についているSP達。スピーチの最中に乱入した島崎に発砲するが、通用しなかった。

SP達



矢部総理大臣（やべ）

CV：木村雅史

◀世界征服のための人質として誘拐される。だが、芹沢からはただのおじさんだと思われ、無事解放された。



海老原モリ蔵（えびはら ぞう）

CV：関 俊彦

◀霊幻が出演した番組の司会者。アフロ頭と派手なスーツ姿が目を引く。場を盛り上げるのが上手く、霊幻は追い詰められることに。



福田鈴夫（ふくだ すずお）

▶蒙古斑プロダクション所属の子役タレント。狐の動物霊に憑かれた役を完全に演じきった。



茂木達也（もぎ たつや）

CV：綿貫竜之介

▲霊幻が出演した番組のゲストの一人。SF学者。取り憑かれていた姿は少年の演技だとわかった瞬間、霊幻に疑問を向けた。



SATAKE（サタケ）

CV：佐武宇綺

◀霊幻が出演した番組のゲストの一人。雑誌の表紙を飾るほどの大人気アイドルで、彼女目当てで番組を観ていた男性の姿も。

その他



匂い嗅ぎ

CV：堂坂晃三

聖ハイソ女学園に出没していた悪霊。生前は女性と縁がなかったらしく、死んで女子校に居ついてからようやく楽しくなったらしい。



総長

CV：藤原啓治

骨井戸トンネルで30年前に起きた事故の被害者で、暴走族のリーダー。仲間達との思い出の写真をモブに見つけてもらい、感謝を告げて成仏した。



天井破り

CV：小野塚貴志

ゴキブリに驚いてジャンプした拍子に天井に頭が刺さり、死亡して悪霊となった。肝試しに訪れた花子に悪夢を見せていた。



トンネルの悪霊

骨井戸トンネルの奥に潜んでいた悪霊。総長や他の悪霊に侵入者を脅かすよう命令していたが、モブの敵ではなかった。



くねくね

農家の土地に取り憑いていた上級悪霊。体に見えるのは霊気を送り込んで操っている植物の集合体で、本体は地中に埋まっている頭蓋骨。



謎のUMA

山に現れた謎の生物。食欲のタガが外れて巨大化していたが、食べたものを吐き出したら元の姿に戻った。



おひきさん

CV：小林ゆう

人々の恐怖や好奇心を媒介に出現した怪物。雨の日の夕方に人形を引きずって現れ、児童を連れ去り、沼へと引きずり込む。



ダッシュ婆

CV：水沢史絵

車なみのスピードで走り、追いついた人間の背中におぶさり絞め殺すと言われていた。しかし正体はただのランニング中のおばあさん。



赤いレインコートの男

CV：うえだゆうじ

深爪町で噂になっていた男。都市伝説ではなかったが女子児童を狙う露出魔なうえに、スタンガンを持ち歩く危険人物。

第2期オープニング






OPENING THEME

『99.9』

作詞・作曲・編曲:キタニタツヤ
歌:MOB CHOIR feat. sajou no hana
絵コンテ・演出:立川 譲／作画監督:亀田祥倫
モーショングラフィックス:
10GAUGE(依田伸隆・松木大祐・小林敦史・浜田章浩・田村勇樹)














立体パズルや万華鏡がモチーフとなっていて、まるでおもちゃ箱のような映像。他にもゾートロープと呼ばれる手法など、さまざまな趣向が凝らされている。登場キャラクター達がドミノ倒しになっていく様は特に印象的。









第2期エンディング










ENDING THEME

『メモセピア』

作詞・作曲:渡辺 翔/編曲:キタニタツヤ
歌:sajou no hana/絵コンテ・演出・作画:秦 綾子

2期のエンディングは、秦 綾子がデザインしたキャラクター達がかわいらしい。ちなみにここに掲載した【爪】元幹部やショウ達が勢揃いしているカットは12話のバージョン。このカットは話数ごとに人物や人数が変化した。ここではそのうちのいくつかを紹介。










別バージョン


6話


8話



ANOTHER ENDING THEME

『グレイ』

作詞・作曲・編曲:キタニタツヤ
歌:sajou no hana

『目蓋の裏』

作詞・作曲:渡辺 翔/編曲:キタニタツヤ
歌:sajou no hana

『いきるひとびと』

作詞・作曲・編曲:キタニタツヤ
歌:sajou no hana

話数によっては『メモセピア』ではない曲がエンディングテーマになることも。1・7話は『グレイ』、5話は『目蓋の裏』、そして最終話は『いきるひとびと』だった。

001

ビリビリ
〜誰かが見てる〜

STAFF
脚本:瀬古浩司／絵コンテ:安斎剛文
演出:大矢雄嗣／作画監督:吉田奏子



STORY

憧れの幼馴染であるツボミと釣り合う男になるために、と米里から焚きつけられ、モブは生徒会長選挙に出馬をすることに。しかし緊張のあまりスピーチを無言で終えるという大失敗をしてしまう。落ち込むモブだったが、女子生徒のエミから、勇気を出して壇上に立つ姿を見て好きになったと、告白される。

次回予告

霊幻「都市伝説を追って深爪町へゴー！　人面犬、ダッシュ婆、赤いレインコート、そしておひきさん、と盛りだくさんだ！　あとは任せたぞ、モブ。次回『モブサイコ100 Ⅱ』第2話、『都市伝説〜噂との遭遇〜』。Ⅱもリアタイが、正しい判断です」



EYE CATCH

解説

●ブロッコリーの種(001)

バイト代として、霊幻はモブにブロッコリーの種を渡す。これが後々、調味市を騒がす大きな事態を引き起こすとは、二人とも想像すらしていなかったに違いない。



●ドット絵(001)

超能力で育てたトマトには旨味がまったくなかった……ということを表わしたこのカットは、1期パッケージの映像特典を思い出させるドット絵。9話で、ショウがモブと律の両親を避難させようとした際の回想にも、同じくドット絵が使われている。



●本棚(001)

画面真ん中の「27%」という背表紙が目を引くが、他にもこの本棚には今回のお話に関するような本が並んでいる。左端には『REIGEN』というタイトルの本も。



●森羅万象丸vs.赤いレインコート(002)

子供達からは「不審者vs.不審者」と言われた両者の戦いは、なぜか格闘ゲームふう。戦闘前のセリフからカットイン演出まで、凝っている。



●霊とか相談所ホームページ(002)

霊幻が作ったホームページは、二昔ほど前のような古臭さ。エクボからは「胡散くさ」と言われていたが、これで効果があったのだから世の中わからない。



002

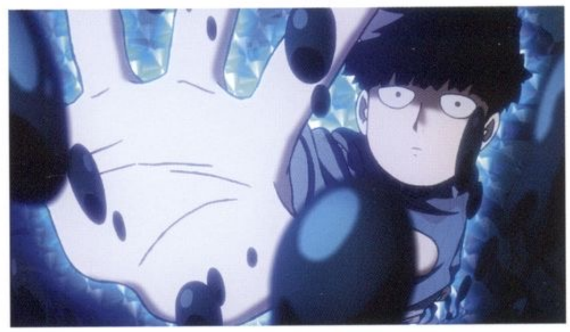
都市伝説
～噂との遭遇～

STAFF 脚本:瀬古浩司／絵コンテ・演出:重原克也
作画監督:亀田祥倫












STORY

深爪町にやってきたモブと霊幻は、町にはびこる都市伝説を消し去ってほしいと依頼を受ける。偶然知り合った霊能力者・森羅万象丸と手分けをして調査を始めるが、霊幻が見つけた「人面犬」は落書きされただけの普通の犬だった。ところが森羅万象丸の前には、本物の「おひきさん」が現れる!

次回予告

霊幻「すげえ! ホームページ効果で次から次へと依頼が来るぞ! とか思ってたら、モブの様子がちょっと変だぞ! どうした、モブ? 次回『モブサイコ100 II』第3話、『重ねる危険～変質～』。録画? それも正しい判断です」

EYE CATCH





003

重ねる危険
～変質～

STAFF
脚本:瀬古浩司／絵コンテ・演出:藤澤研一
作画監督:小笠原 真



STORY

新しく作ったホームページの効果もあって、霊とか相談所には多くの依頼が来るようになった。ある日、2件の仕事を終えた霊幻とモブがもう帰ろうかと思っていると、そこに「心霊スポットで写真を撮りたい」という大学生達の依頼が舞い込んだ。すでに遅い時間ではあったが、霊幻はこれを引き受けて撮影に同行する。

次回予告

霊幻「金持ちのお屋敷に招待された！　デカい依頼の匂いがぷんぷんするぜ！　がっぽり稼ぐぞ、モブ！　次回『モブサイコ100 Ⅱ』第4話、『中身～悪霊～』。動画配信サービス？ もちろん、正しい判断です」

EYE CATCH



004

中身
～悪霊～

STAFF
脚本:瀬古浩司／絵コンテ:向井雅浩・立川 譲
演出:三宅将平／作画監督:内田直人



STORY

有名な資産家・浅桐正志から依頼を受けて、モブ達は彼の屋敷を訪れた。邸内には他にも大勢の霊能力者達が集められていて、浅桐は「中学生の娘、みのりに憑いた悪霊を祓ってほしい」と彼らに頼む。そしてみのりの様子を見たエクボは、彼女に憑いている悪霊が、世紀の霊能力者・最上啓示であることに気づく。

次回予告

モブ「あれ……？　僕、何してたんだっけ？　何か大事なことを……全然思い出せないや……あ、早く学校行かなきゃ。次回『モブサイコ100 Ⅱ』第5話、『不和～選択～』」

EYE CATCH



解　説

●『REIGEN』(003)

事務所の机に置かれた本の中には、特別編で霊幻が刊行しようとした『REIGEN』も見える。しかも訪れた客に背表紙が見えるように置かれている。



●最上啓示(004)

最上は、エクボいわく「最強の悪霊」。原作ではモブが「僕より強いです」と言っている場面もあり、作品内でも最強格の存在として描かれている。



●次回予告(004)

最上の作り出した世界にモブがとらわれたところで4話は終わる。そんな物語の展開を踏まえて、4話は霊幻ではなくモブが次回予告を担当している。

●パラレルワールド(005)

最上が作った世界では、モブには家族がいない。アニメでははっきりとは描かれていないが、モブは現実と同じ一軒家で一人暮らしという、特殊な環境で日々を送っている。またこの世界での一連のシーンは、通常の画角ではなくシネマスコープサイズになっていて、異質な世界観を際立たせている。



005

不和
～選択～

STAFF
脚本:瀬古浩司
絵コンテ・演出・作画監督:伍 柏諭











STORY

幽体離脱してみのりの体内で除霊を試みるモブだったが、返り討ちに遭って、最上が生み出したパラレルワールドに囚われてしまう。そこでのモブには超能力がなく、学校でみのりと彼女を取り巻く生徒達にいじめられる日々を過ごすことに。そんな世界で半年が経ち、その間、モブの中には負の感情が積み重なっていく……。

次回予告

霊幻「おい、このクソ忙しい時に同級生とたわむれてんじゃねーよ、モブ！　そいつらはお前を利用してるだけなんだぞ！　ったく、成長しねぇなお前はよ～。次回『モブサイコ100 Ⅱ』第6話、『孤独なホワイティー』。DVD?　とても正しい判断です」

EYE CATCH



おまけ

アニメ本編で披露されたモブのさまざまな姿をさらにピックアップ!
妄想の中で普段とは一味違う格好をしているモブの姿にも注目だ。



お風呂

何か思い悩んだ時、モブは無意識にお風呂で考えることがある。体育座りで行儀よく収まる姿は、なんだか弱々しい。



なりたい自分

今しかできないことがあるんじゃないかと漠然と考えるモブ。霊幻がたとえた「バンド、ダンス、ヒッチハイク」な自分を想像するも、しっくりこない。





子供の頃の体操着

小学生の頃の一場面。超能力にもう飽きてしまったというツボミは、運動会で足の速い男子に夢中。運動が苦手なモブはその後ろでずっと息切れ……。



子供の頃の服

霊幻に相談に行った時の服の長袖バージョン。まだ感情をセーブする前なので愛嬌があり、ツボミに楽しそうに超能力を見せていた。



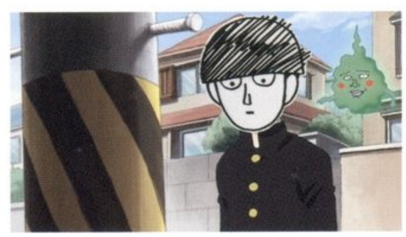
白Tシャツ

いつも学ランの下に着ている無地の白Tシャツ。誇山との激闘で学ランが破れ、塩中学校の裏番と噂されていた"白Tポイズン"の姿に。



私服①

1期第6話だけのレアなピンク色のパーカー。依頼人が刃物を取り出したものの、モブが助けるまでもなく霊幻が殴り飛ばした。



サイコヘルメット教・教祖

『(笑)(カッコワライ)』の元信者達は拠りどころをエクボからモブに変えた。彼らはこの似顔絵でずっとモブを捜索しているが、本人はまったく気づいていない。



私服②

モブが律と洋服を買いに行く場面で披露された私服。モブの私服は明るい色使いのものが多い。



マッチョ

精神世界に乱入したエクボの言葉で、失くした記憶を思い出していくモブ。それにともなって筋肉を取り戻すも、盛りすぎ。



和装

武士を思わせる格好にヒーローマントを羽織った姿。サイコヘルメット教の教祖らしい姿として米里がイメージした。

006

孤独なホワイティー

STAFF
脚本:立川 譲／絵コンテ:安斎剛文
演出:蓮井隆弘／作画監督:小柏奈弓



STORY

霊幻の急な呼び出しで、友人達との楽しい時間を台無しにされたモブ。霊幻はそんなことはお構いなしで軽口を叩き、モブの反発を招いた。翌日からモブはバイトに来なくなってしまい、霊幻は孤独を感じる。しかし、霊幻は気持ちを切りかえて仕事に取り組み、その結果、霊とか相談所は次第に評判になっていく。

次回予告

霊幻「21世紀の新星・霊幻新隆、テレビ初・出・演！ しかも全・国・放・送！ ふ、ついに俺もここまで来たか……見てろよ、モブ！ 次回『モブサイコ100 II』第7話、『追い込み～正体～』。Blu-ray？さらに正しい判断です」

EYE CATCH



007

追い込み
～正体～

STAFF
脚本・絵コンテ:立川 譲
演出:飛田 剛／作画監督:亀田祥倫



STORY

霊能力者としてテレビ出演が決まり大喜びの霊幻だったが、それは彼に恨みをもつ浄堂麒麟が仕組んだ罠だった。生放送中にインチキ扱いされた霊幻は、悪徳霊能力者として世間から叩かれる存在になってしまう。そして自宅に押し寄せた記者達に追い詰められた末に、記者会見を開く羽目に陥る。

次回予告

霊幻「モブがついにツボミちゃんに告白だと!? しかもマラソン大会で10位以内をねらうって!? 仕方ねえ、俺もひと肌脱いでやるか！ 次回『モブサイコ100 II』第8話、『それでも～前へ～』。初回限定？最も正しい判断です」

EYE CATCH



解説

●カラオケにて(006)

3人でカラオケに来たモブ達。ここで暗田と犬川がデュエットしている『脳感メルヘン♥』は、ドラマCD『サイキックヒューマンショー』に収録されている。



●ゲスト出演者(007)

番組出演者の一人SATAKEの名前は、ツボミ役の声優・佐武宇綺がモデルになっている。声も彼女が担当している。



●相談所内の写真(008)

ボードに貼られた写真のうち、左端にある一枚が、第6話とは違いモブが写ったものになっている。たった一枚だけのこの写真を見つけるとは、ツボミもなかなか目ざとい。



●夕食(008)

マラソン大会が終わった夜の影山家は、たこ焼き、角煮、豆腐といった献立。がんばった息子達のためということで、モブと律が好きなものばかり用意されている。



008

それでも ～前へ～

STAFF

脚本:瀬古浩司
絵コンテ・演出:大矢雄嗣／作画監督:吉田奏子











STORY

恒例の学校行事、マラソン大会が近づいてきた。モブは来年の大会で10位以内に入ったらツボミに告白しようと考え、体を鍛えていた……のだが、受験勉強で忙しくなるため、がんばるなら今年しかないと気づく。かくして10日後のマラソン大会に向けて、モブの猛特訓が始まった。

次回予告

霊幻「超危険な超能力組織【爪】が調味市に攻め込んできた！　ボスに幹部に外人部隊！　こうなったら、この霊幻新隆が立ち上がるしかないようだな。次回『モブサイコ100 Ⅱ』第9話、『見せてみろ～集合～』。違法ダウンロード？ あなた呪われますよ」

EYE CATCH





009

見せてみろ
～集合～

STAFF
脚本:瀬古浩司
絵コンテ・演出・作画監督:竹内浩志



STORY

マラソン大会を終えて帰宅したモブを待っていたのは、火事になった我が家だった。炎の中に家族の遺体を見つけたモブは我を失いかけるが、それはダミー人形だとエクボからなだめられて、どうにか踏みとどまる。その頃、【爪】のボスである鈴木統一郎は、ある計画を実行に移そうとしていた。

次回予告

霊幻「【爪】の主力・5超が調味市で猛威を振るう！　そんな中、超能力部隊とボスの息子・ショウが動き出す。モブ、寝てる場合じゃねえぞ！　次回『モブサイコ100　Ⅱ』第10話、『衝突～パワー系～』。私のおすすめ？　お手軽Aコースは Blu-rayのセット」

EYE CATCH



010

衝突
～パワー系～

STAFF
脚本:瀬古浩司／絵コンテ・演出:重原克也
作画監督:内田直人・中村 颯



STORY

【爪】は調味文化タワーを占拠した。国はテロ対策特殊急襲部隊を派遣するが、【爪】の構成員達によって撃退される。だが鈴木統一郎の息子・ショウと手を組んだ律は、構成員達を倒してタワーへの侵入を試みる。また霊幻やテル、かつての第7支部幹部達も、【爪】に対抗すべく行動を開始した。

次回予告

霊幻「目を覚ましたモブは調味文化タワーをめざす！　が、その前に立ちはだかったのは5超の峯岸。最強の5超・島崎は俺に任せとけ！　次回『モブサイコ100 Ⅱ』第11話、『指導～感知能力者～』。真面目BコースならBlu-rayと単行本」

EYE CATCH



解説

●テルと【爪】との戦い(009)

テルと【爪】の刺客との戦いは、アニメ本編ではカットされたが、アイキャッチでその模様が描かれている。この回の終盤、島崎との戦いでテルは「念爆」を使うが、これはその刺客が操っていた能力。空鞭やパイロキネシスと同様に、自分の技として身につけたようだ。



●合体奥義(011)

まさかの星野&朝日による合体奥義「念動火柱」が敵に炸裂! ……と思いきや、結局はその技に紛れて接近したテルが敵を倒した。とはいえ、二人とも初登場時とは比べものにならないほど成長している。



●最上の再登場(011)

小瓶から解き放たれ、再び現れた最上の前では、5超の峯岸と言えど手も足も出なかった。最上は「ときに人に厳しくするのも必要だ」とモブに言い残して消えていくが、この話数の最後で、モブは彼なりにこの言葉を解釈した行動をとる。



●アイキャッチ(011)

11話のアイキャッチは、当たりくじつきのアイスの棒を手にした幼い影山兄弟。これは原作11巻のおまけ漫画を題材にしたもの。【爪】によって荒らされた商店は、モブにとってこのアイキャッチのような思い出の場所だったのだろう。

011

指導
～感知能力者～

STAFF
脚本:瀬古浩司/絵コンテ・演出:土上いつき
作画監督:小柏奈弓・吉田奏子・亀田祥倫











STORY

【爪】との戦いは激化し、テルや覚醒ラボのメンバー、律とショウ、第7支部の元幹部達は、それぞれにタワーをめざして進んでいく。またようやく目覚めたモブも、タワーへと向かう途中で5超の峯岸と対峙する。だがそこに魔津尾が現れ、彼の持つ小瓶が割れてしまったことで、思わぬ事態が起こる。

次回予告

霊幻「ついに敵の根城に乗り込んだモブ! 芹沢を退けボスにたどり着けるのか。その頃、息子のショウを倒したボスは真の姿を明らかにする。次回『モブサイコ100 II』第12話、『社会復帰戦～友情～』。本気のCコースだとBlu-ray、単行本、イベント!」

EYE CATCH



012

社会復帰戦
～友情～

STAFF
脚本:瀬古浩司／絵コンテ:高橋敦史
演出:曽根利幸・立川 譲／作画監督:石田廣二・藤巻裕一











STORY

タワーを上っていくモブの前に立ちふさがったのは、5超の芹沢だった。芹沢が鈴木統一郎に利用されているだけだと気づいたモブは、彼を説得しようと試みる。一方、タワーの上階で鈴木統一郎に戦いを挑んだショウは、その圧倒的な力の前に追い込まれていた。統一郎はさらなる一撃を見舞おうとショウに迫るが……。

次回予告

霊幻「キレたモブと、エネルギーのバケモン鈴木との最後の戦いが幕を開ける！ あんま無茶すんじゃねえぞ、モブ……！ 次回『モブサイコ100 Ⅱ』第13話、『ボス戦～最後の光～』。最終回はリアタイが、正しい判断です」

EYE CATCH




解説

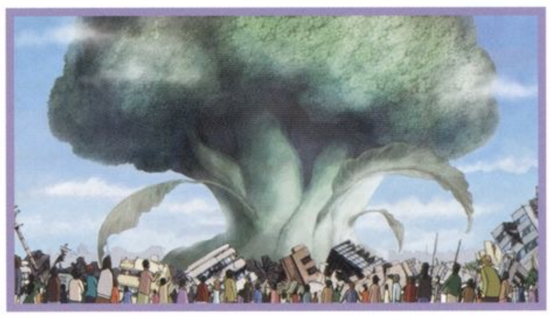
●芹沢と鈴木(012)

芹沢が鈴木を慕って従うのは、引きこもっていた自分を外へ連れ出してくれたからだった。そしてその時に鈴木に渡された傘を、彼は片時も手放せなくなる。原作では「5超の中でも最強の男」とまで言われる芹沢だが、その力は鈴木によって利用されているだけだった。



●巨大ブロッコリー(013)

モブが左の胸ポケットに入れたままだったブロッコリーの種は、莫大なエネルギーを吸収し、ビルより大きく育ってしまった。原作ではこの先、この巨大ブロッコリーのせいで騒動が起こっていく。



●進む道(013)

鈴木による事件が終わった後、それぞれの進むべき道として、【爪】第7支部の元幹部達や芹沢が仕事に就こうとする様が描かれる。原作ではモブも、学校での進路希望調査をきっかけに、将来のことを考えるようになる展開がある。



ボス戦
～最後の光～

STAFF
脚本:瀬古浩司／絵コンテ:サトウシンジ
演出:大矢雄嗣・立川 譲／作画監督:亀田祥倫・吉田奏子



STORY

100%になったモブは全力で戦うことを決意した。モブと鈴木統一郎という、強大な力をもった超能力者同士の戦いは、誰にも止められないまま激しさを増していく。そして鈴木は自分の力を制御しきれなくなり、爆発してしまいそうになる。モブはそれをどうにか止めようとするが……。





最終話のアイキャッチは、ONEがアイディア出しをして、原画まで描いている。それを元に動画として動かしているのは、2期のアイキャッチを手がけてきた賢者。

EYE CATCH

監督 立川譲 インタビュー

Profile
たちかわ・ゆずる／アニメーション監督。主な参加作品は、劇場版『名探偵コナン ゼロの執行人』（監督）、『デス・パレード』（原作・監督・シリーズ構成）ほか。

アニメになった形を想像できなかった

―立川監督が今作を引き受けようと思われた理由がありましたらお聞かせください。

やはりキャラクターの魅力でしょうね。自分で扱えないくらい大きな力をもっている主人公はたくさんいますけど、モブはそれをいらないものと考えているところが珍しくて魅力的でした。そして一方で、自分になんの力もないのに虚勢を張って人を騙して……というと少し語弊がありますけど（笑）、そうやって生きている霊幻がいて。そんな二人の組み合わせがすごく面白いなと思ったんです。

―では、どのようなアニメにしようと考えられましたか？

アニメになったらどうなるのかという形を想像するところで、最初に悩んでしまいました。たとえば、原作がカチッとした絵で描かれているものは想像しやすいんです。原作を100点の答えとして、それに色をつけて、どうやって動かすかを考えればいい。でも『モブサイコ100』は、どうやってアニメーションに落とし込むか、いろいろなやり方が考えられる作品だと感じました。

―まず大事になるものの一つが、キャラクターデザインかと思います。

キャラクターデザインは亀田くんに、いろいろなパターンでラフを描いてもらいました。ONEさんの絵柄を踏まえたデザインの他に、もうちょっとモブをイケメンふうに描いたものなどもありましたね。当時、ネットで『モブサイコ100』のファンアートを見たら、けっこうモブがキラキラした、イケてる感じに描かれているものが多かったので。でもそうしたものを見つつも、やっぱり僕と亀田くんとしては、原作の雰囲気でいきたいね、なんて話をしていました。ONEさんは、イケメンふうの絵柄にしたラフをお見せすると「格好良くていいですね」と言ってくださるんですけど、僕達としては「いやいや、ONEさんの絵のほうがすごく味があっていいんですよ」と。それにモブがイケてる外見になっちゃうと、いい感じの青春を過ごせそうと言いますか、悩まなさそうじゃないですか（笑）。そんなこともありつつ、最終的にはONEさんの絵を踏まえた今のキャラクターデザインになりました。

原作側とアニメ側の幸福な関係

―続いてはシナリオについて、全体的な方針をどう考えられたのかお聞かせください。

アニメ化される前から熱烈なファンが大勢いる作品ではありましたが、きっとアニメで初めてこの作品に触れる人も多いだろうと思いました。だから、コアな原作ファンに向けてすごくコアなフィルムを作るというよりは、『モブサイコ100』で描かれている普遍的な要素……青春時代の葛藤や、人と人の関わり合い、成長。そういう要素を上手いこと広げられないか、と。そうやって間口を広げるための方法の一つとして、序盤にキャッチーな話を入れたいと僕から提案しました。たとえば、原作では7巻に収録されている女子校に女装して潜入する話を、アニメでは2話にもってきています。

―シナリオに関して、ONE先生とやりとりされたことはありますか？

1期の11話で、子供の頃のモブと律が森で迷うシーンは、僕のほうから「モブがどうして律のことを尊敬しているのかわかるエピソードがほしい」と意見を出して、ONEさんがそれに対してアイディアを出してくれました。他に、アニメでは2期の6話で描きましたけど、霊幻が霊とか相談所を立ち上げる前に何をやっていたのかは、原作では描かれていないんです。ただ、「営業とは」みたいなセリフがあったり、過去を匂わせることを霊幻が言っていたので、「保険の営業か、水の販売をしているのはどうですか？」と提案したら、ONEさんが「水がいいですね」と。そのように、「こういう要素を入れたい」とこちらが言ったものをONEさんが受け止めてくれることはありました。あとは2期8話で、霊とか相談所にツボミちゃんが来るエピソード。あれは単行本のエピソードをアニメにしたのではなく、ああいうエピソードを8話に入れたいと言ったら、ONEさんがアニメのために考えてくれたんです。そして後になってそれを漫画にされた、という流れでした。そういった協力体制を、アニメ側と原作側の間で作る

立川 譲

ことができたのは、『モブサイコ１００』ならではなのかもしれないですね。

落ちたあとにまた立ち上がる姿が面白い

―― 監督が絵コンテや演出を直接担当された話数に関してお聞かせください。

作品の方向性が定まっていないこともあり、1話はもちろん、序盤の話数は自分で絵コンテをきって作品の方針を固めました。シリーズを通しての「型」を作ろう、という意識でしたね。これまで見たことのないイメージのアニメにしたかったので、「大丈夫かな?」と不安に思いつつも、いろいろな要素を入れていきました。

―― 監督は、2期の6～7話では脚本も担当されています。

もともとこの『モブサイコ１００』は、僕が自分でシリーズ構成と脚本をやるという選択肢もあったかもしれないのですが、瀬古さんにシリーズ構成をお願いしようと思ったのは、原作の内容を取捨選択する基準に客観性が欲しかったからなんです。でも2期6～7話の霊幻のエピソードに関しては、誰に脚本をお願いしても、取捨選択するところが人それぞれの好みにしかならない気がして。だったら自分の好みで最初からやろう、と(笑)。それに実は制作上の理由で、自分が7話の絵コンテを担当することは、脚本をやることになる前から決まっていたんです。脚本を自分で書くと映像にする時のイメージが整理されますから、絵コンテを速く起こせるんですよね。そういった複合的な理由から、脚本をやらせていただきました。

―― 霊幻というキャラクターに対しては、思い入れがあるのではないでしょうか?

それはあります(笑)。1期の段階ではまだ謎が多いキャラでしたよね。ときどきモブに刺さるセリフを言ったり、実力はないのに度胸があって踏み込んだりするところから何かは感じられるけれど、はっきりしない部分が多数残されていた。でも2期6～7話でどんどんと霊幻の内面に踏み込む展開が描かれていって。やっぱりキャラクターは外向きだけでなく、内面まで見えたほうが面白い。それにたとえば、有名企業に就職したエリートサラリーマンの話なんて、つまらないじゃないですか。そこから転落して、落ちるところまで落ちたあとに、また立ち上がる姿が面白い……というか、自分は好きなんです。だから霊幻の転落と、その後に持ち直すまでが描かれた6～7話にひかれるのかなと思います。律やテルにもそういうところはありますよね。モブに対することで、ちょっとほの暗い部分、内側の部分に向き合うことになる。そういう場面は描いていて楽しいです。

―― 人間心理の奥深くに踏み込むようなところは、『デス・パレード』など監督の他の作品にも通じるところがある気もします。

そうかもしれません(笑)。そういうところを描くと、キャラクターが生きている感じがするから、好きなんでしょうね。2期までやって、エクボ以外は大きな山場というか、成長するところをだいたい描けたかな、と。そういった面を描くとキャラクターの魅力が増しますし、作品全体の人気も盛り上がる。僕だけではなく、ファンも求めているところなのかなと思います。

―― 主人公であるモブについてはいかがでしょうか?

スタッフの誰かに「立川さん、学生時代モテてたでしょ? モブの気持ちなんて絶対わからないでしょ?」みたいなことを言われたんですけど、逆です(笑)。クラスの中では、中心から離れた位置でみんなを見ているようなタイプだったので、モブの気持ちはよくわかります。王道から距離を置いているタイプだったと言いますか。ゲームで言えば、スーパーファミコンじゃなくてメガドライブのほうが好き、みたいな(笑)。そこまではっちゃけることなく生きてきたので、モブには共感しますし、とても好きなキャラクターです。でも周りからは「霊幻っぽい」と言われてしまう(笑)。

―― 「霊幻っぽい」という言葉は、いろいろな受け取り方ができそうですが……。

つまりは「インチキ臭い」ということですよね。亀田くんにはハッキリそう言われました(笑)。どこか皮をかぶっている感じがするんでしょうね。

―― ところでこの本の表紙イラストは、監督がレイアウトのラフをきられたとうかがいました。

2期8話のマラソン大会のお話の時に、きっとこんな風景が映像の外であったんだろう……そんなイメージです。エクボ、霊幻、律の3人がモブのために協力して何かやってる絵がいいと思って、考えました。1期、2期を通して「モブの成長」を一つのテーマにしてきたので、ガイドブックの表紙としてもマラソンのエピソードを扱うのは合っているんじゃないかな、と。成長した結果、モブの周りに人が集まってきている……みたいなことも表わせますし。ちなみにですが、霊幻はたぶん、練習につき合った最初の日は一緒に走っていたけど、途中で止めてチャリに乗るようになったと思うんです。筋肉痛になったとか、そんな理由で(笑)。

―― では最後にファンに向けてメッセージをお願いいたします。

1期でも2期でも、ファンのみなさんから届くたくさんの感想などが、厳しい制作現場の活力になりました。現場としてはそういった「みんな、観てくれているんだな」と感じられることが本当にうれしいんです。これから制作されるOVAはONEさんがアイディアを出してくれて、一本の話としてちゃんと起承転結がある見ごたえのある内容になりました。芹沢が活躍するエピソードで、長さは短いですけど、ちょっと映画みたいな雰囲気があります。ぜひ楽しみにしていてください。

シリーズ構成

瀬古浩司インタビュー

Profile

せこ・ひろし／脚本家。主な参加作品は『BANANA FISH』『亜人』『いぬやしき』（いずれもシリーズ構成）ほか。

魅力はキャラクターに対する視線の優しさ

―まずは原作を読まれた時の感想からお聞かせください。

とにかくキャラクターが魅力的な作品ですよね。語弊があるかもしれませんが、みんなどうしようもない駄目な人達なんですけど、そうしたキャラに対するONEさんの目線が本当に温かい。ただのキャラというよりは、我々に近い、人間臭いキャラばかりで。そういう人達の間でドラマが生まれていくところが、この作品の一番の魅力だと感じています。最近の世の中は駄目な人に厳しいので、なおのこと、社会とうまく折り合いがつけられない人に対しての目線の温かさが印象に残ります。

―アニメ化にあたって、シリーズ構成はどのように考えられましたか？

1期のお話をいただいた時点では、単行本で言えば9巻くらいまで連載が進んでいました。そこまでを読ませていただいて、1クールでやるなら6巻の【爪】第7支部との戦いまでかなと思って。「そこで終わらせるためにどうするか？」と考えながら、構成を作っていきました。

―そこからシナリオにしていく過程でこだわられた点は？

原作のもつ魅力を損なわないようにと考えました。たとえば3話でモブが初めて100%になる場面など、お話の中で見せ場になるところは、きちっと見せ場になるようにする。当たり前のことですが、それが大事な作品だと思ったんです。

―原作ではもっと先のエピソードだった聖ハイソ女学園のお話がアニメでは2話に組み込まれていたり、構成を組み換えられている箇所もありますね。

とは言え原作がしっかりとしていましたから、それほど多くはないかと思います。聖ハイソ女学園のくだりは、モブが100%になる話を3話にもってくるためには、そこに至るまでのお話を膨らませる必要があったからですね。1期である程度手を入れたのは、他には6話から7話にかけての生徒会のお話くらいです。原作通りにやると3話分は必要なボリュームがあったのですが、アニメ1期は全12話ということもあり、縮める判断になりました。

―細かい点ですが、1期の11話でモブと霊幻の出会いを回想として入れたことには意表を突かれました。

あれは脚本会議の時に立川さんと話して、原作では霊幻視点で描かれているシーンを、モブからの視点で描こうという話になったんです。原作だともう少し先で描かれるエピソードですが、1期でもあの出会いは描いておいたほうがいいだろう、と。もし2期を作ることになっても、原作の内容通りに描けば、今度は霊幻からの視点になるので、まったく同じものにはならないだろうという判断もありました。

―ONE先生から、アニメの脚本に対してご要望はありましたか？

1期の終盤は戦いが続くシリアスな雰囲気になりますが、そのままでは終わりたくないというお話がありました。そこで1期の最後の最後は、ツチノコのエピソードを入れることを、僕のほうから提案させてもらいました。ONEさんは、作品に「笑い」がないと居心地が悪いのかもしれませんね。

第2期のスタートは前々から決めていた

―その後、『モブサイコ100』は2期の制作が決まったわけですが、全体の構成はどのように考えられたのでしょうか。

素直に「原作の続きをアニメにする」という意識でしたね。2期の終わりも、原作の分量的にここしかないというポイントがはっきりとあったので、そこに向けて話数を割り振っていく。1期と同じやり方でした。

―その割り振りは、どのように決めていかれましたか？

現実的に考えていったらああなったという感じですね。例えば最上のエピソードは、アニメの分量的には本来2・5話くらいあるのですが、あとの話数のことを考えると3話分使うわけにもいかないし、かと言って2・5話という中途半端なところで終わらせるわけにもいかず、そうなると必然的に2話に縮めるしかないので、結局は泣く泣く圧縮しました。

―第1話をどこから始めよう、という点は悩まれませんでしたか？

それに関しては、実はもし2期があったら「くねくね」のエピソードからスタートしようと前から決めていたんです。ちょうど1期の終わりのほうのシナリオを書いている頃、原作では【爪】のボスとの最後の戦い

瀬古浩司

が描かれていて、その最後の展開として「ブロッコリーの種が巨大ブロッコリーになる」と聞いていたんです。もし2期をやるとしたら、そのあたりまでをアニメにすることになるので、ラストがブロッコリーなら始まりもブロッコリーにしよう、と。

—— そうやって「くねくね」のエピソードを描いた後は、エミが登場するお話になりますが、そのことによって「自分の気持ちを大切にする」という、2期を通してのキーワードが出てきます。

そこまで深く考えてやったわけではないんですけどね（笑）。「くねくね」のお話はけっこうバカな話なので、その後にはいい話を入れてバランスをとろうというくらいの気持ちでした。そのバランス具合が『モブサイコ100』という作品を象徴するものでもありますし。結果的には、2期の第1話に相応しいエピソードになったかな、と思います。

—— 2期では、1期よりも1話増えて全13話となっていますが、この理由は？

最初は全12話の予定だったんです。でもそうすると、マラソン大会の後でモブの家が燃える場面が、8話Aパートのお尻に来ちゃうんですよ。でもワーナーのプロデューサーの松田（章男）さんが、「この展開はやっぱりその話数の最後にしたい」とおっしゃって。でもそうすると、後の【爪】との戦いがかなりきつくなってしまう……とお話ししたら、「じゃあ、全13話でやりましょう」と。そうおっしゃっていただけたおかげで、展開に少しゆとりをもたせることができました。

普通の少年漫画では見られない魅力

—— 1期・2期を通して思い入れがあるシーン等はありますか？

1期12話の、霊幻無双のシーンでしょうか。霊幻が第7支部の幹部達を説教していくところは、『モブサイコ100』という作品を象徴するシーンではないかと思います。普通の少年漫画だったら戦いで決着をつけると思うのですが、この作品はそうじゃない。それに、霊幻の語ることに納得できてしまうんですよね。悪の組織って、漫画におけるある種のお約束の設定ですから、読む側も特段深くは考えないところがあるじゃないですか。でも現実的に考えると、霊幻の言ってることはもっともだなと思ってしまう。悪の組織がやっていることは犯罪だし、着ているのは変な服だな、と（笑）。

—— 霊幻について言えば、11話での「嫌な時はなぁ！ 逃げたっていいんだよ！」というセリフも印象的です。

従来の少年漫画だと主人公は「逃げちゃダメ」というのがセオリーですが、「逃げてもいい」というところにONEさんのお人柄を感じます。霊幻というキャラクターは本当に発明だなと思いますね。やっていることはうさんくさくて、でも妙なところで常識人だったり。

—— ひと言で言い表わせないキャラクターですよね。

まっとうな人間だとは思うんですけど、詐欺をやっている（笑）。心霊写真をパソコン上で修正したり、せこいことをやっているあたりも好きです。依頼人とのやりとりもいいんですよね。口八丁手八丁なところが、たまらない（笑）。それでいて、料金をぼったくるわけではない。ある種の倫理観があるところが安心できる。

—— ただ、つかみにくいキャラクターかとも思います。

正直なところ、最初は全然つかめませんでした。原作にはないちょっとした場面を作らなくてはいけない時に、そのちょっとしたセリフでさえ考えるのが難しかったです。でも彼の中にモラルがあると明確にわかった時に、腑に落ちました。具体的な箇所は忘れてしまったんですが、1期の序盤か中盤くらいで、ああ、霊幻てのはこういう奴なんだと理解できたんです。

—— モブについては、どのようなキャラクターだと解釈されていますか？

いそうでいないキャラクターだと思います。内向的で無口で人づき合いが苦手で、でも実はすごい力をもっていて……。というのは、それだけ聞くと他の作品にも出てきそうな感じはするんですけど、実際に読んでみると全然違う。モブはモブで、いろいろなことを考えている。そして、連載が進むと着実に成長していく。中学2年生という設定も含めて、絶妙なキャラクターですね。少年漫画、特にバトルもので、キャラクターが年相応に成長していく姿を描いた作品ってなかなかないと思うんですけど、『モブサイコ100』はそれを描いている。「来年になったらちゃんと中3になるんだな」という現実感があるんですよね。まさに等身大のキャラだと思います。

—— あれだけの超能力をもっているキャラクターが、筋トレに一生懸命励むところも面白いですよね。

しかもその動機は「モテたい」ですから（笑）。本当に等身大で、その等身大を真っ正面から描いているところは、この作品の特徴かなと思います。

—— ところで瀬古さんは次回予告も書かれていると聞きました。締めのフレーズも瀬古さんの発案なのでしょうか。

1期の予告の時に立川さんから提示された型があって、それを発展させていったという感じです。ただ、さすがに1期でネタ切れしてしまって（笑）。2期では、締めのフレーズは1期と同じでよいということになりました。あれ以上はどうしてもバリエーションを増やせませんでした。すみません……（笑）。

—— では最後に作品のファンに向けてメッセージをいただけたらと思います。

2期まで観ていただいて、本当にありがとうございました。この先はOVAがあるので、楽しみにしていてください。OVAはONEさんが考えたプロットをいただいて、僕が脚本にしました。つまりはアニメでしか観られない、ONEさんのオリジナルストーリーです。時系列的には2期の最終話が終わったちょっと後、みたいな感じですね。ご期待いただけたらうれしいです。

感情パーセンテージメモリー

日常生活では、怒りや悲しみという当たり前の感情すら制限しているモブ。そんな彼の感情があふれ出した瞬間をたどってみた。

1期



1話



怒り100%



思うがままに動けば何が起きるかわからないため、力の使用を避けているモブ。だが、エクボの言葉に、抑えている感情が許容量を超えて、モブは怒りを露わにした(3話)。



空気の読めない自分に罪悪感を覚えていたが、霊幻の言葉を受けてモブのストレスは0%に。しかし翌朝エクボの再登場で、一気に20%まで上がってしまった(3話)。





???%





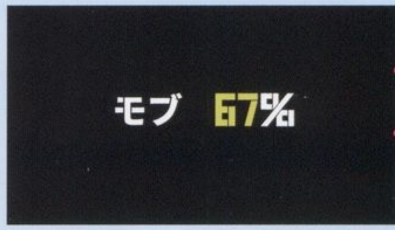
モブは人に向けて超能力を使うテルに対し怒りを感じながらも、自分は絶対に超能力を使わないと決意していた。しかし意識を失ったことで超能力が暴走状態に(5話)。

2期



1話

呪い、犯罪、身勝手な依頼……それらを通して、自分もいずれ超能力を悪用してしまうのではないかという可能性に気づいたモブ。人知れず数値は上昇していた(3話)。



勇気100%



亡者の声にさらされ、現実に帰ることに恐怖を覚える。それでも、自分の力でみのりを助けると決意したモブは、勇気をみなぎらせて最上に対抗!(5話)



???%

最上の器が壊れたことであふれ出した悪霊達に敵わず、モブは敗北したかに思えた。だがモブは、器をなくしたことで強大な超能力を発現、全てを終わらせた(5話)。







霊幻の失言から、モブはアルバイトに行くことを一旦やめ、やりたいことを考え直す。でもカラオケの楽しさはいまいちわからなかった?(6話)

キャラクターデザイン 亀田祥倫 インタビュー

Profile

かめだ・よしみち／アニメーター。主な参加作品は『映画ドラえもん のび太の宝島』（キャラクターデザイン・総作画監督）、『ワンパンマン』（キャラクターデザイン協力・作画監督）ほか。

内面をえぐるような展開にひかれて

── 原作を読まれた時のご感想をお願いします。

単行本の2巻目までは、まだ作品の方向がよく見えなかったんです。【爪】が出てきたぐらいからアクションものっぽい雰囲気になって、そういう方向なのかなと思ったら、ちょうどテレビシリーズの2期でアニメ化されたところ、単行本で言うと7~9巻あたりで、内面をものすごくえぐるような展開へ突き進んだ。そこにびっくりしたんです。「等身大な中学生の男の子」のリアリティーがあるというか。ONE先生が描きたい作品の本質はこういうところなのかなと。そこを読んだ時、「やりたい！」って思ったんです。だから1期のお話を受ける時にすでに、「2期までやって、絶対にここまでアニメにしたい。ここをやるために1期をやるんだ」というぐらいの気持ちでした（笑）。

── キャラクターデザインにあたって、最初に考えられたことは？

この作品ってカラーのイラストがほとんどなくて、単行本の表紙でさえモノトーンに差し色という描かれ方なんですよね。色によって線の入れ方も変わってくるので、ONEさんにも確認しながら、まずは色を決めていきました。原作では霊幻のネクタイは黒いんですよね。でもアニメでは、モブが全体的に黒いこともあって画面が重くなりすぎるかな、と。霊幻だけは髪が黄色く塗られていたイラストがあったので、それを踏まえてネクタイは紫、緑、青、ピンクなど、いくつかパターンを作ってみました。たしかONEさんは「青」とおっしゃっていたんですが、それだとまっとうなサラリーマンに見えるというか、インチキっぽくない気がして。普通の人が買わないようなネクタイだと「ピンクじゃないですかね」ということで決まりました。

── 色が見えてきたところで、キャラクターデザインを進められていったかと思われますが、ご苦労されたことはありますか？

最初は、ONEさんの絵柄をどうアニメにしていいのかわからなかったんですよ。この絵柄のままでアニメにできるなら面白いだろうけど、それは「超難しいぞ」って思えて。ONEさんのすごいところは影のつけ方なんです。トーンの入れ方が立体的というかリアルで、いろいろと観察されていないと描けない影だと感じました。僕らの業界では「リアル系」と呼ばれるアニメーター達がいて、中でも特に西尾鉄也さんというものすごい方がいるのですが、その西尾さんのような影つけをされているんです。そういうところに魅力を感じたこともあり、難しいとは思いつつも「これは原作通りの絵柄でいきたい」って思いました。関わるアニメーターの誰もが描ける絵にしないといけないので、整理されたものにはなってしまいましたが、それでもなるべく作画の振り幅を大きくとれるようなデザインにしたつもりです。

── 影の入れ方の他にも、特徴的だと思われたことはありますか？

独特だなと思ったのは、耳の形です。なんて言うんですかね、耳たぶからのラインがグルっといく感じで、しかも線がすごく複雑に絡んだ描き方をされている。気になってONEさんに聞いてみたことがあったのですが、「触ってみて、その感覚で描いているからです」という答えでした。がんばってONEさんの描く耳をアニメにも活かしたいのですが、耳って作品によって大きく変わることのないパーツなので、アニメーターさんも、キャラ表があっても耳には大きく注意を払わないものなんです。なので僕がひたすら、耳を修正していくという（笑）。ONE先生が描かれるのと同じ耳があったら、「亀田が描いている」って思ってもらってもいいぐらいです。

2期7話は「自分達でしっかりやりたい」

── この作品には、全話を同じアニメーターさんが監修する総作画監督という役職は置かれていません。でも耳を直したお話が出たように、亀田さんは気になったカットには手を入れられていたと聞きました。

1話数あたり、10カット前後ですけどね。1期だと、2話はPV用のカットがあるから見て、3話も米里が登場するから見てますね。米里はお気に入りのキャラなんですよ。2期の最終話でも、米里が出るカットは志願して描いています（笑）。1期については5話だけは、作監の藤澤研一さんが上手い方だったので触ってないですね。ちょっとキャラデザとは違ってたんだけど、この話数は藤澤さんの絵柄で統一した

亀田祥倫

ほうがいいと思って。2期だと1話はほぼ修正を入れていなくて、あとは3、4、5、9、10、11、12話は見ているかな。

――1期も2期も、どちらも5話の作画はすごかったです。

たしかにどっちも、スペシャル話数ですね。たまたまだと思いますけど(笑)。ただ、2期5話のアクションは、この作品の肝の一つだとずっと思っていました。1期1話のアバンに、まるで『幻魔大戦』のような、中学生の男の子が超能力を使う描写がほしいと提案したのですが、それは2期5話のような異質なアクションがあることを見越していたからです。それにしても2期5話は、すごくよかったですよね。実は2期で最初に作画作業がスタートしたのは5話なんですが、若いアニメーターの子達が力を発揮してくれました。正直、若手だけでやると聞いた時は少し不安といえば不安でしたが、絵コンテ・演出をやってくれた伍柏諭くんは、1期でも11話でテルくんと第7支部の幹部達が戦うシーンをいくつか描いてくれていて、上手いことはわかっていたので。でも僕が5話を見てびっくりしたのは、アクションよりむしろAパートの日常の描き方です。レイアウトもいいし、虫を使っての表現など、見せ方が上手い。他の話数とは全然違うアプローチで、「アクションだけじゃねーぞ、俺は」っていう彼の気持ちがひしひしと伝わってきました。

――亀田さんご自身の担当回として手応えがあったのは？

2期の7話です。自分で作監を担当した回で、ここがなかったらそもそも『モブサイコ100』は引き受けてなかったかも、と思うくらいのエピソードですから。この話数は立川さんが脚本と絵コンテまで担当されていますが、僕らの間には「やるなら自分達でしっかりやりたい」という強い思いがありました。特に記者会見のシーンや、最後に川沿いでモブと話している時の霊幻の表情づけには気を遣いました。

――モブに「『いい奴』だ」と言われた時、原作だと霊幻は読者に背中を向けていますよね。アニメでは表情が描かれていたのが印象的です。

そのカットもそうですけど、それより前、一人で歩いている時の表情はもっと悩みました。最初、引きの構図で歩いてくるところまでは顔が隠れていたんですが、カメラが寄った時にはもう、霊幻の顔が見えてしまっている。きっと立川さんの中には見せ方のイメージがあったんだと思いますが、「ここでもう顔を見せるの？」と驚きました。ただあそこは、青山浩行さんというスーパーアニメーターがやってくれているんですよ。芝居も上手いし、歩きも丁寧に枚数をかけて描いてくれて、表情も青山さんのつけてくれたものがすごくよかった。その素晴らしい絵のよさを残したうえで少しだけ、原作最終巻で霊幻がモブに対して本心をさらけ出す場面の表情を意識した修正を入れさせていただきました。それに霊幻役の櫻井(孝宏)さんの芝居がまた素晴らしくて…。モブくんが「そういえば。師匠、誕生日おめでとうございました」というセリフもすごく好き。伊藤(節生)くんのしゃべり方もとても優しいというか…上手く言葉にできないですけど、泣きそうになりました。

これまで描いてきた 数多くのキャラクター達

――その他にも、振り返ってご苦労されたことがありましたらお聞かせください。

そうですね。……でも、1期からそうなんですけど、とにかくキャラクターが多いんです、この作品(笑)。1期の時点で、たしか90体ぐらいデザインしたはずです。1期はある程度は僕のほうでデザインの方向性を示しておかないと他のアニメーターさんも描けないということもあって、各話数のゲストキャラまでキャラ表を起こしていました。でも2期はきっと楽ができると思っていたのに、結局また90体ぐらいデザインをすることに(笑)。

――1期で登場したメインキャラも、少しデザインが変わっていますね。

律は2期で少し変わりましたね。1期ではモブに対しての確執があったので、前髪で表情を隠そうとちょっと長めに描いていたんです。髪型でキャラクターの心理を表現することもあるので、1期での律の髪は、どんどん長くなっていった気がします。でも1期の最終話で神室と公園で話している場面では「憑きものが落ちた絵にしたい」と思って、さっぱりした感じに変えたんですよ。それにともなって2期のキャラクターデザインは、髪型を少し直したものになりました。

――膨大なキャラの中で、特に印象深いものはありますか？

太郎と花子は、この二人によって今後のゲストキャラの方向性が決まる面もあったので描いていて楽しかったです。あとは密裏も好きですね。テンション高めのキャラなので、キャラ表でもポーズをつけてみたりして。でも服の模様が細かいので、作画陣からは不評でした(笑)。あとは、あちこちで言っていますけど、森羅万象丸がもう大好きで。自分が2期の2話で作監をすることになったのも、森羅万象丸が登場するからなんですよ(笑)。

――そこまで森羅万象丸を描きたかったのは、どうしてですか？

デブいからですよ!!　ほっぺの膨らみと、お腹と、お尻のデカさと……たまらないですね(笑)。「原作よりもデブくして動かしたい」と惚れ込んでいました。で、僕がそんなふうにデザインしたら、今度は立川さんがノリだして、腹揺れの描写などを、絵コンテ修正で足してきて。僕はあそこまでする気はなかったんですが、いろいろと過剰になっていきました(笑)。

――まだOVAも控えていますが、最後にファンの方々へ一言お願いします。

まだまだ『モブサイコ100』に関われてうれしいです。ここまできたら原作の最後までアニメ化したいですよね。テレビシリーズの3期、いや劇場版というのもアリじゃないでしょうか。ぜひ今後とも『モブサイコ100』をよろしくお願いします。

原作 ONE インタビュー

Profile

ワン／漫画家。主な作品に『ワンパンマン』『魔界のオッサン』ほか。

— 原作の『モブサイコ100』はどういったきっかけや発想から生まれたのかお聞かせください。

超能力という題材が好きで、それを活かすにはどう色を加えたらいいかと考える過程で、思春期、ストレス、利用される、コンプレックス、片想い、師匠、嘘、それぞれの二面性、などの要素を盛り込んでいき、主人公は受け身で内向的だけど台風の目になりがちで、人間関係によるさまざまな影響で自分に変化や成長が起こっていく…という土台を作り、プロットを作っていく過程で溜まっていくストレスや感情の揺さぶりで心に負荷がかかり、それが許容限界を超えたら爆発し、力が暴走してしまう…という設定が固まり、それが読者だけには%数値で可視化できたら変な漫画になりそうでいいなぁと考えました。タイトル案は『モブサイコ』『サイコヘルメット』『モブサイコ100%』などもありました。

— 『モブサイコ100』のアニメ化が決まった時のお気持ちを振り返っていただけますか。また、アニメ化にあたって期待したこと、楽しみだったことはどんなことでしたか？

うれしかったです。モブサイコの漫画を作っている関連でいろいろなことがありましたが、僕にとって一番幸せな出来事です。期待したのは、ファンが喜んでくれること、アニメの関係スタッフの方々が最終的には多少なりとも笑顔になれるような作品になること、でした。漫画でもそういうものは良いものだと思うので。

楽しみだったのはアニメーターさんや声優さんが、どのくらいの自由度で、主人公を取り巻くこの世界を肉付けして形作っていくのだろうという部分でした。

— 立川 譲監督らスタッフとどのような相談やお話し合いをされましたか？

あまり覚えてないですが、最初の最初は、僕はアニメ側でやりやすいよう、またはアニメ側でやりたい表現などがあるとしたとき、話の本筋やキャラ表現に齟齬が生じないなら、なるべく自由に制作していただきたいと伝えました。僕にはアニメは作れないので、邪魔だけはしたくないと。

立川監督はなるべく原作のやってることをそのまま拾いつつアニメ表現に落とし込んでいったほうが良いとおっしゃってくれました。瀬古さんはアニメにした図が想像しにくい漫画だからこそやる価値があると、大筋の流れも改変せず、ただ入り込みやすいように漫画の話順を少しだけ組み替えたりする方法は取るかもしれないと提案してくださったのは覚えています。

あとは、監督からは少しオシャレなのと王道なのはどっちが好みかという趣旨の質問をされ、自分はどっちかというと王道(お茶の間で観るような)をよく観てたので好きだと答えました。

— 亀田祥倫さんが描かれたアニメのキャラクターデザインのご感想はいかがでしたか。

最高だと思いました。お手本かな？と。

全体的に画風を変えてイケメンっぽくなることも覚悟はしてたのですが、モブはモブ、霊幻は霊幻のまま、魅力的にアニメデザインされていて感動しました。最初に亀田さんが描いてくれた何枚かのラフのコピー紙は大事に保存しています。肉体改造部に関しては最初から完成していたように見えました。

— アニメになって各キャラクターに声がつきましたが、声優さんの声やお芝居について、ご感想をお聞かせください。

モブサイコのキャラはそれぞれ応援してくれるファンがいて、最高の声優さんに人物としての厚みをつけていただいて、すごく恵まれているなと思いました。

声が入ると本当に命が宿るようで、アフレコの度にいちいち鼓動が高鳴ってました。

僕が想像するよりもより本物に近い演技を声優さん方が見せてくれるので、気が付くとただのお客さんになる自分がいて、アフレコは楽しい時間でした。あまり行けなかったのが残念なところですが。

— アニメの第2期が決定した時のお気持ちをお聞かせください。

1期が素晴らしかったので、予想はしていました。ただ、立川監督や亀田さんも多忙でしょうし、しっかりした準備期間を確保して制作にあたることは傍から見ていても容易ではないと思うので、そういう点でも尽力してくださって感謝に堪えませんでした。僕が漫画の最終章近くを描いていた頃なので、自分の領域の分は責任持ってしっかりがんばろうと褌を締め直しました。

2期には1期よりも、メインキャラの掘り下げや心の中と逃げずに向き合う場面が多いので、ドラマ性がアニメでどう色付いていくのかが楽しみでした。主に相談したのは最後どうするか、という部分でしたが実は最後どうなったのか、どう締めるのかは現時点(放送前)で僕は知りません。なので楽しみです。

— 第2期ではモブに告白する女の子が現れたり、除霊することに対しての葛藤や霊幻の言葉に反発を抱くなど、特にモブの内面の成長がクローズアップされたように思います。ONE先生が原作でこれらのエピソードを描く際、力を入れた部分やアニメでこれらのエピソードが描かれたことについてのご感想などをお聞かせください。

ONE





漫画では、キャラの抱えた問題に手を付けたからには逃げず、ちゃんと答えを出すまで考える、というところだけに拘って描写していました。モブ本人や霊幻本人の答えでなければいけないので、「普通はこうなるよね」という展開を前提として理解したうえで違うものを探していく作業でした。読者が展開予想したり担当編集者さんが読みながら思い付く答えを第一の答えとして、作者がそれを避けるようにして思い付く別の答えが第二の答えだとしたら、まだ出ていない第三の答えを唯一キャラ本人が出すからこそキャラに魅力が生まれるのだろうと、まるでそのような感じだというモノを掘り当てるまでボーっと考えました。しかし感覚的にはキャラ自身に考えさせてるような錯覚も起きてました。霊幻、考えといてくれ、俺は寝る。みたいな。そうすると思いつきやすいとも。

アニメでは、アニメーション、声優さんの演技、音楽なども相まって、やはり僕はお客さんにさせられて感動させられてしまうので、アニメってすごいなと思いました。

――その他、アニメで印象的だったことやご感想をお聞かせください。

あまりアニメを観ないのですが、そういえばアニメってこんなに面白いものだったんだと、シンプルにエンタメとしてのアニメの強さ、面白さが思い起こされました。そして改めて素晴らしい制作チームなのだなと再認識し、きっと別作品を同じメンバーで作っても確実に面白く仕上げるだろうけれども、この作品を選んでくれて、貴重な制作期間を『モブサイコ100』に費やし全力を注いでくださってありがたいなと、毎度感じます。現在2期の5話まで視聴済みですが、ティッシュの消費が激しいです。

――『モブサイコ100』放映中の印象的な出来事や思い出深いエピソードがあればお聞かせください。

外国のモブサイコファンが感想を送ってくれることがアニメ放送前よりも如実に増えました。翻訳されたものでも同じところで笑い、ちゃんと伝わり、心を動かされているというのは素敵なことだし、それが漫画でもアニメでも、クリエイター冥利に尽きますね。

――最後にこの本を購入されたファンの皆様に向けてメッセージをお願いいたします。

いつも『モブサイコ100』を応援してくださってありがとうございます。

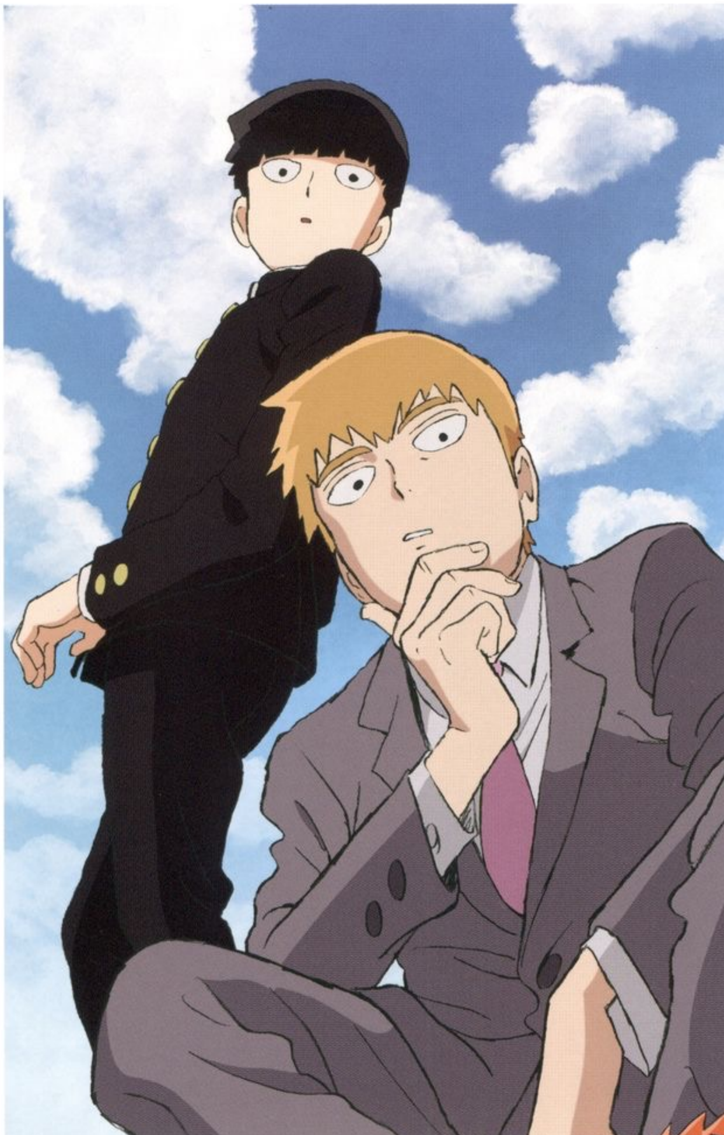
全て皆さんのおかげです。僕にはモブサイコという作品の境遇はモブそのものに重なって見えます。

いろんな意見や応援、先導したり手を差し伸べてくれる人達や、アニメという強力な仲間（力）がエンタメ現象の規模を大きく育ててくれたからです。少しでも読んだ人に何か影響を与える漫画が作りたいと思っていたのに、モブサイコこそが皆さんに影響を与えてもらった結果、今の姿になっているのだと。

今後はどのような姿に変化していくのか、僕はまだ注目しています。

皆さんにも引き続き楽しんでいただけたら、この上なく幸せです。

これまでの
アニメ雑誌に掲載された
版権イラストの一部を収録!
本編とはまた
違った一面を見せる
キャラクター達に
注目だ。



「月刊Newtype」2016年8月号
原画:秦 綾子/仕上げ:大谷道代(Wish)/背景:河野 羚



「オトメディア」2016年12月号
原画:亀田祥倫/仕上げ:中山しほ子



「月刊Animage」2016年8月号
原画:亀田祥倫／仕上げ:中山しほ子／背景:河野 羚／特効:古本真由子



「PASH!」2016年12月号
原画:吉原拓也／仕上げ:妻鹿真琴(Wish)／背景:河野 羚

裏少年サンデーコミックス
スペシャル

TVアニメ モブサイコ100 キャラクターとか公式ガイド

2019年4月10日　初版第1刷発行

原　作　ONE

アニメーション製作
「モブサイコ100」製作委員会
「モブサイコ100 Ⅱ」製作委員会

発行者　立川義剛

発行所　株式会社　小学館
〒101-8001　東京都千代田区一ツ橋2-3-1
TEL:販売03(5281)3556　編集03(3230)5510

印刷所　図書印刷株式会社

製本所　株式会社若林製本工場

企画・構成・執筆　株式会社ライトワークス(木澤行人・林 春菜)

構成・執筆　仲上佳克・前田 久・遠藤大礎
桝谷直俊・川畑 剛

カバー&本文デザイン　志村泰央(siesta)

取材協力　ワーナー ブラザース ジャパン合同会社
株式会社ボンズ
株式会社小学館集英社プロダクション
株式会社AIR AGENCY
株式会社インテンション
株式会社マウスプロモーション
有限会社ジャンクション
株式会社アイムエンタープライズ

編集責任　高島 雅

編　集　瀧澤 潔・小林 翔

制　作　尾崎弘樹・後藤直之

宣　伝　須江夏子

営　業　小関 顕

ISBN978-4-09-199059-4
PRINTED IN JAPAN

CONTENTS

感情パーセンテージメモリー

敵意100%

誇山のことを敵と判断。悪意ある大人の超能力者に対して全力をぶつけ、この場を終わらせようとした（8話）。



悲しみ100%

崩壊した校舎を見て、モブはかつてのように暴走したことに気づいた。変わることのできない自分を嘆き、悲しみながら、せめてもの抵抗に校舎を修復した（5話）。



感謝

「逃げたっていいい」という霊幻の言葉で、戦わなければならないという責任感から救われたモブ。エネルギーを一時的に霊幻に丸投げし、師匠への感謝に満たされた（12話）。





殺意100%

助けを求める律達と、霊幻の言葉に板挟みになるモブ。【爪】第7支部の幹部達からみんなを守るために、自分が“本気で戦う”しかないと殺意にのまれかけたが……（11話）。





律の代わりに不良達に土下座して謝る。兄として当然のことをしたという意識なので、感情は穏やかなまま（8話）。



執着100%





家が火事になり、その凄惨な光景を目の当たりにしてモブは暴走しかける。しかしエクボの説得で自分をたもち、犯人を捕まえるという執着心に駆り立てられた（8〜9話）。

怒り100%

人とのつながりを否定する鈴木統一郎。ショウや芹沢の気持ちを踏みにじり、霊幻に攻撃の手を向けられ、モブはついにキレてしまった。過ちをわからせようと、“怒り”をぶつけるが……（12話）。





友情

鈴木統一郎に都合の良いように利用されていた芹沢。仲間を求め続けた彼に、モブは「僕があなたの友達になる!」と宣言。これまでの記憶と感情をぶつけ合った二人は打ち解けた（12話）。



あふれ出した超能力を抑えることができず、鈴木統一郎の体が爆発しそうになる。モブは彼を助けるために、エネルギーを受け止めようとした（13話）。

優しさ







影山茂夫役

伊藤節生 インタビュー

愚直なまでの素直さが モブの いちばんの魅力

— 原作を最初に読まれた印象は?

オーディションのお話をいただいたタイミングで、原作を買って読ませていただきました。読んだ瞬間の印象としては、モブ君の声がまったく浮かばなくて、頭の中が真っ白になりました。

— そんな役に対して、どのようにアプローチされていったのですか?

オーディションの時点では、とにかく感情の抑揚があまりないキャラクターだということと、昨今のアニメの主人公ほど、"ザ・主人公感"がないので、自分の中のフラットな部分を出した……というか、出さざるを得なかったです。今なら別の方法でアプローチすることもできるかもしれないのですが、当時はぜんぜん自分の中の引き出しがなかったので、オーディション会場に行って、出たもので勝負するしかない! というくらいの気持ちで臨んだ記憶があります。

— 結果、伊藤さんの中にあるものをそのまま出したら、ぴったりだった?

そういうふうに受け取っていただけたんでしょうか。

— 「伊藤さんそのままでモブっぽい」と言ってしまうと、褒め言葉になるのかどうかわからないのですが(笑)。

いえ、褒め言葉と受け取らせていただきます(笑)。

— ある意味、モブとは運命的な出会いを果たしたということですね。

僕の感覚ではまったくそうは思わなかったんですが、周りの方からそういう言葉をいただく以上、自分にとってのハマり役だったんだと思います。1期の1話を収録した時にも「モブ君がしゃべってる!」みたいなことを共演者の方々に言っていただけました。

— 伊藤さんが思うモブの魅力は、どんなところでしょう?

やっぱり素直さですよね。我々がいる現実に照らし合わせると愚直とも捉えられるくらい、素直なところ。人のことをまずは疑わないというスタンスは、なかなかとれるものじゃないですし、それが魅力の一つだと思います。師匠の言葉でも「魅力の本質は人間味だ」というのがありましたが、モブ君にとっては、それが人間味なんじゃないかな。だからいろんな人と出会うたび、彼は絶対にマイナスな会話から入らないんです。たとえ敵であっても「あんたが敵か?」ではなく「あなたはなんでここにいるんですか?」みたいな。まずは話し合って「どういう人かな?」と探るというか……本人は"探る"という感覚はないのかもしれないですけど、ちゃんと理解しようとしているところは人として見習いたいところです。

— だからこそ、あれだけ大きな力をもっていても普通の中学生として生活していけるというか……。

僕が好きなキャラクターとして、よく挙げるのがテル君なんです。その理由が、人間がこんな強大な力をもったら本来こうなるであろうなという現実的な像がテル君だから。ショウ君のお父さんもそれに該当すると思うんですけど、そうならなかったのがモブ君の強さというか、超能力を特別なものとして捉えていない。でも、そういう気持ちを植えつけてくれたのは、実は師匠なんですよね。最初は超能力が使えることに悩んでいたはずなんですよ、モブ君は。そんな時に師匠と出会って、それは人の個性だと言ってもらえたことが今のモブ君の魅力につながっているのかなと思います。

— 「超能力を人に向けちゃいけない」と師匠に言われたことも、モブは素直に守り続けていますよね。

そういう姿勢を素直に守りきれるのがモブ君の意志の強さというか、人に影響されやすいので弱く見えるんですけど、自分の芯にもっているものは基本的に曲げない。弟を助けるとか、ツボミちゃんに対する好意とか、師匠の教えとか。でも、彼にとっては当たり前のことなんだと思うんですよね。人間って、本当に小さなルールでさえも守れなくて心が揺らぐ瞬間があるじゃないですか。そういうところが彼にはまったくないというか、だから本当にモブ君の魅力を一言で言うなら「素直さ」になるんですよね。

誰もいない 収録スタジオでポツン と待ち続けた思い出

— 演じるうえで難しかったことは?

モブ君はあまり感情を出さないので、どこまで声を出していいのか最初はわからなかったんです。なんて言うか、言葉の距離感が近そうに見えるんですね。声のトーンとかも含めて……。なんですけど、最初に声を張ったのは2話の肉体改造部に入るシーンで、僕がちょっと弱く声を出していたら音響監督さんに「もっと勢いよくやって」と言われて。その時に初めてワーッと声を出したことで「モブ君って、こういう面もあるんだな」と気づくことができたんです。特に僕は、当時も今も新人なので音響監督の若林(和弘)さんに教えていただくことが多くて、そこで自分にとってのヒントをいっぱい与えてもらいま

怒りで叫ぶシーンでOKをもらった瞬間に、モブ君の感情が一通り網羅できたというか、いろいろ目印をつけていただいたなと

した。そのうちに最初の頃にあった不安がなくなっていて、8話あたりで純粋に演じることが楽しくなってきた。シーンとしては、まったく楽しいシーンではないんですけどね（笑）。

―モブの怒りで感情が100％に達するという。

怒りで叫ぶシーンでOKをもらった瞬間に、モブ君の感情が一通り網羅できたというか、いろいろ目印をつけていただいたなと思って。あとはもうモブ君としてそのシーンを演じていけばいいんだという、きっかけになったお話です。だから自分から役を作っていったというよりは、周りから固めていただいたという感覚が強いかもしれないです。

―伊藤さんにとって初レギュラー、初主演の作品ですよね。

ほぼそう言ってもいい作品です。なので1話の収録の時も、まず誰よりも早くブースに入ろうと思って、収録開始の45分前に着いてしまって（笑）。いらしたのは本当に数人のスタッフさんだけで、でもやっぱり新人なので「端っこに座らなきゃ！」と思っていたら、音響制作の槙（潤）さんに「主人公なんだから真ん中に座らなきゃ駄目だよ」と真ん中に座らされて……。というやりとりを誰もいないブースの中でやって、そこから15分間、真ん中でじっと座って待つという（笑）。それが僕の『モブサイコ100』の始まりです。

舞台版に出演して感じたアニメとのちょっとした違い

―1～2期を通して、お好きなシーン等があれば教えてください。

いちばん記憶に残っているのは、やっぱり1期1話の初登場シーンです。1期のPVはモブの声が入っていなかったから、僕が演じるモブが初めて世に出たシーンなんです。好きなシーンとなるといっぱいあって、テル戦は全部好きですし、テルが超能力を使って絶叫しているシーンは収録現場でも松岡さんの熱量がすごかったです。8話で律を助けるシーンは、舞台でも演じさせてもらったんですけど、心にグッとくるところでした。11話で師匠が桜威に斬られて「師匠！」って声を上げてしまうところも、好きなシーンの一つです。2期だと、1話での小説をめぐるくだり。感情をあまり出さないモブ君が、ここでは人前で感情を出すんです。涙を流しながら、人に超能力を見せるという。そういう意味でもモブ君の変化が始まったのかなとも思いますし、僕のやりたかったシーンが1話から出てきて、台本を読んだ瞬間からうれしくなったのを覚えています。

―舞台版のお話も出ましたが、舞台でモブを演じられていかがでしたか？

そもそも僕は舞台が大好きだったんですよ。観るのも大好きで、共演の方の中にもずっと僕が観てきた役者さんがいらして、まずお話をいただいた時はすごくうれしかったです。最初の頃は、僕が呼ばれた理由は「アニメで演じていたから」だと思ったので「アニメのモブ君をできるだけ再現するほうがいいのかな？」と思ってやっていたんですけど、稽古をしていくうちに違和感を覚え始めてきて…。絡む相手が違うと、どうしても熱量や方向の差が生まれてくるんですよね。それを噛み合わせていくうちに、根底は一緒でもアニメとはちょっと違うモブ君になっていったのかなと思っています。それに、公演を重ねていくうちに、共演の方々と相談しながら変化も加えられるし、僕が最初に演技を学んだ時の楽しさを思い出させてくれたというか、いろんな再発見をさせてもらえました。

―初心に帰る機会にもなった、と。

もともと僕はアニメに憧れてこの業界をめざしましたけど、専門学校に通っている時に「声優も職業としては役者なんだ」とずっと教えてもらっていたので、そういうところにもう1回戻ってこられたのかなと思います。

―専門学校に通われる前は、どんな学生時代を過ごされていましたか？

部活動では、中学高校はずっとテニス部でした。幼稚園の時は水泳と器械体操をやっていて、器械体操は7年か8年くらい続けて、あとは北国出身なのでスキーも習っていましたし、小学校6年間は空手もやっていましたし、専門学校の時はダンスをやっていたんです。基本的に、運動することが好きでしたね。

―すみません、モブのイメージで勝手にスポーツは苦手なのかと……。

あははは（笑）。別にそこまで鍛えているわけではないんですけど、モブ君の舞台で体操着を着ると「意外と太いんですね」と言われます（笑）。役作りのためには、もうちょっとヒョロくしたほうがいいのかなと思っちゃうくらいで。でも、ストーリー上で肉体改造はしているので、モブ君の成長と共に僕の肉体も成長しているはずなんです。そういうていで舞台はやっていました（笑）。これからも舞台を含めて、いろんな方面でファンの皆さんと一緒に『モブサイコ100』を盛り上げ続けられたらいいなと思っておりますので、今後とも『モブサイコ100』並びにモブ君の成長をどうぞ見守ってください。

伊藤節生
Setsuo Itou
---Profile---
いとう・せつお／AIR AGENCY所属。近年の主な出演作は『アニメガタリズ』（武蔵境境役）、『キャプテン翼』（岩見兼一役）、『アフリカのサラリーマン』（オオハシ役）など。

Arataka Reigen

霊幻新隆

CV：櫻井孝宏

自称・天才霊能力者。モブからは「師匠」と呼ばれている。「霊とか相談所」を経営し、主に心霊現象の相談を受けつけているが、本人は霊能力の類を一切もっておらず、口の上手さと徹底したサービスで解決に導いている。時給300円でモブをこき使いながらも、強大な力に思い悩む彼にたびたび助言を与え、保護者のように支え守ろうとすることも。

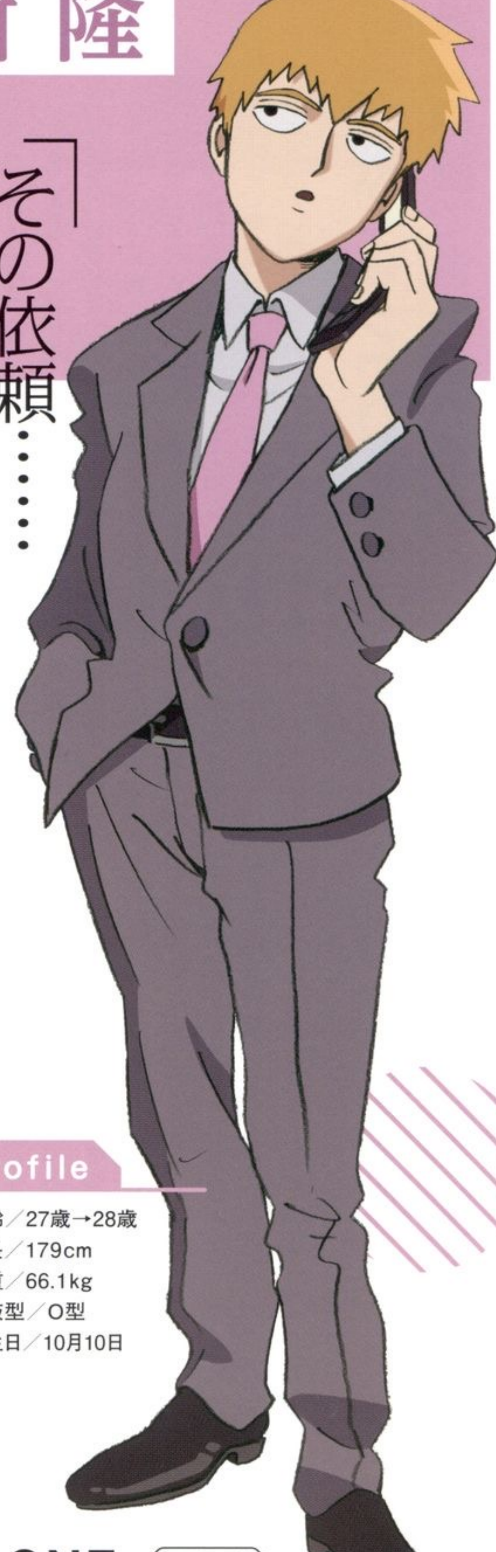
「その依頼……この霊幻新隆が引き受けた！」



表情集 焦るとすぐに顔に出るものの、機転を利かせうやむやにしてしまう。かなりの切れ者なので相手の痛いところを突くのが得意。



全身 事務所では常にカッチリとしたスーツ姿。ピンク色のネクタイは、実はアニメ化に際して設定されたもの。



Profile

- 年齢／27歳→28歳
- 身長／179cm
- 体重／66.1kg
- 血液型／O型
- 誕生日／10月10日

監督・立川 譲 コメント

霊幻というキャラクターには特別な思い入れがありまして……。1期でも活躍するシーンはいっぱいあったんですけど、まだ謎の多い、心の底が読めないキャラクターだったのが、2期の6〜7話で丸裸にされていく。その姿は見ていて「つらいつらい」と思いつつ、ぐっときました。特に好きなのが、7話で小学生のモブを早く追い返そうと「いい奴になれ。以上!」と言うシーン。適当に言った言葉だけど、この時モブは救われて、そして後に霊幻も救われる。運命的なめぐりあわせを感じました。この話の霊幻の表情を描くのはすごくやりがいがありましたね。

原作者・ONE コメント

一番描きやすく、性格も動かしやすいです。漫画賞に応募する用に、霊幻が主人公の読切を描いてる時に連載のオファーをありがたく受け、主人公モブを利用する側の立場でありつつ一番読者と距離が近い人間として、存在感が大きくなっていきました。途中、「キャラがぶれてない？」と指摘されましたが、人間は影響を与え合って変化していくものだというテーマを盛り込んでいたので、人格変化の流れを矯正せずキャラのぶれも人間味の一つと考えてそのまま進むことにしました。

モブと霊幻

悪霊からは守ってもらいつつ、人間が相手であればモブを守る一人の大人として立ち回ろうとする霊幻は、モブの超能力の悩みにも助言を与えてきた。その反面、霊幻はどこかでモブの成長を認めていなかったが、そのことに気づいてからは、変わりたいと願う彼の背中を押すように。



普通の霊は見えないが、人に害を与えるほどの危険な悪霊は視認できる霊幻。モブの力で悪霊相手にふんぞり返る。



記者会見のあと霊幻は自分の正体についてモブに問う。かつて「いい奴」になれと彼に教わり、救われたモブにとって、答えはたった一つだった。



絶対的な力をもつ鈴木に対抗するため、そしてモブを守るために霊幻は桜威から借りた呪玩のエアガンを向ける。

どんな依頼もお任せください!

霊幻はどんなに突飛な依頼でも、まずは依頼人の話をきちんと聞き、無下に追い返したりはしない。得意の口先で上手く言いくるめて解決に導くことも多いが、他の同業者よりも良心的な価格で請け負っていることもあり、これまでの依頼者からの評判はいい。



どんなに疑う依頼人も、霊幻のマッサージを受ければ大満足! 終わったあと依頼人達は生き生きとした顔に。



畑の不作に悩んでいて、料金の支払いも難しい依頼人。そこで霊幻は報酬として収穫物の3割を要求することに。



オンラインゲーム内に出没する幽霊を、複数アカウントを使って袋叩きにした。事務所の名前は売れたものの、課金しすぎて赤字に。



高額な壺を買わされそうになっているモブの状況を一瞬で見抜き、詐欺師達を徹底的に言い負かす。



モブの力を一時的に借り、【爪】の幹部達に常識を説いていく! この一件で彼らから頼りにされるように。

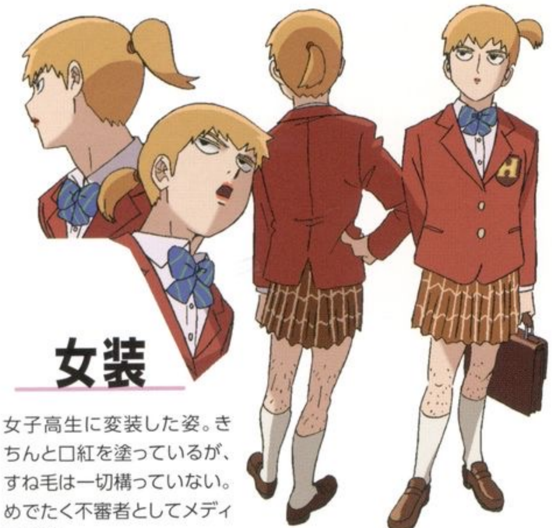
世紀のカリスマ?

霊幻は特別な力はもたないが、優れた洞察力と判断力をもっており、処世術にも長けている。力ずくの必殺技でその身のままで悪霊や超能力者とも渡り合ってしまう。その一方で友達づき合いがなく、女子からモテる方法もモブにアドバイスできていない。



父の様子がおかしいと弱々しく訴えるみのりだが、霊幻は彼女の言動に統一性がないのに気づき、警戒する。

霊幻の衣装設定



女装

女子高生に変装した姿。きちんと口紅を塗っているが、すね毛は一切構っていない。めでたく不審者としてメディアデビュー。



湯のみ

事務所で愛用している渋い湯のみ。よく熱いお茶やたこ焼きを噴き出しており、もしかしたら猫舌なのかも。



携帯電話

モブと色違いで同じ機種の携帯電話。自分の手に負えない悪霊に遭遇した時は、すぐにモブを呼び出す。



雨に濡れたスーツ

おひきさんを探す最中に雨に降られてしまった時の姿。森の中を走り回ったので、足元に泥が跳ねている。



私服

誕生日にバーに行った時の格好。原作では薄手のアウターだったが、アニメではベストに。



ジャージ

ツチノコ捕獲など運動をする時に着るジャージ。オシャレなデザインなので私服として使うことも。



スーツ

1期第6話だけのレアな黒スーツ姿。降霊の儀を行うためか、モノトーンで固めていつもよりもシックな着こなし。

小学生の霊幻



▲運動会だと親に伝え忘れ、弁当がなくて立ち尽くしている。くだらないと一蹴されたものの、たしかにこれはきつい……。



▶赤い大きな傘と小さな体を覆うレインコートがかわいい。サンタクロースを信じなくてもおひきさんは怖かったらしい。

モブをおんぶする霊幻



眠り続けたまま起きないモブを背負っている姿。5超・柴田達に襲撃され、背負って脱出を図った。



スウェット

サラリーマンの時から霊幻が愛用している寝間着で、「くまベアー」というキャラがトレードマーク。



ランニング

モブのマラソン大会に合流した時の格好。モブの気持ちを汲んで本気のスタイルで臨んでいる。

美術紹介①

霊とか相談所





ビルの一角にある霊幻の事務所。主に請け負っているのは心霊現象の相談だが、あえて「とか」をつけて意図的に濁し、商売の間口を広げている。呪いを解除するためのマッサージルームも完備。灰皿が置かれているが、実は霊幻はモブが来てからは吸っていない。



新しい霊とか相談所

以前の事務所が漏電で全焼したため引っ越した新しい事務所。本棚が埋め込みになり広々とした。新調されたソファーも以前より大きくなっている。



3年前の霊とか相談所

モブが初めて訪れた頃の事務所。受付やポスター、人形といったものがないせいか少し殺風景。

BAR・ギャランドゥ

霊幻行きつけのバー。マルチ商法などに引っかかりやすい体質の人間が常連客に多い。ちなみに霊幻は酒に弱いため、マスターはひそかにアルコール抜きで提供していた。









マスター

CV：武内駿輔

常連客

CV：木内太郎

CV：竹内絢子

必殺技

自称・天才霊能力者、霊幻新隆が作中で披露した必殺技を完全網羅！　どんな悪霊達もひれ伏した(?)奇跡の御業に刮目せよ!!



盛り塩パンチ

▲食塩を握りしめてコブシにまぶし、霊を直接殴る。勢いで霊を多少驚かすことはできるが、威力は全然大したことがない。

食塩をまぶしたコブシでぶん殴る霊幻の必殺技である。



ソルトスプラッシュ

▲霊は塩に弱く、撒けば溶けると思っている霊幻。だが、きちんと清めた塩以外は効果がないと霊に指摘された。

食塩を激しく撒き散らす霊幻の必殺技である。



呪術クラッシュ

肉体疲労からくる負担をほぐし、肩凝り・腰痛などを解消する霊幻の必殺技である。

▲違法な18禁サイトで料金を振り込ませる、最先端の呪いがかけられていた依頼人を救った。きちんと整体の本を読んで勉強した施術。



御祓いグラフィック

▼だいたい1枚につき2時間程度で完了する。焦ると依頼人の顔のパーツも消してしまうため注意力が要求される繊細な作業。

CGソフトを用いて写真を不自然なく合成処理する霊幻の必殺技である。





チーズバーガートルネード

全身のばねを使い強烈な回転のかかったコブシを相手の顔面に叩き込む霊幻の必殺技である。

◀遊んで暮らしたいがために、亡くなった父親から隠し金庫のパスワードを聞き出そうとする依頼人に向かって、"HATARAKINASAI"という正論とともにぶちかました。

霊幻新隆の必殺技



▶ヒマラヤ産の岩塩とアロマオイル、お香を使用するなど女性ウケ抜群の除霊手段。高い美容効果もあるので、依頼人が心なしか若返ることも。

アロマ暴走特急

心と体をリラックスさせ
美容効果てきめんの旅へといざなう
霊幻の必殺技である。



▲超能力で人を傷つけてはいけない、という自分の言いつけを破ってまで戦おうとするモブに代わって食らわせた。……飛び蹴りはいいのか？

対超能力者ドロップキック

超能力者に対して
思いっきり飛び蹴りをかます、
霊幻の必殺技である。

対被憑依者飛び膝蹴り

憑依された者に
飛び膝蹴りをかまし、
意識を強制的に飛ばす
霊幻の必殺技である。



▲憑依された相手の後頭部もしくは頸椎付近を抱え込み、体をこちら側に引き込んで急所のみぞおちに衝撃を与える。



▲催眠術をかけると言い、相手が5円玉に集中している隙をついて殴りかかる。【爪】の幹部を殴って動揺させ、説得しようと試みるも失敗した。

催眠術パンチ

相手をいきなり殴る
霊幻の必殺技である。

▼▶おなじみの「ソルトスプラッシュ」、いつもより派手なアクションの「呪術クラッシュスペシャル」なども一緒に披露した。



エアー盛り塩パンチ



聖水チョップ



▲超能力者以外の気配を感知しないよう、集中していた島崎。超能力をもたない霊幻が近づいても気づかないことを利用して、怒涛のごときパンチをお見舞いする。

正当防衛ラッシュ

厳密に正当防衛と言えるか
判らない際に、
とりあえず正当防衛と叫んでおく
霊幻の必殺技である。

おまけの「ソルトスプラッシュ」



◀葛藤するモブの様子から彼が見えている世界の広さに気づいた霊幻は、本物の超能力者であるモブにしかわからない気持ちをせめて汲もうとする。





霊幻新隆役 櫻井孝宏 インタビュー

適当なことを言っている中でなぜか感じるインテリジェンス

――『モブサイコ100』を最初に読まれた時の印象はいかがでしたか。

今時は超能力って、ちょっと古典的な表現じゃないですか。サイコキネシスとか、テレキネシスとか、テレパシーとか、そういう力がわりと豊かに表現されるようになった時代で、あえて〝超能力〟と表現しているのが面白いなと思いました。ただ、俗っぽい考え方ですけど、そんな力をもっているのならば、たぶん自分だったら悪事に利用するなとか思っちゃって（笑）。でも、モブはもちろん霊幻も……霊幻はちょっと利用するような形で関わっていますけど、超能力を起点としているというよりは人間模様がちゃんと見てとれる。人間がストーリーを作っていって、その物語にエッセンスとしての超能力がちょっとひねりを加えているという、そのバランス感覚がすごいなと思いました。

――霊幻の印象はいかがでしたか？

けっこうアンバランスな人だと思うんですけど、1期はちょっとミステリアスにも見える。ペテンな立ち回り方をする、いい大人ではないという見せ方を1期ではしていて、2期になると彼の背景が見えてくるんですよね。彼の内面や心情を彼自身が語るような話数もあったりして、自分の中での霊幻のイメージが1期と2期でちょっと変わるようなところがありました。なんとなく正体不明だったんですよね、1期は。

――1期の頃は、ペテン師としての印象が強かったのかもしれません。

まあ、嘘はついていますけど、それなりの労働はしているんですよね（笑）。みんなスッキリして帰っていくわけですから、そうとうマッサージは上手いんじゃないかなと。

――むしろマッサージ師で生計を立てたほうが良さそうな……（笑）。

ああいうところにも、彼の人間性が見えるんですよ。本当は口八丁で収めちゃえばいいものを、わざわざアクションを起こす。だから、一概に詐欺まがいの行為を良くないと言っちゃうのはどうかな？ と、そんなことを思わせてくれるような人ですね。

――適当なことを言うようで、意外としっかりしたことを言ったりもします。

うん、彼の言うことは正論なんですよ。【爪】の連中に言い放ったこととか、まさにそうですよね。とはいえ適当さはあるんですけど、不思議とインテリジェンスを感じるんですよね。なぜか（笑）。その辺が、彼の口の上手さだと思います。

霊幻と同じ気持ちになってずっとモブを見守っていた

――霊幻は大人としてモブに接していますが、櫻井さんは伊藤節生さんをどのようにご覧になっていましたか。

霊幻はずっとモブを見ているので、僕もそんな気持ちでいましたね。伊藤君がアニメーションの主人公を務めたのが……レギュラー作品をもつのもたしか初めてぐらいの作品だったということで、最初のまだちょっとウブな感じから時間をかけて変化していき、ついには舞台に出演したりするようにもなる。その姿を見ているのは楽しかったです。あと、ベテランの先輩の皆さんは持ち味を存分に発揮されていたなと（笑）。若い子から先輩方まで、まんべんなくキャスティングされていて、そのあたりがこの作品の厚みにつながっているのではなかろうかと思いました。

――登場するキャラクターが多いので、出演者も多いですよね。

2期の中盤から終盤にかけてのいくつかの話でかなり増えました。20～30人という人がスタジオの中にいて、（スタジオ内の椅子に）座りきれず立っている人もいる、みたいな。また、この作品はバトルシーンがすごくかっこいいんですよ。2期の5話だったかな？ 完成された絵でアフレコができた回があったんですけど、まあ動く、動く！ ちょっと抽象的な絵で異質な世界とか能力を表現するのは日本のアニメのお家芸というか、ファンタスティックだなって。

――立川監督や音響監督の若林さんからの指示で印象的なものは？

監督からのオーダーって、具体的にどことはちょっと言えないんですけど、本番を録り終わって音響監督からのリテイクが入る時に「これ、監督（からのリテイク）ですか？」と思ったりすることがあるんですよ（笑）。それも話の中で肝になるようなセリフじゃなくて、わりと些細な場面に指示が入ることが多くて。でも、そういうシーンが後々効いてくるフックになっていたりして、僕らだけでは気づかないようなことにも、やはり意味があるんだなと思いましたね。僕らが何気ないと思って見ていても、実は何気なくなかったりすることが、けっこうあるんじゃないかと思います。

――1～2期を通して、お好きなエピソードなどがあれば教えてください。

2期の1話ですね。非常に素敵なお話だったなあ……。2期の1話というよりは1期からの続き。そのまま区切ったような感じはなく、ちゃんと時間の流れもス

一概に詐欺まがいの行為を良くないと言っちゃうのはどうかな？と、そんなことを思わせてくれるような人ですね

ムーズに感じられるようになっていて、2期のスタートだから盛り上げようという感じもなく、ちょっとしっとりしたお話で。モブの変化の兆しなんかも見られましたしね。

――その一方で、霊幻はモブに彼女ができたと聞いて……。

衝撃ですよ（笑）。彼の中ではどこかで思考が止まっているんでしょうね。「モブに彼女ができるわけがない」と。で、彼女ができたと聞いても喜ばない。そりゃあ、困りますもんね。彼女にうつつを抜かされたら、商売あがったりだから（笑）。

生々しい部分が見えたことでもっと霊幻のことが好きになる

――2期に入ると、モブと霊幻の関係性も徐々に変化していきます。

もともと〝師匠と弟子〟という、いろいろなものを無視して作り上げた関係性で、ずっとやってきているじゃないですか。それを1期では〝いいコンビ〟という言い方をしていたんですけど、でも霊幻は大人で、いつの頃からか停滞をしていて、なんとなく打算的に始めた仕事が、たまたまモブと出会ってうまくいくようになって。で、モブはそれこそ〝モブ〟だと言われちゃうような存在感のない男の子だったけど、そこから成長しはじめて、承認欲求みたいなものが芽生えたりとかして。なんとなくすれ違うような展開の中で、もうコンビ解散になってもおかしくないような瞬間が訪れて……。

――霊幻が最大のピンチを迎えるのが、2期の6～7話でしたね。

結局、自分がモブに救われているところもあるんだなと、霊幻は自覚して……まあ、モブの株がめっちゃ上がるという話で（笑）。でも、それと同時に霊幻の生々しい部分が見えて、もっと彼のことが好きになるような話だなと思いました。

――そのあたりも踏まえて、ご自身と霊幻で似ていると感じる部分は？

具体的に比較はできないけど、40歳を超えた僕が、たとえば20代の若い子達と話をしていると、わりと偉そうなことを言えるんです。「今はこんなに便利になっているけど、昔はこうでさ……」みたいな。「聞いていてもぜんぜん面白くないんだろうな、この子」とか思いながら、でも話しちゃったりするんですけど（笑）、それは霊幻がまだ幼かったモブに立派なことを言っている感じに重なる部分がありますね。2期になって彼の頭の中を知ると、誰もが何かしら重なる部分をもっているような、そういう存在なのでは？　と思ったりします。

――「青春」がテーマの一つにもなっている作品ですが、学生時代に打ち込んでいたことなどはありましたか。

ぜんぜん何もないんですよ。灰色の青春です……。10代の頃の自分は本当に〝モブ〟でしたね。同じクラスでしゃべったことのない奴が半分以上みたいな（笑）。女子としゃべるのも苦手で、しかも高校は男子校だったので、なんにも面白くない（笑）。学園生活に何も張り合いがなくて「早く家に帰ってゲームやりたい」だけでしたね。だから、文字にするほどの話は特に何もないです（笑）。

――ちなみにどんなゲームを？

まず、ファミコンから入って……といっても、ファミコンが発売された当時（1983年）は、みんななんとなく家にあるような時代じゃないですか。普通に生きていれば、みんなが持っているようなものだったので、僕も程なく手に入れて。小学生の頃はゲームセンターが好きだったので、ゲームセンターに行って100円を入れないと遊べないようなことが家でできるというのは画期的なことでした。そこからPCエンジンに行って、プレステに行って、ゲームに全てをかけていました（笑）。今はお仕事もありますし、日々の中でゲームに割く時間というのはどうしても作れなくなったんですけど、別に嫌いになったとかではないですね。たぶん、やり始めたら没頭しちゃうと思います。

――最後に「モブサイコ100」のファンに向けて一言いただけましたら。

自分自身、子供の頃に観たアニメの衝撃とか、その時に受けた影響みたいなものが、これまで自分の歩んできた道にすごく作用しているということがあるんです。人の機微を知ったりとか、考え方を変えさせられちゃうようなことがあったりとかもして、アニメにはそういう側面があるんだなと思いますね。この『モブサイコ100』も人生に潤いを与えてくれるような作品だなと僕は思っていて、フィーリングで観て「面白い！」と思ってもらえるだけでもいいんですけど、何か自分の中の細胞の1個になるような、そんな作品であってくれたらすごくうれしいなあと思っています。なので、ぜひ皆さんの手元に置いてもらえると素敵だなと思います。要は「DVDを買って！」と言っているんですけど……いや、これはちょっと良くないな（笑）。いつか3期もやりたいなと思っているので、これからも『モブサイコ100』のことを好きでいていただけたらなと思います。

櫻井孝宏
Takahiro Sakurai

---Profile---

さくらい・たかひろ／インテンション所属。近年の主な出演作は『おそ松さん』（松野おそ松役）、『からくりサーカス』（阿紫花英良役）、『コードギアス　復活のルルーシュ』（枢木スザク役）ほか。

万物の中で最上位の存在である神になることを目指す上級悪霊。人の体に憑依し、操ることができる。宗教団体『（笑）』を設立するも、たまたまやってきたモブに壊滅させられた。それ以来、多くの人の心を掌握するためにモブの超能力を利用しようと企み、エネルギー体となってモブにつきまとうことに。

Ekubo

エクボ

CV：大塚明夫

「やっぱりシゲオには俺様というアドバイザーが必要だな！」

表情集

表情豊かで、ふわふわと浮いた風船のような体からは、状況に応じて手足が生える。チャームポイントは赤いほっぺ。





上級悪霊ver.

蓄えた霊力を解放したエクボの真の姿。体が巨大化し、左手は刃のような武器に変形している。「霊ザービーム」という強力な技を使っていた。



Profile

- 年齢／???
- 身長／???
- 体重／???
- 血液型／???
- 誕生日／???

監督・立川 譲 コメント

エクボは表情がよく変わるキャラクターですし、自由に遊ぶことができるので、アニメーター人気が高いです。実は2期では、これまで描いたエクボをバンクシステムのように使い回そうかとも考えたんですが、キャラクターデザインの亀田（祥倫）くんに猛反対されました（笑）。1期ではまだ悪霊感がありましたけど、2期はちょっとマスコットキャラ感がありますよね。それに完全にモブの仲間になったような感じもありますが、この後の原作のことを鑑みて、「本当は悪いことを考えている」ということはゼロにしないようにしました。

原作者・ONE コメント

霊幻と同系統で、こっちは霊。モブがあまり自分から口に出してしゃべったりせず、モノローグだけで心理描写が進むと窮屈だと思い、会話役としてモブに取り憑かせました。すごくペラペラとしゃべってもモブ以外誰も聞こえていないし、好き勝手なゲスいことも自由に言えるので、エクボの台詞を書くのは好きでした。ただ霊幻と同じく、モブと絡むとやはり少しずつ会話のテンションや雰囲気がモブから影響を受けて変化していきました。大塚明夫さんがエクボ役と聞いた時はうれしくて飛び上がりました。

自称・モブの相棒

敵として立ちはだかったものの、モブに完膚なきまでに叩きのめされたエクボ。しかし彼はめげることなく、モブの相棒を自称して再び現れる。目当てはモブの体を乗っ取ることだが、モブの強さを知っているぶん、感情のストッパー役になり彼の暴走を防ぐこともある。



夢かと思ったモブが床にたたきつけたが、くじけない。親しみを込めて「シゲちゃん」と呼んですり寄る。



テルに消されて以来の再会だったが、律を危険に巻き込んだのではないかと疑われてしまう。



家族に危害が及び、怒りに駆られるモブを懸命に止めるエクボ。彼の言葉でモブは落ち着きを取り戻す。

油断大敵!

神になるという自分の野望を叶えるために、悪霊として長い年月を生きてきたエクボ。くぐり抜けてきた修羅場も多いらしく、培った知識はモブ達の助けにもなるが、ずる賢く、人を陥れようとすることも。親しみやすそうな顔に騙されてはいけませんよ!



超能力に目覚めた律を上手く言いくるめ体を乗っ取ろうとするが、力が弱体化していたため失敗した。



家族でとどまっていた霊に対して、悪霊にならないかとそそのかす。除霊に躊躇するモブの背中を押したようにも見えるが……。



マラソン大会で走るモブをそばで応援しつつ、上位に入るためにタクシーを使っては、というズルを提案する。

重ねた信頼

超能力を人に向けないモブの気持ちに配慮し、文句を言いつつ体を張ることも多いエクボ。モブから信頼されて、浅桐邸ではついに彼の体に憑依することを許された。モブの体を乗っ取る念願の機会だったが、モブが自分を信頼しているという霊幻の言葉に動揺し、やめる。エクボなりの打算はあるものの、きちんとモブの思いに応えた。



誇山に追い詰められるモブの姿を見て、エクボはかつて自身を吹き飛ばしたテルに助けを求める。



浅桐みのりの中に入ったモブが戻ってこなかった時は、自ら精神世界に行きモブを救い出そうとする。



気に食わないと思いつつ、霊幻とも打ち解けている。彼の頼みで、鈴木統一郎との戦いに一人で向かうモブにつき添う。

エクボの憑依設定



影山 律

超能力を使いこなそうとする律に憑依した姿。しかし操ることはできず、律の意識は残ったまま。



『(笑)』教祖

宗教団体の教祖だった頃に乗り移っていた中年の男性。"神通力"を込めたスマイルマスクを使い、人々を洗脳していた。





影山茂夫

幽体離脱時や眠ったままの時など、無防備なモブの体を保護するために憑依した。普段のモブでは浮かべないような悪そうな表情が印象的。



【爪】の守衛係

【爪】第7支部の守衛係だった男性。テルの攻撃で気が動転していたところを乗っ取った。魔津尾との戦いで危うく体が壊されそうになった。





郷田武蔵

寝たままのモブに襲いかかる5超・柴田に遭遇し、身を挺して守ろうとする武蔵に憑依! 武蔵がもつたくましい筋力を100%引き出した。快活でさわやかないつもの武蔵とは違う顔つきに注目。

美術紹介②

『(笑)』集会場

エクボが設立した新興宗教団体『(笑)』の集会場。"笑顔"でいれば、人は不幸の連鎖から解放される、という宗教理念を説いていた。エクボ曰く、全人類の信仰対象になるための出発点だったが、モブがエクボを倒したことで、信者達にかけられていた催眠は解かれた。





▲会場のいたるところに笑顔の模様があしらわれている。設立から1か月でこの会場が埋まるほどの熱烈な信者達が集まっていた。

▼抑圧された感情が限界を超えたモブの力によって、破壊された後の会場。

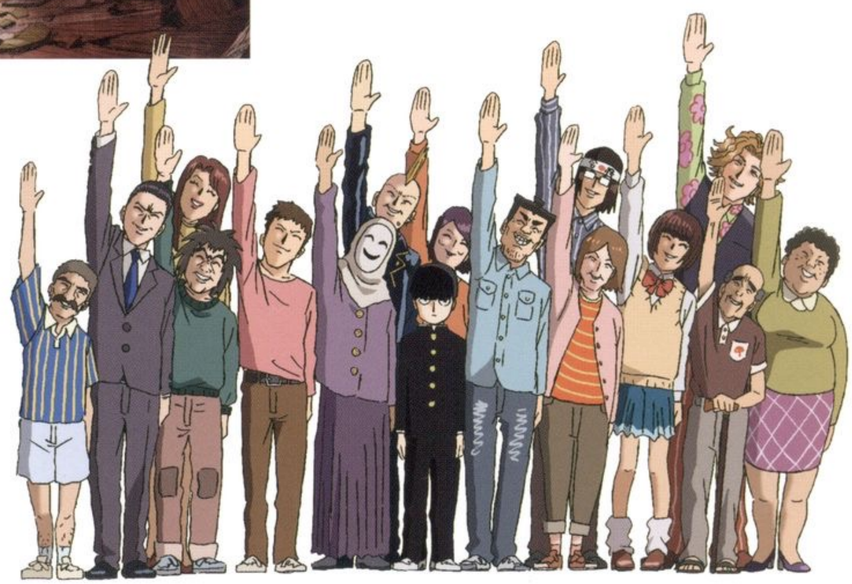


中年男性

CV:朝倉栄介



公園のベンチで座り呆けていたところを、集会場に連れてこられた男性。エクボの力で洗脳されて笑顔に。



『(笑)』の信者達

エクボに洗脳された人々。左端にいるのは、にらめっこのレフェリーを務めた男性。その隣にいる3人は、スマイルリーダーと呼ばれる幹部達。



【サイコヘルメット教】

信者達はモブを神の使いだと思い込み、今度はモブをあがめるサイコヘルメット教として活動を開始。教祖不在のままその勢力は日々拡大している。



◀信者達がよく話し合いをしているファミレスの店内。熱を帯びていく彼らのようすを米里は観察した。

全盛期から消えかけまで！

神になる、という強い思いでこの世にとどまっているエクボ。乗り越えてきた修羅場は多く、時には存在が消えかかるほど霊力を消費することも。彼の霊力の増減に注目して、これまでの活躍をピックアップ！

モブとの邂逅

最上との戦いから時を経て、再び力を蓄えたエクボは宗教団体『(笑)』を設立。自分の洗脳が効かないモブを排除しようとするが、感情を押しつけたことで彼を覚醒させてしまい、溜めた霊力を一気に吹き飛ばされる。



▶モブの挑発に乗り、上級悪霊として真の姿を現したエクボ。この時までは、モブの怒りをなめていた。



◀自分の勝利を確信するエクボだったが、腕の刃が吹き飛び、気づいた時には目の前にモブの姿が。

かつて抱いた恐怖

十分な霊力を蓄えて、全盛期だったエクボ。縄張りにやってくる人間に恐怖を与えていたが、ある時現れた最上には歯が立たず、降参する。しかも最上によってかなりの霊素を吸収されてしまう。



◀▲最上の圧倒的な強さと、成仏もできずに糧にされる恐怖に怯えるが、運良く逃げられた。この一件はエクボにとってトラウマに。

ただでさえ少ない霊力が……

なんとか消えずに済んだエクボは、小さな霊体の姿になってモブと行動する。しかしまたしても超能力者・テルによって一瞬で吹き飛ばされ、消えはしなかったものの、エクボの霊力は素粒子レベルにまで減ってしまった。



◀戦いたがらないモブに代わって、テルのうぬぼれを正そうとするが、サイコウェーブで消し飛ばされる。



▶自力で復活したものの、影山家に入れなくなるほど弱体化してしまった。その背中には哀愁が漂っている。

【爪】第7支部での死闘！

律が誇山にさらわれた際には、モブとテルとともに助けに乗り込んだ。守衛係の体に憑依したが、悪霊使いの魔津尾との戦いで壺の中に捕らえられてしまう。でもその結果、中にいた悪霊を食べて生き残り、霊力を少しだけ取り戻した。



◀【爪】第7支部で覚醒者達から念動圧の攻撃を受けるが、エクボは守衛係の潜在的な筋力を限界まで解放して蹴散らす。



▲魔津尾のもつ「蠱毒(こどく)の壺」に封じられてしまう。何百匹もの悪霊に狙われ、絶体絶命のピンチに！



▶壺の中の悪霊をすべて食べたエクボ。魔津尾に壺の封印を解かれたことで、無事にモブと再会。

霊使いが荒いんだよ！

霊幻からも認識されるようになり、モブのアルバイトを手伝う機会が増えていく。平気で使いパシリにしようとする霊幻とは接したくなくて、普段はステルスモードになっているが、モブに頼まれ結局あれこれさせられることに。



▶モブの頼みで仕方なく森羅万象丸のあとをつけていると、都市伝説のおひきさんと戦闘に！ 運動不足気味な彼の体は使いにくいようだ。

モブを救うために

最上の手から浅桐みのりを救うために、彼女の中に入り込んだまま、モブが一向に戻ってこないという事態が発生。モブはもう負けたに違いないと一度は諦めたエクボだが、霊幻の言葉で考え直し、モブを助けようとする。せっかくの霊力はまた減ってしまったが、エクボはそれを嘆いていない。



▲自分をいじめる生徒に対して凶行に走りかけたモブの前に、エクボが登場。でも、鼻水だと誤解されてしまった。



▶最上の言葉にのまれかけているモブにパンチ！ ショック療法としてこれまで貯めてきた霊力をぶつける。

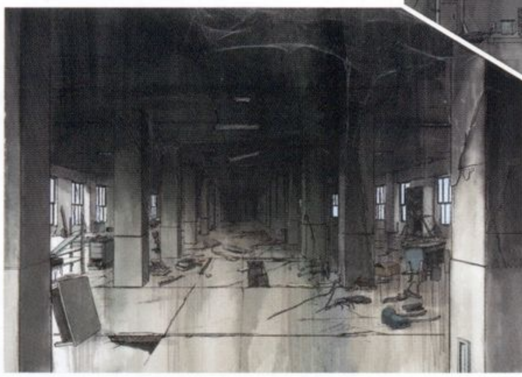
霊とか相談所 活動報告

HPを作ったことでさらに繁盛している「霊とか相談所」。ここでは霊幻達が除霊依頼を受けて赴いた場所の美術設定を紹介する。

天井破りが出現したビル

▼男の幽霊が出ると噂される廃ビル。ここで肝試しをすると、夢で幽霊に頭突きされるという被害が出ていた。





骨井戸トンネル



◀地元では有名な心霊スポット。閉鎖されて何年も経つが、肝試しに来た人間が行方不明になるなど悪い噂が絶えなかった。

聖ハイソ女学園



◀お嬢様ばかりが通う私立の女子校。ポルターガイストが多発していた。門には警備員が常駐しており、不審者には迅速に対応する。

畑

▼依頼人が暮らす家と、所有している畑。野菜の生気を奪う悪霊のせいで農作物は枯れてしまっている。



沼

▶深爪町にある沼。薄暗く、いかにもおひきさんが現れそうな不気味な場所。



森の廃屋



◀山奥にある寂れた家。心霊スポットではあるが、霊の気配はごく弱かった。家の前には手作りらしきブランコがある。

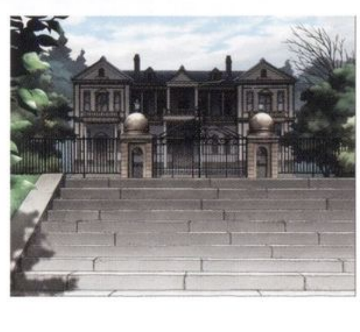
民家

▼子供によって顔に落書きされてしまった犬・テロルと、その飼い主の老人が暮らす家。霊幻とモブは庭でテロルを洗ってあげた。





浅桐邸



▶浅桐正志と、その娘のみのりが住む家。個人の持ち家とは思えないほどの豪邸。





エクボ役

大塚明夫 インタビュー

自分の心の中を見てみたらエクボと似た奴が棲んでいた

— 『モブサイコ100』という作品の印象をお聞かせください。

まず原作で目に入ってきたのは、この絵柄でした。そしてアニメではその絵柄の特徴を損なわず、なおかつ、スタイリッシュになっていく。そういうところが楽しかったですね。キャラクターに関しても、今時の漫画は普通の子供が何かの拍子に急に能力者になって、それから冒険が始まるというものが多いんですけど、『モブサイコ100』の場合は小さい時から能力があって「どうしたらいいのかわからない」と言って霊幻に泣きつくという、そこが物語の始まりで。それもまた、他と一線を画していて面白いなと。いわゆる主人公タイプのイケイケな熱い男でもなんでもなく、おとなしくて、すぐいじめられちゃうような少年が主人公というのも良かったんじゃないですかね。決して少年漫画の王道ではないですけど、そこが新鮮なところでもあったかなと思います。

— そんな主人公の相棒となるエクボも、見た目はまったくかっこよくないキャラクターですね。

むしろ楽しみだなと思いました。

— エクボというキャラクターの魅力は、どんなところだと思われますか？

エクボの魅力と言われると「悪いんだけど憎めない」というところしかないんじゃないかな（笑）。たとえて言うなら、イソップ童話の『狐と鶴のご馳走』の話に出てくる狐みたいな。自分はお皿でスープを飲んで、鶴が飲めないのを見て笑っているけど、今度は逆に鶴からツボで料理を出されて自分が食べられずに悔しがるという。あの狐よりは自分のほうが賢いなって子供の頃でも思ったものですが（笑）、そのくらいのレベルの小賢しさなんですよ。そういう小悪党な感じが、とてもいいんじゃないかと思います。それに、たしかに気持ち悪い顔をしているんですけど、そこがまたいいんでしょうね。普通、マスコットキャラってかわいいじゃないですか。エクボに関しては、かわいくもなんともないですからね（笑）。霊体なのに、ときどき手が生えたりしているし。

— エクボの役作りに関しては、どのようなことを考えられましたか？

「ずるい」ということですかね。その「ずるい」も、小ずるいんですよ。ちょっとずるいだけで、人より賢いつもりになって、それでいてぜんぜん賢くないという。

— ずるい大人と言っても、霊幻とはまた違ったタイプのような気もします。

霊幻のほうはエクボよりもうちょっとずるいかもしれないですね。……いや、同じくらいだな（笑）。でも霊幻はあれでけっこういいことを言うんですよ。第7支部を潰した時のセリフも「お前の言う通りだな」と思ったし。「この肩パッドはなんだ？」とか（笑）。相手はぐうの音も出なくなっちゃったじゃないですか。あれは本当に面白かったです。

— エクボを演じていて、難しいと感じられたところはありましたか？

どのお仕事でもだいたいそうなんですけど、「難しいな」と感じる時はたぶん自分の中に似た奴が棲んでいない場合なんだろうな。幸い、エクボの場合は似たような奴が自分の中に棲んでいた。だから「おーい、ちょっと出てこい」と言って（笑）。

— もしかしたら大塚さんに限らず、誰の中にもエクボはいるのかも？

自分ではふだん出さないけど、そういう面があるなって。エクボが何か言っているのを聞いて、皆さんにも共振していただけるような部分があればいいなと思います。

〝いい声〟だけでなくひとひねりを加えたい

— ナレーションも担当されましたが、エクボとの差は意識されましたか？

最初はけっこう差がついていたと思うんですけど、だんだんと差がつかなくなりましたね（笑）。ナレーションって不思議なもので、その時々のストーリーの流れに乗っかってやらなきゃいけない部分があって、そうするとエクボに近くなっちゃう部分も出てくるという。最後のほうは「もうしょうがない、目をつぶってもらおう」と思って（笑）。

— 監督や音響監督とのやりとりで印象的なものはありましたか？

残念だったのは、エクボが誰かに憑依した時に、その人っぽい声でしゃべるというのを2期では「ダメです」と言われたこと（笑）。普通に「エクボの声でやってください」と言われました。4話でモブに取り憑いた時も、モブっぽくやりたかったんですけど（笑）。

— 監督達には監督達の演出プランがあったのかもしれないですね。

でも15年間引きこもっていた芹沢の最後のシーン。星野貴紀さんのお芝居について、監督は最初NGを出していたようなのですが、「最初のほうがいいよ。絶対面白いよ」って言いくるめました（笑）。絶対やっぱり、現場で我々が見て笑っちゃうようなことは、視聴者が観た時に絶対笑う

インタビュー

エクボが何か言っているのを聞いて、皆さんにも共振していただけるような部分があればいいなと思います

はずなんですよ。ただ、その「予想していないところで笑う」という現象が、監督の場合は「ちょっと違うんじゃないか?」ということになるのかもしれません。「面白いんだけど、ストーリーがそっちに持っていかれちゃうと困る」みたいな。芹沢の時は最後のシーンだったから許してもらえたのかも(笑)。

——他にもアフレコ現場で印象的だったことはありましたか?

いちばん爆笑したのは1期の12話、第7支部の支部長・遺志黒です。岩崎ひろしさんは本当にすごかった(笑)。作画もそうとうぶっ飛んでいましたし、我々の想定の範囲をはるかに超えた芝居だったから、おかしくて、おかしくて……。

——大塚さんご自身は、そういう手応えを感じたシーンはありましたか?

1期のほうがエクボ自身の思いや主張が出るエピソードが多かったので、そういう意味では1期が印象に残っていますかね。言ってみれば最初はゲストのボスだったのが、レギュラーの脇役にスッと収まったみたいな感じで、だんだんポジショニングが堅くなってきているので。2期になると、本当にモブの隣でちょこちょこいるだけという。そのポジションから出ていないんですよね。

——1期のラストで霊幻にもエクボが見えるようになって、掛け合う相手も増えました。

霊幻とはね、お互いにお互いを不必要な存在として見ていますから(笑)。その関係性の中でのやりとりというのは、けっこう楽しかったですね。

——具体的に好きなシーンやエピソードはありますか?

僕はやっぱり、1期の3話の終わり。「いい朝だな、相棒」っていう、あそこは非常に印象に残っていますよね。これからシリーズを通して「よろしくね」という提示をしているセリフなので、どういうふうにやるかな? と思ったんですけど、へつらっているとかいうのではなくて、急に隣にちょこんと座っちゃう犬みたいな(笑)。「(犬の鳴き真似で)ハッ、ハッ、ハッ、ハッ」みたいに来られたら、ひっぱたくこともできないじゃないですか。

——あの顔を見ると普通はひっぱたきたくなりそうですけどね(笑)。

だから、図々しい物言いをしないように気をつけました。この仕事の面白いところは、書いてあるセリフをそのまま音にするだけでは成立しないんですよ。そうすると、アナウンサーの方がいちばん上手なことになっちゃうので、実は書いていない面をどうにじみ出させていくかというのが勝負だったりするんです。まっとうにいい声で言うんじゃなくて、ひとひねり欲しいなというのは、いつも考えていることですね。

——大塚さんは実写ドラマでもエクボの声を担当されました。

あれもなかなか面白かったですね。収録の時は僕のセリフだけピックアップしてバーッと録っちゃったんですけど、誰とも掛け合っていないというのは非常に残念ではありました。芝居があって、そこにツッコミを入れるほうが簡単なんですけどね(笑)。

もう一度、エクボの野望を取り戻したい

——「青春」が作品のテーマの一つですが、学生時代の思い出などは?

モブ達は中学生ですからね。僕は中学生の時はなんにもしてなかったですね。ただの中二病(笑)。元祖・中二病ですよ。

——お芝居の世界を志したのは、何かきっかけがあったんですか?

それこそなんの考えもなく、大学も途中で辞めてしまいまして。それで職業の選択肢がどんどん狭くなっていって、なるならミュージシャンか役者かなと思ったんだけど、楽器ができないからミュージシャンはダメだなと(笑)。役者なら日本語が話せればなんとかなるかもしれないという、その程度のレベルでしたね。

——では、この作品で描かれる青春は、大塚さんには眩しく見えますか?

眩しいですね。なんて言うんだろう? あんな超能力バトルがあるんだけど、健全な青春だなと思います。そういう意味では、学校をもっと楽しんでおけば良かったなという想いにもなりますね。学園ものからアクションもの、サイキックSF、成長物語と、いろんな要素がてんこ盛りになっていて。あまりないですよね、こういうアニメも。

——最後に『モブサイコ100』のファンに向けて一言いただけますか。

もっと観たいよね? 原作のまだやっていないところ、あるよね~(笑)。だから、みんなの力でこの続きを実現させられるように。「みんなで声を上げれば、夢は叶うかもしれないぜ!」という感じですかね(笑)。エクボも一通りいろんな敵と戦いましたけど、もう一度モブに取り憑いて、コントロールして……というのに挑むといいですよね。それをやらないとただのモブの子分になって終わりとなっちゃうので、最初にもっていた野望を忘れないために、そのあたりのエピソードをアニメで観てみたいなと思います。

大塚明夫
Akio Otsuka
---Profile---

おおつか・あきお/マウスプロモーション所属。近年の主な出演作は『どろろ』(寿海役)、『キャロル&チューズデイ』(ガス役)、『バキ』(範馬勇次郎役)ほか。

モブの一つ下の弟。成績は学年トップでスポーツ万能、さらにイケメンで女子にも人気。しかし、兄とは違って超能力をもっていないことに強いコンプレックスがあり、モブに対して心の底で怯えながらも、うらやんでいた。その反動からか、超能力に目覚めた時は、力に溺れモブを突き放す。その後、自分の人間味を認める兄の言葉に涙し、仲直りした。

Ritsu Kageyama

影山律

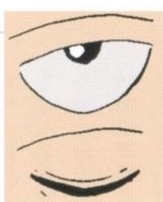
CV：入野自由

「何かあったら相談に乗るからね」

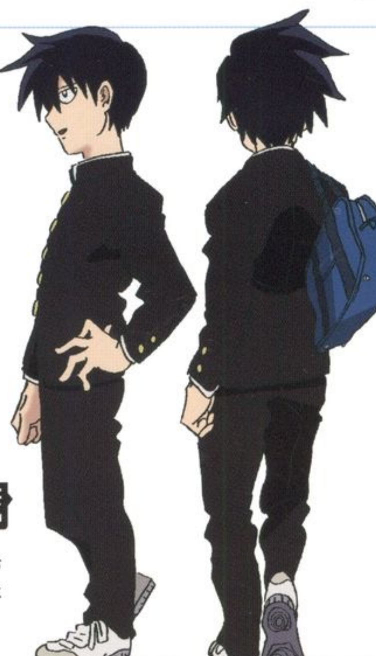


表情集

中学生ながらもしっかり者で、嫌だと思ったことはハッキリ断れる性格。表には出さないが、実はかなり負けず嫌い。







全身

すでにモブの身長を追い抜いており、立ち姿もシュッとしている。靴は同じものを私服の時も履いている。



Profile

- 年齢／13歳
- 身長／159.4cm
- 体重／45.0kg
- 血液型／B型
- 誕生日／7月2日

監督・立川 譲 コメント

1期でダークサイドに振れていくところにすごく魅力を感じました。不良をやっつけて優越感に浸っていたら、モブが代わりに謝って……あのあたりの心理描写が原作でも上手だと思っていました。1期でモブと和解したことで成長して、2期ではモブに憧れている理由が超能力ではないことに気づいたので、もう悩むことはあまりないだろうなとは思います。お兄ちゃんに対する思いが一途で、良いキャラですよね。作画的には、髪形のバランスが難しくて。2期ではちょっと髪の毛を切ったことにして少し描きやすい感じにまとめ直しました。

原作者・ONE コメント

最も身近で生活をしているモブの弟が、超能力をもっていなかったらどういう育ち方をするだろうかと考えた結果、超能力以外で兄より優秀になるだろう、しかしどうしてももたざるが故の悔しさは拭えないのではないか、そしてやや重めの歪みを隠しもつ優秀だが記号的な【良い弟】として本筋の流れに加わりました。その歪みはモブに本音をぶつけた以後も完全には消滅しないほうが人間らしい、律らしい、という感じがして、多少の負の部分があってこそ正の部分に安心感が増すのだなと。律が右を向いてる絵を描くのは苦手です。

優等生が追い求めたもの

全国模試で上位に入るほどの頭脳をもち、生徒会の活動をしている律。周囲から高い評価を得る一方で、律自身は幼い頃から、兄が操っていた超能力を自分が一向に使えないことに焦っていた。律はその思いを決して表には出さず、一人葛藤していた。



夜中に目が覚めた律は、ポーズをとりながら超能力で水を動かそうとする。普段の落ち着いている彼からは想像がつかない姿。



律の優秀さを認めている徳川から、兄の真似をしていることを指摘される。その言葉は、律の心に突き刺さる。



強いストレスが引き金となり、無自覚のまま超能力を得た律。家に入り込んだエクボを除霊しようと攻撃する。

兄と弟

いつも仲が良いモブと律。だが幼い頃に、暴走したモブの超能力で怪我をした律は、兄に対して恐怖を抱いていた。超能力を手に入れ、やっとモブに対抗できると思い、律はこれまでの思いを吐露する。しかしほどなく、超能力に頼らず、ひたむきに努力するモブの強さを知った。



気まずさを覚えながらも兄を心配する律と、ただ弟の無事を喜ぶモブ。正反対の二人だが、お互いを思い合う優しいところはそっくり。



律を守るために誇山に一方的に殴られるモブ。その光景に耐えられず、律は自らの身を差し出す。



生徒会長に再立候補した神室を、当初は応援していた。しかしモブの出馬を知り、律は光の速さでモブへの投票を決心!

律とショウ

超能力をもつモブが“世界の基本”だった律。兄以外にも超能力者がいるとは知らず、「覚醒ラボ」では驚いた表情を見せていた。そして律は超能力者との関わりを広げていく中で、家族に絶対的な超能力者をもつという、自分と同じ境遇のショウと出会う。



【爪】第7支部でショウと遭遇。律は星野達を逃がすために一人で挑むが、彼の超能力には敵わなかった。



暴走する父親を止めようとするショウに自分を重ねる律。彼を父親の元へ向かわせるために、一人で島崎に立ち向かう。



律の潜在能力はモブ以上だと語るショウ。その言葉はこれから父に挑む自分に発破をかけているようだった。

律の衣装設定



パジャマ

パジャマとして着ていた洋服。ズボンは部屋着と同じで、寝る時だけ上を着替えるようだ。



子供の頃①

高校生にお年玉をカツアゲされてしまった時の姿。正義感が強い律は彼らに食ってかかり、結果モブの暴走を招いてしまう。



部屋着

律が愛用している部屋着。落ち着いた緑色が似合う。モブの部屋着は1期で半袖も登場するが、律はいつも長袖を着ている。



超能力

超能力に覚醒した律の姿。学校改革で感じたストレスがきっかけだったせいか、表情が荒んでいる。



生徒会

生徒会の活動をする時は、制服の上から腕章を着けている。ちなみに、会議に出席しているのは男子のみ。生徒会執行部に女子はいないらしい。



私服②

【爪】本部との戦いに臨んだ時の服装。本来ならマラソン大会が終わったお祝いに、家族でたこ焼きを食べる予定だった。



子供の頃②

律が4歳の頃の姿。転んで気が動転したモブがおもちゃや弁当を飛ばしてしまうが、それを見て楽しそうにはしゃいでいた。



2期

実は律の設定画は2期でリライトされ、髪の毛の形と瞳が1期とは少々変わっている。ちょっとかわいらしい顔に。



私服①

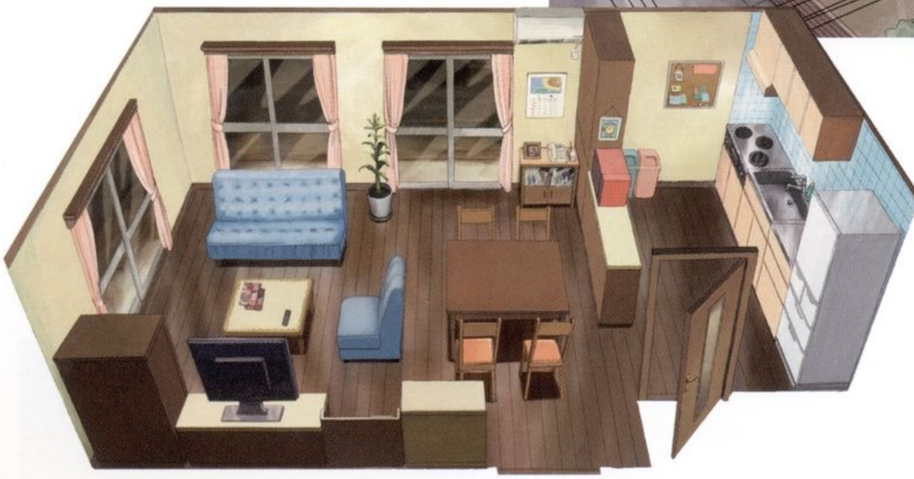
オレンジ色のパーカー。公園で神室と会った時や、モブに代わって霊とか相談所を手伝った際に着ていた。

美術紹介③

影山家

モブと律が両親と暮らしている家。夕食のテーブルは家族4人で囲んでおり、モブも律もきちんと家のことを手伝っていて、家族はみんな仲が良い。2期で一度全焼してしまったが、後に復元した。





◀▲住宅街にあるごく平凡な一軒家。モブが無意識に結界を張っているため、低級霊では家の中に入ることができない。

▼モブは布団で寝起きしており、起きた後は毎朝きちんとたたんでいる。机や本棚以外に目立つ物がない簡素な部屋。



モブの部屋





▼世界地図を勉強机の前に貼っているのが、成績優秀な律らしい。大きな本棚には本がぎっしり並び、壁には賞状が飾られている。

律の部屋



CV:中嶋佳葉/武藤与志則



影山兄弟の両親

兄弟の成長を優しく受け止めている両親。マラソン大会では、お父さんは会社を休んで応援に駆け付け、お母さんは兄弟の健闘に大喜びだった。【爪】との戦いの最中は、ショウの作戦で温泉旅行を楽しんでいた。

律の青春の過ち

長く憧れていたせいか、念願の超能力を手に入れた律は、その力を使って暴走することもあった。そんな律の思い上がりを正したのは、多くの出会いと他でもない兄・モブだ。ここでは影山兄弟の歩み寄りと、律の成長について紹介する。

幼い頃の憧れ

モブが扱う超能力をキラキラした眼差しで見つめながら、いつか自分も超能力を使えるようになるんだと信じてやまなかった律。憧れが増していくにつれて、自分が超能力を使えず涙する日もあった。しかし純粋な憧れは、モブの暴走を機に変化を見せていくことに……。



▶転んだモブが泣きじゃくり、宙に浮かせたおもちゃをキラキラした瞳で見る律。この頃から、モブは感情によって超能力が暴走してしまっていた。



▲幼い頃、迷子になった二人。しかし、律が持ち前の賢さで方角を導き出して、事なきを得た。優秀な律は、モブにとっても身近な憧れの存在だった。



◀モブの暴走で怪我を負った律。しかし律は、兄への気遣いと恐怖から、成長した現在でも真実を言うことができずにいた。

ようやく言えた本音

生徒会の学校改革は、律の超能力の覚醒につながった。そのことをのんきに喜ぶ兄の言葉に、律はいら立ちを見せる。超能力にこだわるあまり、律はいつの間にかモブがもつ人間味が見えなくなっていた。【爪】第7支部の戦いで、律はようやくその事実に気がつく。



▲【爪】第7支部に捕らえられ、超能力が使えない状況になっても、律がいるなら大丈夫だと言うモブ。兄のまっすぐな言葉に、律は涙を流した。



▲律の言葉に怒りも傷つきもせず、不良達に謝るモブ。律は驚きつつ、超能力以外での、兄がもつ凄さを知る。

応援したいけど……

律は小さい頃にツボミのマイペースさに振り回されたせいか、彼女に対して苦手意識がある。そのことから、兄の片思いを応援することに少し葛藤があるようだ。



◀モブがマラソン大会で10位以内を目指して特訓していることをエクボから聞かされ、家の手伝いを代わりにやることに。



▶兄の失恋を偶然知ってしまい、うなだれる……。ツボミの恋愛相談がその場ででっちあげた嘘だということを、律は知らない。

二人のこれから

互いに超能力を得たことで、二人の間にあった溝はなくなった。そして律は、超能力に頼らず生きようとするモブのひたむきさを尊敬するように。だが、それでも律はモブが暴走することを恐れている。ショウが父親を止めたように、律はモブを止められるのだろうか。



▶ヘロヘロになりながら走るモブ。一緒にいた神室はその様子を見て心配するが、律はすでに兄がもつ本当の強さを知っていた。



◀感情にのまれずに、鈴木統一郎を倒したモブ。疲れ果てて眠ってしまったモブを律が背負う。

塩中学校 学校案内

塩中学校は調味市にある市立の中学校。学業だけではなく多彩な部活動で豊かな心の育成を心掛けている。モブや律達の青春の舞台となる塩中学校の特色についてまとめた。



標準服



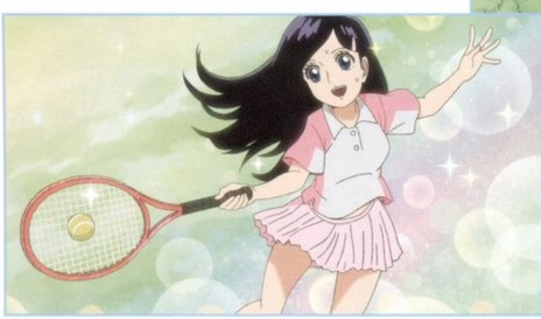
◀男子生徒は学ランで、女子生徒はセーラー服。身だしなみにはうるさくないようで、男子は思い思いのインナーでちょっとしたおしゃれを楽しんでいる。



▲体操服は全学年とも共通のデザイン。下はハーフパンツで統一されているようだ。

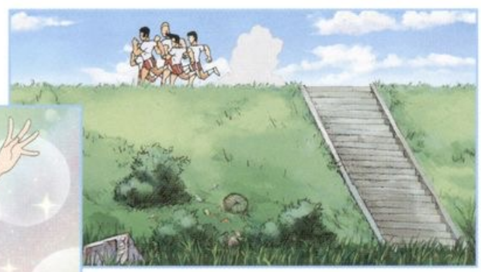
部活動紹介

部活動が盛んなことが塩中学校の魅力の一つ。5人以上の部員がいて、生徒会に申請が通れば活動が許可されるため、他校にはなさそうな個性的な部活動も。生徒達の多くは、部活で充実した放課後を送っている。



▲きちんとテニスウエアを着ていることから、ツボミはアニメでもテニス部らしい。汗をかいていてもさわやか。

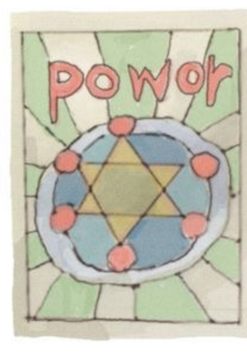
肉体改造部



◀自らの肉体を鍛えることを目的としており、主な活動内容は、早朝や放課後の走り込みや筋トレ。トレーニング合宿も行っており、ストイックに自分を磨きたい生徒におすすめ。

脳感電波部





▶テレパシーを感じるための修行をする部活。部室内に貼られているポスターには、スペルミスが見られる。

生徒会活動

全校生徒の投票で選ばれた生徒会長をリーダーに、より良い学校づくりのために活動している。生徒同士で協力し学校内の問題を解決するほか、部活動の管理も担っており、サボっていたり赤点の部員がいる部活には注意をしている。



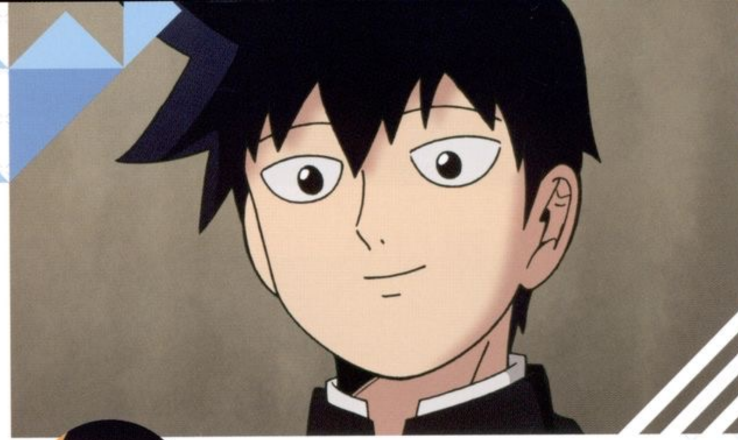
▲優秀であれば、学年は関係なく活躍できる。神室や徳川といった、学業に高い意欲をもつ生徒が多い。

学校行事

塩中学校の学校行事と言えば、なんといってもマラソン大会。特に、男子生徒は全学年300人で5kmにも及ぶ長距離を走るのが特徴。保護者の声援を受けながら、自己ベストに向けて生徒達はゴールを目指す。



◀日常から体力づくりに励んでいた生徒が輝く行事。モブはすぐに転んでしまったが、これまでの努力の成果を見せた。



影山律役

入野自由インタビュー



心に抱えた思いを素直に出して気持ち良く演じることができた

――『モブサイコ100』という漫画の最初の印象はいかがでしたか。

　この絵のタッチと物語の導入部分から、気軽に読めるギャグ作品なのかなという印象がありました。そういうつもりで読んでいたら「あれ？　あれ？」と、いつの間にかこのシュールな世界観やシリアスな物語に惹かれていって、一気に読んでしまったという感じでした。いい意味での裏切りが、すごく心地良かったです。

――律に関しては、どんな印象がありましたか？

　パッと見た中で、演じたいなと思ったキャラクターが律でした。役者としてやりがいがあるというか、絶対に面白いだろうな、と感じました。彼は優等生であり、日常を普通に過ごしていながらも、実は抱えているものがあって、そういう彼の〝揺れ〟というものが見ていて気になるなと。あんなに優秀な人でも、劣等感ってあるんだなと思いました。

――モブより律のほうがイケメンだし、なんでもできるし、劣等感なんて抱える必要はなさそうなのに……。

　それでもやっぱり、超能力を使いたかったんですよね。そこを隠して、うまく生きようとしているところが、実は彼を抑えつけている部分だったんだなと感じました。もっと自由になりたいのになれないというのは……なんと言ったらいいんでしょう？　でも、みんなが共感できる部分でもあるのかなと思います。

――入野さんも律に共感しながら役を作っていかれたのでしょうか？

　今回は〝普通〟ということを心がけていました。あまり考えすぎずに、特に序盤はいわゆる普通の少年を演じるというところを軸に作っていたので、そこから出てくる劣等感とか、彼が曲がってしまうところに関しては、意識しませんでした。

――演じていて難しかった部分は？

　彼のもつ二面性が出てくるところで、普段の優等生な部分との両極を出せた時には律を演じられて良かったなと思いました。歌うように語るシーンは演じていて優越感がありましたね（笑）。

――超能力に目覚めてからの律は、抑圧から解放されて、のびのびと振る舞っているようにも見えました。

　あまり「何かをしよう」というのを意識しすぎないようにしていました。たとえば彼がダークなところに入っていく時も悪者として演じるというよりは、もっと素直に表現していく。悪者を演じようとするのではなく、ちょっとした心の中にある思いを、一つ一つ拡大していくと、結果、そう見えるということだと思います。

優等生ではなかったけれど学園生活は楽しかった

――アフレコ現場での印象的な出来事をお聞かせください。

　個性的な俳優の皆さんがたくさん出演されていたので、アフレコ現場はすごく楽しかったです。その場にいて、収録を聴いているだけでも楽しかったですし、個人的には（大塚）明夫さんとレギュラーとしてご一緒できることがうれしかったですね。

――律の出番が増えるのは、1期の後半に入ってからでしたね。

　前半は日常の場面がほとんどだったので、他の人達が超能力を使って暴れたりしているのを見ると「いいなあ」とか思ってしまって（笑）。でも、律を演じていると日常も、ヒーローっぽいこともできるので、楽しかったです。

――入野さん自身として、モブに対する憧れのようなものはありますか？

　あの無敵感は、うらやましく思いますよ。自分も役者として声優だったり、舞台だったり、いろんなことをやらせていただいていますけど、自分の大好きなアーティストの無敵な姿を見た時に打ちのめされることがありますから。律を通してモブを見た時もそうですけど「どうせ俺なんか……」みたいな気持ちになるというか。

――圧倒的な力の差を感じてしまうというか。

　ああいう圧倒的なものになりたいなという憧れはありつつも、どこかで「絶対に無理だろうな」「いや、どうにかあそこまで……」という、心がモヤモヤすることが、自分はもちろん、律にも、みんなにもあることなのかもしれないですね。

――モブ自身も無敵でありながらモヤモヤしたものを抱えています。

　〝無敵には無敵ゆえの……〟というか、本人が無敵ということにあまり気づいていないのは、見ていて面白いところだなと思います。無敵をひけらかさないし、そういうところに律は「かっこいいな」と憧れるんでしょうね。

――超能力があっても、できないことはいっぱいある。

　「結局、好きな子には告白できないん

パッと見た中で、演じたいなと思ったキャラクターが律でした

だ」って（笑）。

―ちょっと力を悪用すれば、振り向かせることもできそうですけど。

そこが愛嬌というか、彼のいいところなんですよね。みんなが彼のことを好きな理由であり、少年漫画の主人公たる所以なんだろうなと思います。

―律と比べてみて、入野さんはどんな学生時代を過ごされていましたか？

こういう優等生な部分は、あまりなかったんじゃないかな？　でも、学校では比較的ちゃんとしていたほうだと思いますよ。運動は得意ではあったけど、勉強はこんなにできなかったし、もうちょっとクラスの中でワーッとなっているタイプでしたね。こんなにシリアスな子ではなかったです（笑）。すごく楽しい学園生活を過ごしていました。

―学生の頃からお仕事はされていましたよね？

はい、していました。学業優先で活動していましたし、周りのみんなも温かく見守ってくれたというか……まあ、「僕の記憶の中では」ですけど（笑）。いい友達ばかりでした。

―普通の学生としての青春を謳歌されていた？

仕事をしているとか、していないとか関係なしに、中高ともに学生らしく過ごしていたかと思いますよ。

主役ではないヒーローに子供の頃から憧れていた

―1~2期を通して、お好きなシーンなどがあれば教えてください。

やっぱり1期の律が覚醒するところですね。彼の「なんでできないんだ!」という部分と「いや、それでも無敵だ」という、心がグチャグチャにかき乱されるところが見ていて面白いなと思いました。せっかく自分が憧れていたものを手に入れたのに、今まで平穏に過ごしていたものが乱されるという矛盾を強く感じて……。あの7話の電信柱の上に立っているところも好きでした。僕は子供の頃から、戦隊ものでいえばレッドじゃなくてブルーかブラックみたいなキャラに憧れていたんですよね。でも、自分が声優としていろんなキャラを演じていく中で、こういう役はなかなか来なかったんです。

―ルックス的には律が主人公でもおかしくないところではありますが、この作品ではブルーのポジションに収まっているという。

そんな彼がブワーッと感情を出すところが、またいいですよね。

―そこから兄との対立・和解を経て、それ以降はグチャグチャになった気持ちも落ち着いていったという感じでしょうか？

この事件があった後は、それまで以上にモブのことを理解できる人間になったように感じます。超能力が使える＝それだけのパワーをもつということに対して、ただの憧れだけじゃなくて、苦しみが理解できるようになって。しかも唯一の兄弟だから特別な存在になれた。それはみんなにとっていいことであり、彼も山を乗り越えたと思います。

―むしろ過保護というか、兄さんを心配しすぎなところもあるというか……。

その兄弟愛みたいなものも、見ていて“いいな”と思いますね。

―2期で言えば、ショウとの共闘もありました。

ショウはお父さんが絶大な力をもっていて、そこに対する一つの恐怖というか、いつ暴走するかわからないものと一緒にいる。そういった意味で同じような境遇の律と通じるものがあったんじゃないかなと思います。彼との共闘という部分でいえば、少年漫画の王道でありカタルシスだと思います。

―実は『モブサイコ100』って、かなり王道な少年漫画でもあるんですよね。

いいセリフもすごく多いし、何気ない言葉の中にも大切なことがいっぱい詰まっていると思います。

―入野さんの心に残ったセリフはありましたか？

霊幻さんのセリフでけっこうあります。1期のラストで【爪】のアジトに乗り込んでからのシーンでも彼の思っていることがいろいろ聞けて、嘘なのか本当なのかという危うさの上に大切な言葉があるような、そのアンバランスさが面白いなと思いました。

―既にアニメの放送は2期まで終わってしまったわけですが……。

原作も完結していますし、なかなか難しいとは思うんですけど、ちゃんと最後までアニメとしても完結させることができればいいなとは思います。

―それはファンの皆さんも同じ気持ちだと思います。

チームみんなが一丸となって作っていますし、続けていくためには皆さんの声援が必要だと思うので、今後もぜひ応援していただきたいなと思います。

入野自由
Miyu Irino
--- Profile ---
いりの・みゆ／ジャンクション所属。近年の主な出演作は『さよならの朝に約束の花をかざろう』（エリアル役）、『聲の形』（石田将也役）、『おそ松さん』（松野トド松役）ほか。